

早稲田キャンパス
1号館

2024年度 早稲田大学 学生生活・学修行動調査／卒業時調査 報告書

*Report of the AY2024 Waseda University Student Survey &
Graduation Year Survey*



CHES

Waseda University Center for Higher Education Studies
早稲田大学 大学総合研究センター

本報告書の概要

本書は、2024 年度末に実施した「学生生活・学修行動調査」および「卒業時調査」の報告書である。1 章から 3 章では、学修成果の可視化や留学経験に着目した分析結果について示した。また、「集計データ」部では、グラフ（日英併記）、集計表によって調査全体の結果を示した。本調査の対象者数は、45,245 名、回答者数は 15,379 名であった（回答率：34.0%）。本調査に協力してくれた学生の皆さんに感謝いたします。

第 1 章 学修成果の可視化：学年比較

本学のディプロマ・ポリシー（DP）に基づく 13 項目の学修成果について、学年別の獲得状況を示した。

その結果、本学学生は、「物事を論理的に考えることができる」などについて、入学時にすでにある程度獲得している者の割合が高いことが示された（1 年生（入学時）81.7%→4 年生：89.9%）。

他方、「自分の専門に関する知識」については、図 1 に示すように大学入学時の獲得状況はそれほど高くはないもの

の（47.8%）、4 年生の卒業時までに着実に獲得している（80.4%）ことが示唆された。

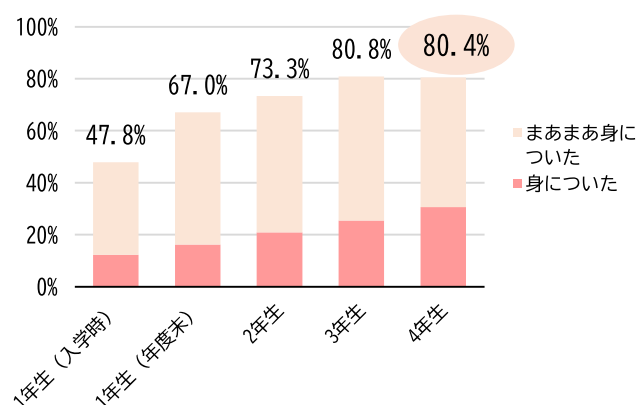


図1 「自身の専門に関する知識」

第2章 大学院生を対象とした学修成果の分析

大学院生を対象として、学修成果の獲得状況について確認したところ、学修成果 13 項目のうち、「物事を論理的に考えることができる」など 8 項目については、修士修了時（修士 2 年）において 90%以上の者が獲得したと認識していた。他方、「外国語を理解し、話せる」については、学年が上がるにつれて、獲得したと考える学生の割合が下がる傾向があることが示された。

第3章 留学に関わる現状分析：経験・意識・学修成果

本学学生の留学に関する実情を明らかにするために、留学経験や留学しない理由、留学経験と学修成果、進路別の留学経験者の割合など基礎的分析を行った。4 年生を対象として進路別に留学経験者の割合を確認したところ、本学学部から本学大学院に進学する者において、留学経験者の割合が低いことが明らかになった（図 2）。本章で示した学生の実情を踏まえた留学支援策が求められる。

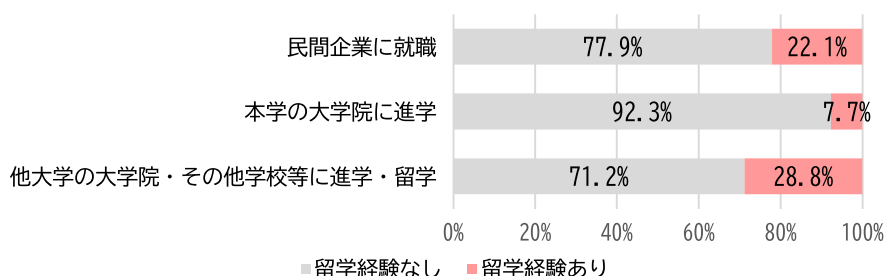


図2 留学経験者の割合（進路別）

第4章 AI の利活用（速報）

2024 年度調査より新たに追加した、学生の AI の利活用に関する質問項目を用いて、AI の利活用の状況と学修成果や学修行動との関連について、速報としてまとめた。

Summary of the Report

This report presents the findings and data of the “Student Survey” and “Graduation Year Survey” at AY2024. Chapters 1 through 3 detail the results on learning outcomes, study abroad experiences and related topics. The “Data” section provides the aggregated results with graphs (in both Japanese and English) and tables. The eligible participants were 45,245, and 15,379 students responded (response rate: 34.0%). We sincerely appreciate the participation of all students in these surveys.

Chapter 1: Visualizing Learning Outcomes

We examined students’ acquisition trends for the 13 learning outcomes defined in our Diploma Policy (DP). The results indicate that a high proportion of students think they already achieve a certain level upon entry, such as “Think logically” (Freshman upon entry: 81.7%; Senior: 89.9%).

Conversely, as shown in Figure 1, the percentage of students who had acquired “Knowledge of one’s own expertise” was relatively low at the time of entry (47.8%). However, the findings suggest that students gradually develop this competency, reaching 80.4% by graduation.

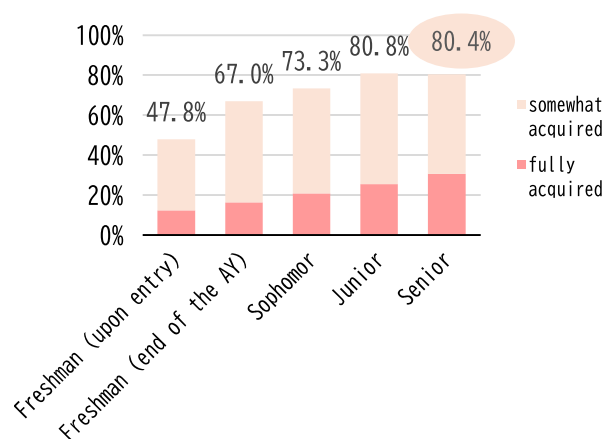


Figure 1: “Knowledge of one’s own expertise”

Chapter 2: Analysis of Learning Outcomes of Graduate Students

A further analysis of learning outcomes among graduate students revealed that, for 8 out of 13 items-such as “Think logically”-over 90% of students perceived they had acquired these competencies by the end of their master’s program. In contrast, the percentage of students who reported having acquired the skill of “Understand and speak foreign languages” showed a declining trend.

Chapter 3: Analysis of Study Abroad: Experience, Attitude, and Learning Outcomes

We analyzed students’ study abroad experiences, reasons for not studying abroad, and the proportion of students with study abroad experience by career path. Among senior students, the proportion of those with study abroad experience was found to be relatively low among those planning to enter our university’s graduate school (Figure 2). This suggests that study abroad support plans should be reconsidered in light of the actual circumstances of our students.

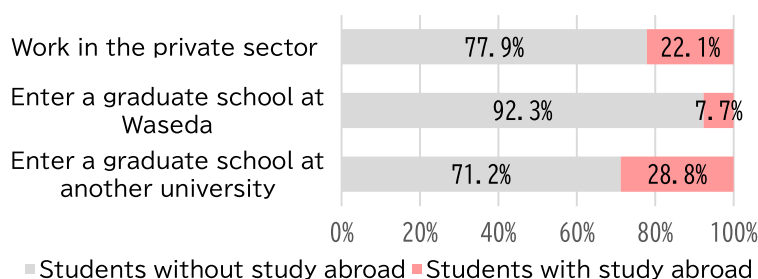


Figure 2: Ratio of students with study abroad experience

Chapter 4: AI Use (Brief Report)

Using questionnaire items on students’ AI use that were newly added to the 2024 survey, this chapter provides a brief report summarizing the status of AI use and its associations with learning outcomes and learning behaviors.

目次

序章 調査概要と対象について	p. 4
序-1. 調査概要	p. 4
序-2. 調査対象者の概要	p. 5
第1章 学修成果の可視化：学年比較	p. 7
1-1. 本章の目的	p. 7
1-2. 分析対象・分析方法	p. 7
1-3. 学修成果の変化の概要（1年生・4年生比較）	p. 8
1-4. 学修成果の学年別比較	p. 9
1-5. まとめ	p. 12
第2章 大学院生を対象とした学修成果の分析	p. 14
2-1. 本章の目的	p. 14
2-2. 分析対象・分析方法	p. 14
2-3. 大学院生の学修成果の学年別比較	p. 14
2-4. まとめ	p. 16
第3章 留学に関わる現状分析：経験・意識・学修成果	p. 18
3-1. 本章の目的	p. 18
3-2. 分析対象・分析方法	p. 18
3-3. 留学経験／留学希望	p. 19
3-4. 留学しない理由／経済的な支援の希望	p. 20
3-5. 留学経験と学修成果	p. 22
3-6. 進路と留学経験	p. 24
3-7. まとめ	p. 25
第4章 AI の利活用（速報）	p. 26
4-1. AI 利活用の状況	p. 27
4-2. AI 利活用と学修成果や学修行動との関連	p. 32
4-3. まとめ	p. 35
4-4. 資料	p. 36
集計データ	p. 37
I. 調査概要	p. 37
II. 調査項目一覧	p. 37
III. 調査データ〈グラフ〉	p. 40
IV. 調査データ〈単純集計表〉	p. 61

序章 調査概要と対象について

学生生活・学修行動調査は、2019 年度まで 38 回にわたって行われてきた学生生活調査を継承し、2020 年度から大学総合研究センターが企画、実施してきた。2024 年度の学生調査はこれまでとは異なり、「学生生活・学修行動調査」と「卒業時調査」の 2 つの調査に分けて実施した。

これらの調査については大学総合研究センターが実施し、データ分析・報告書執筆については、同センター武藤浩子が序章、第 1 章、第 2 章、第 3 章を担当し、同センター山田寛邦が第 4 章を担当し、学生スタッフ中野寧朗・川又亮が分析補助・集計データ作成を担当した。

序-1 調査概要

2024 年度の学生調査は、前述の通り「学生生活・学修行動調査」と「卒業時調査」の 2 つの調査とし、調査期間は年度末に変更して実施した。調査対象者については、「卒業時調査」は学部卒業・大学院修了が決まった学生とし、「学生生活・学修行動調査」はそれ以外の在学生とした。質問文・選択肢は日本語・英語の 2 言語で作成しており、回答時に学生が言語を選択できる。オンライン調査ツールである Qualtrics（クアルトリクス）を用いて調査を実施した。

【対象者】	「卒業時調査」： 学部卒業・大学院修了が決まった学生 「学生生活・学修行動調査」： 上記以外の在学生 (昨年度：全在学生を対象として「学生生活・学修行動調査」を実施)
【調査時期】	「学生生活・学修行動調査」： 2025 年 3 月 7 日～4 月 7 日 「卒業時調査」： 2025 年 3 月 7 日～3 月 21 日 (昨年度：2023 年 6 月 23 日～7 月 21 日に「学生生活・学修行動調査」を実施)
【調査方法】	Web アンケート URL を学生の登録メールアドレスに送付 (昨年度：上記と同じ)
【対象者数】	45,245 (昨年度：46,112)
【回答数】	15,379 (昨年度：13,175)
【回答率】	34.0% (昨年度：28.6%)

ここで各調査における調査対象者と調査時期について改めて確認しておく。

次の表序-1 では、4 月入学者が学部 4 年生で卒業、大学院修士課程を 2 年で修了した場合の調査時期について示している。なお、ここでは示していないが大学院（博士課程）も調査対象である。

本報告書の第 1 章では、「学生生活・学修行動調査」「卒業時調査」とともに、2024 年度「新入生調査」のデータも併せて用いた。この「新入生調査」は 2024 年度からはじめたものであり、「新入生調査」と「学生

生活・学修行動調査」の1年生データを用いることで、本学の学生が大学1年生の1年間でどのように変わったのかについて示すことができるようになったことを強調しておきたい。

表の★は「新入生調査」、●は「学生生活・学修行動調査」、■は「卒業時調査」の調査時期を意味している。この表からわかるように、学部・大学院の1年生に対しては、4月（「新入生調査」）と3月（「学生生活・学修行動調査」）の2回、調査を実施した。また、2年生、3年生には「学生生活・学修行動調査」を、卒業が決まった4年生・修士2年生には「卒業時調査」を実施した。

表 序-1 調査対象者と調査時期

学部								大学院（修士課程）			
1年生		2年生		3年生		4年生		修士1年生		修士2年生	
4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月
★	●		●		●		■	★	●		■

＊★：「新入生調査」、●：「学生生活・学修行動調査」、■：「卒業時調査」

調査にあたっては、全学の幅広い大学政策に資するような調査分析を行い、教育の一層の充実を通して、学生の成長に繋げ、それらを早稲田大学のステークホルダーに対して示すことを目的とする。

序-2 調査対象者の概要

本報告書で取り上げる調査対象者の概要について示す。「学生生活・学修行動調査」「卒業時調査」は別調査として実施したが、分析にあたっては、この2つの調査データを統合したデータを用いる。調査対象者は、本学に在籍している学生であり、学年別の回答者数は次のようになった（表序-2）。なお、学部4年生以上の学部生は学部4年生に、修士2年生以上の大学院生（修士）は修士2年生に含めている。

表 序-2 回答者数（学年別）

回答者数		回答者数	
学部1年生	3,465	修士1年生	908
学部2年生	2,713	修士2年生	1,655
学部3年生	2,134	博士	829
学部4年生	3,675		
合計		15,379	

従来の調査においては、学部1年生で回答者数が多く、2年生以降は回答者数が下がる傾向があった。

そこで今回の調査では、学部卒業・大学院修了が決まった学生を対象として、「卒業時調査」という調査名で調査を実施することとした。その結果、学部4年生、および修士2年生の学生において、回答者数が増加したことを補足しておく。

次の図序-1では、回答者の学部について、回答者の割合と母集団の割合を示した。なお大学院については回答者が少ないこともあり示していない。

このグラフからもわかるように、商学部ではやや回答者が少なく、人間科学部（通信教育課程）でやや多い傾向がみられたものの、回答者が極端に多い、もしくは少ない学部はなかった。

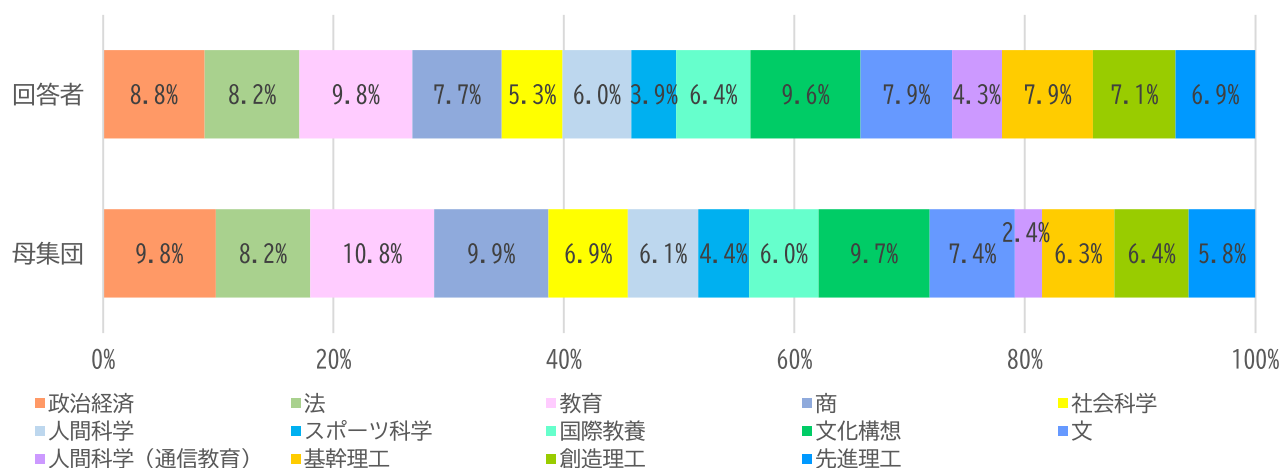


図 序-1 回答者の所属学部（母集団との比較）

第1章 学修成果の可視化：学年比較

1-1. 本章の目的

これまでの「学生生活・学修行動調査報告書」でも、本学のディプロマ・ポリシー（DP）に基づいた学修成果の変化について検討してきた。たとえば、「2023 年度学生生活・学修行動調査報告書」では、2020 年度入学者でかつ 4 年間継続して回答した学生を対象として、学修成果の推移を示した。しかし、この「4 年継続して回答した学生」は、全学生の 5%程度に留まるとともに、これらの学生は GPA が高く、真面目という特徴があった。つまり「2023 年度学生生活・学修行動調査報告書」では、成績が良く真面目な学生の学修成果の推移を示したということになる。しかしそのような限定をせずに、本学の多様な学生を対象とすることで、早稲田大学における学生の学びの実情を示すことができるのではないかと考える。

そこで本章では、学部生を対象として、本学のディプロマ・ポリシー（DP）に基づいた学修成果が学年によってどのように変化するのか明らかにしていく。なお、ここでいう学修成果は、学生の自己認識という主観的な評価であることを意識しておく必要がある。このような留保がつくものの、本分析は本学における学生の成長の様相を示す基礎的資料となるだろう。

1-2. 分析対象・分析方法

分析対象とするのは、2024 年度末に実施した「学生生活・学修行動調査」「卒業時調査」の学部生の回答である。また、2024 年度入学者を対象として実施した「新入生調査」（調査時期：2024 年 4 月 3 日～5 月 10 日）のデータを併せて用いる。これによって、大学入学時から大学卒業までの学修成果の獲得状況について確認していく。

学修成果は、本学のディプロマ・ポリシー（DP）に基づく「新しいことに挑戦できる」「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」など 13 の項目を対象として、次のような順番で分析を行う。

- 学修成果の変化を概観するために、1 年生と 4 年生を比較する。
- 学修成果について、1 年生（入学時）、1 年生（年度末）、2 年生、3 年生、4 年生と学年による比較を行う。

学修成果については、「いま現在、次のようなこと（知識・能力）は、どれくらい身につけていると思いますか」のように問うたうえで、「新しいことに挑戦できる」など 13 項目について尋ねた。選択肢は、「身につかなかった」「あまり身につかなかった」「まあまあ身についた」「身についた」のように 4 件法とした。本章では、このうち「まあまあ身についた」「身についた」と回答した学生の割合をグラフで示すことで、学修成果の獲得状況について確認していく。なお、本報告書では、「まあまあ身についた」「身についた」を併せて、獲得したという言葉を用いて説明することがある。

1-3. 学修成果の変化の概要（1年生・4年生比較）

学修成果の変化を、大学1年生と4年生とを比較することによって概観しよう（図1-1）。

まず、「新しいことに挑戦できる」をみると、「まあまあ身についた」「身についた」と回答した学生が、1年生では80.7%、4年生では87.9%と、1年生よりも4年生で「新しいことに挑戦できる」（これを獲得した）と答えた学生が増えていることがわかる。この傾向は他の項目でもみられ、「新しいことに挑戦できる」も含めて11項目で、1年生より4年生において獲得したとする学生の割合が高くなっている。

一方、「異文化を理解できる」については、1年生と4年生でほぼ差がなく、「外国語を理解し、話せる」については、4年生のほうが獲得したとする学生の割合が低い。前述の「2023年度学生生活・学修行動調査報告書」でも、「外国語を理解し、話せる」は、学年が上がるにつれ獲得したと回答する学生の割合が少なくなるという同様の傾向が示されていた。

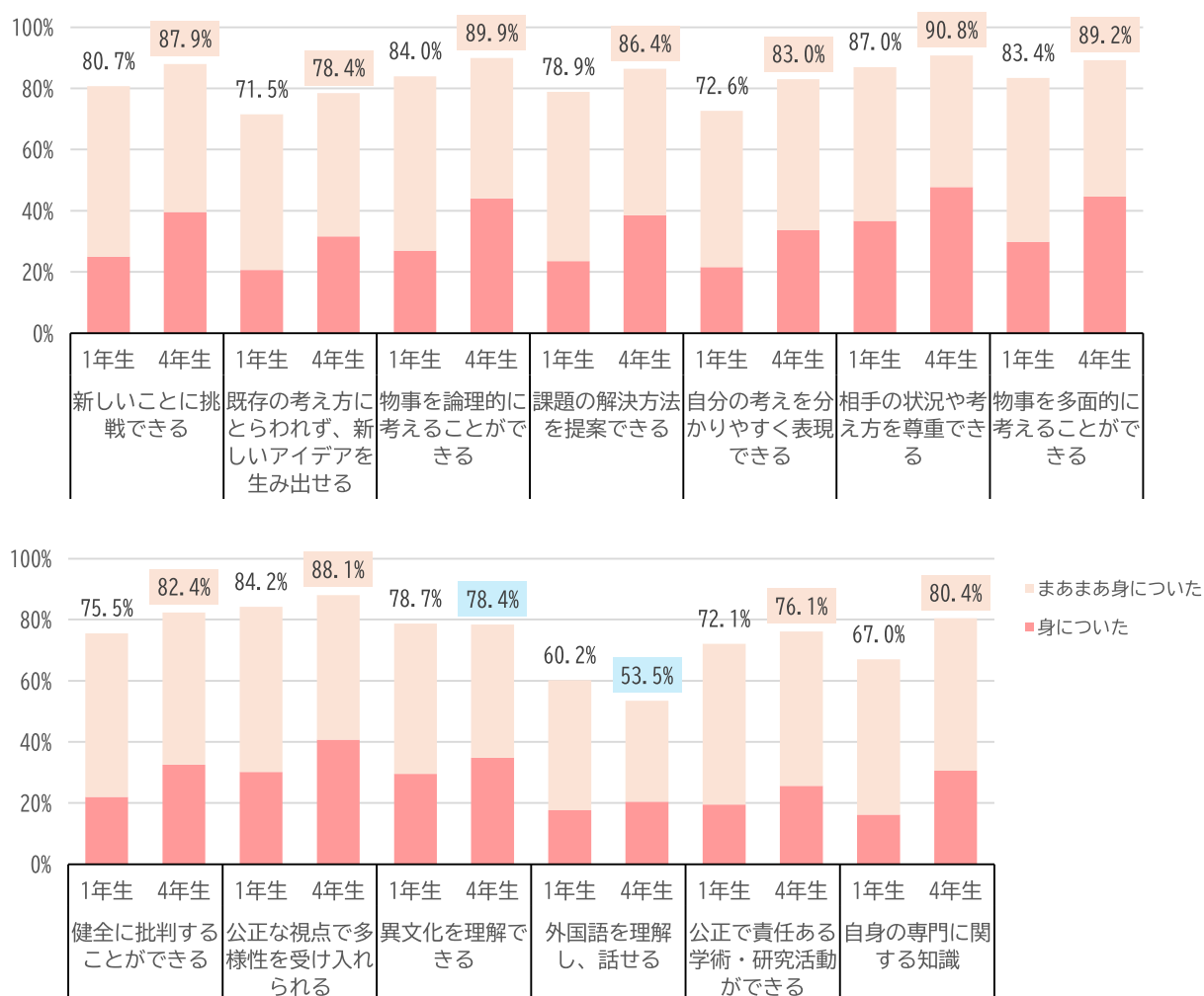


図 1-1 学修成果の概要（1年生・4年生比較）

このように「外国語を理解し、話せる」については課題がみられるものの、本学では、大学1年生から4年生までの間に、さまざまな学修成果を獲得している学生が多いと考えられる。

次に、これらの学修成果の推移について、より詳細にみていこう。

1-4. 学修成果の学年別比較

「学生生活・学修行動調査」「卒業時調査」、および「新入生調査」のデータを用いて、1年生（入学時）、1年生（年度末）、2年生、3年生、4年生の学修成果を示す。この1年生（入学時）、1年生（年度末）は、ともに同じ2024年度入学者を対象としており、この差に着目することで大学1年生での1年間の成長の様子をうかがうことができる。

図1-2は、3つの項目（「新しいことに挑戦できる」「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」「物事を論理的に考えることができる」）について示したものである。

まず、いずれの項目でも、1年生（入学時）より4年生で、その学修成果を獲得したとする学生が増えていることがわかる。とくに、「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」は、1年生（入学時）63.4%から4年生では78.4%と、15ポイント増加している。

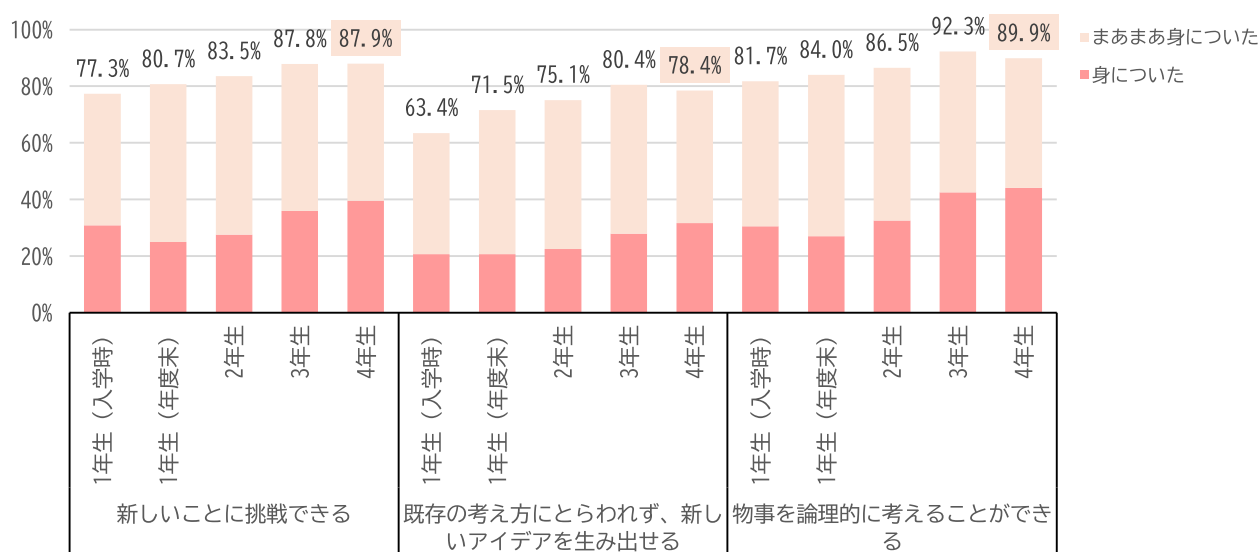


図 1-2 学修成果の推移 (1)

続けて、これ以外の項目についてもみていこう (図1-3、図1-4)。

「課題の解決方法を提案できる」「自分の考えを分かりやすく表現できる」、また「物事を多面的に考えることができる」「健全に批判することができる」については、学年があがるにつれて増加傾向がみられる。他方、「相手の状況や考え方を尊重できる」「公正な視点で多様性を受け入れられる」については、それほど目立った増加傾向はみられない。

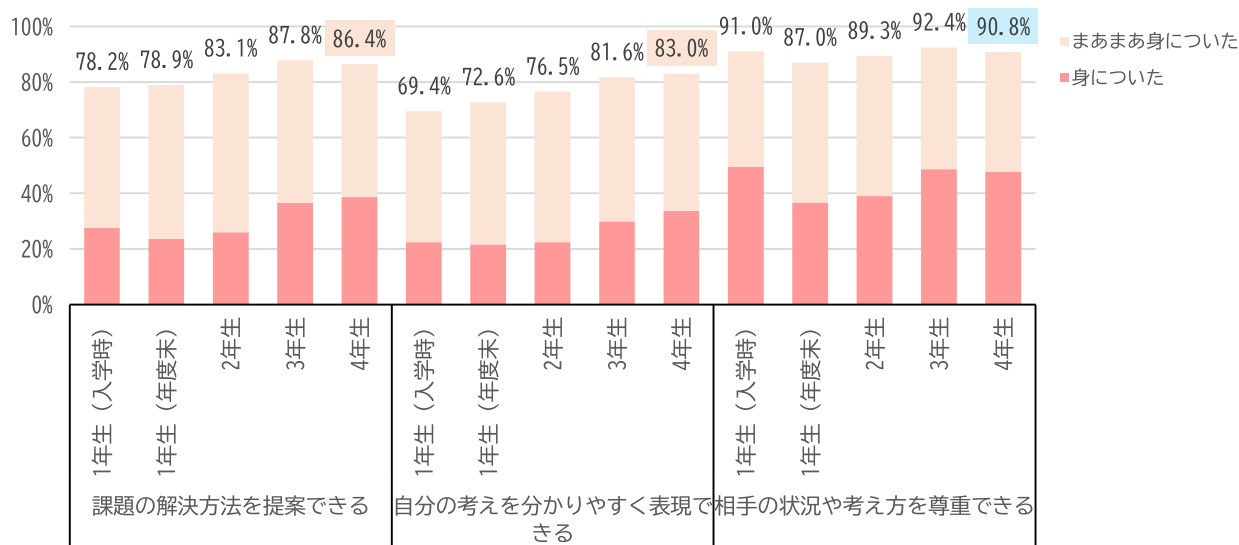


図 1-3 学修成果の推移 (2)

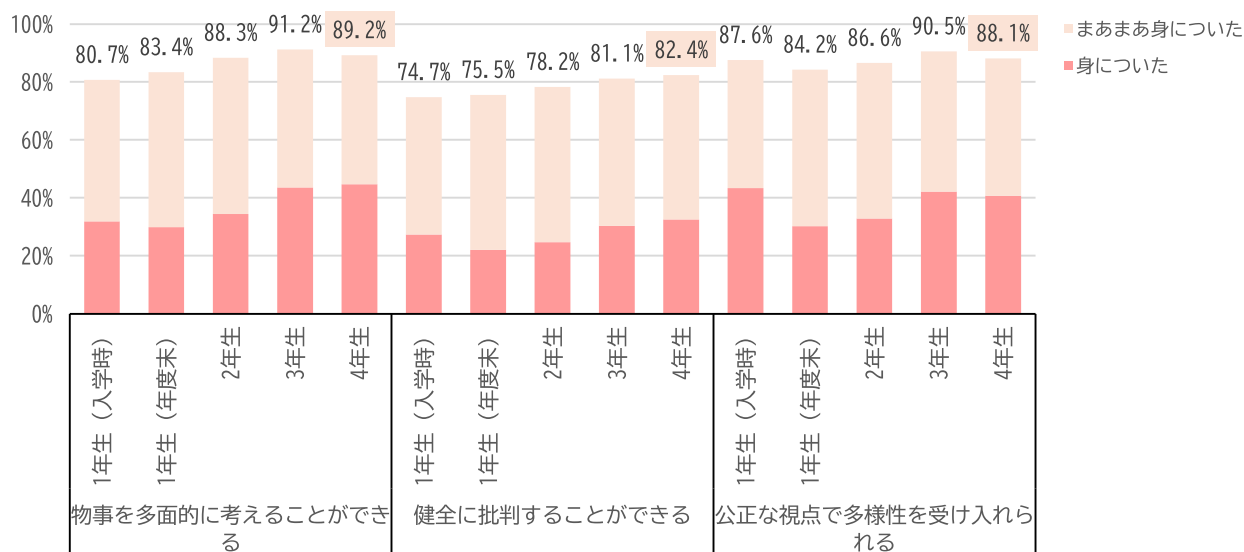


図 1-4 学修成果の推移 (3)

では残りの4項目をみていこう。まず、図1-5の「異文化を理解できる」は、1年生（入学時）がもっとも高く（87.9%）、1年生（年度末）で下がり（78.7%）、それ以降ほとんど差がみられない。

「外国語を理解し、話せる」について、前節の図1-1を振り返ると、1年生と4年生を比較すると、4年生のほうが低かった。しかし、図1-5では、少し異なる様相がみられた。大学に入ったばかりの1年生（入学時）でもっとも低く（51.4%）、1年生（年度末）で約9ポイント上がっていた（60.2%）。

しかし、それ以降、2年生、3年生、4年生と学年が上がるにつれて、獲得したと答える者の割合が下がっている。この1年生（入学時）から1年生（年度末）の約1年の間で、「外国語を理解し、話せる」とした

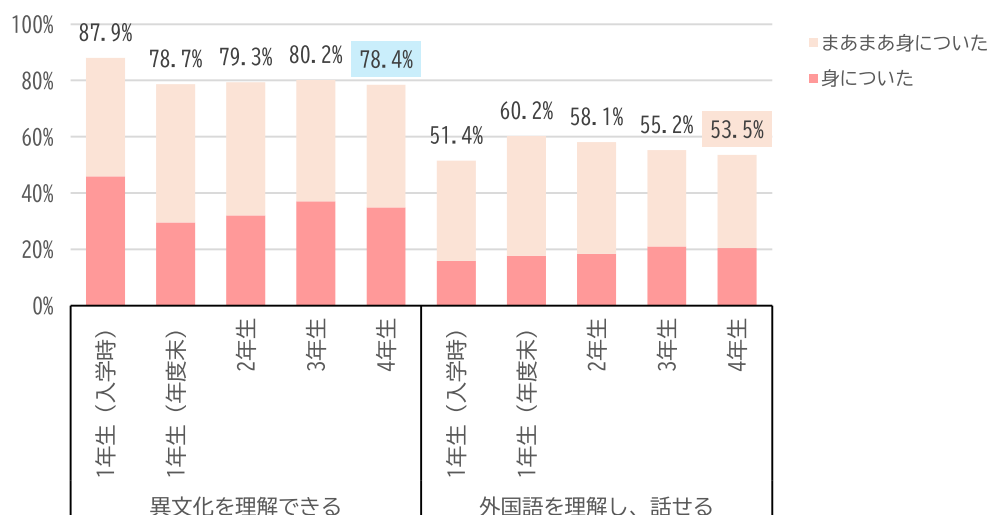


図 1-5 学修成果の推移 (4)

者の割合が上がった要因として、大学1年生のときに外国語の授業を履修することで、外国語の運用能力を身につけたと感じる学生が年度末までに増えたということも考えられそうである。

次に図1-6をみると、「公正で責任ある学術・研究活動ができる」では、学年による違いは明確ではない。大学の専門教育に関わる「自身の専門に関する知識」をみると、1年生（入学時）から4年生までの間に大きく増加していることがわかる。1年生（入学時）には、47.8%と半数に満たなかったものの、1年生（年度末）には67.0%と約20ポイント増え、2年生で73.3%、3年生、4年生では80%以上となっている。

本章で取り上げた本学のディプロマ・ポリシー（DP）にもとづく13項目のうち、1年生（入学時）と4年生の比較でもっとも伸びが大きいのが、この「自身の専門に関する知識」である。本学の学生は、大学1

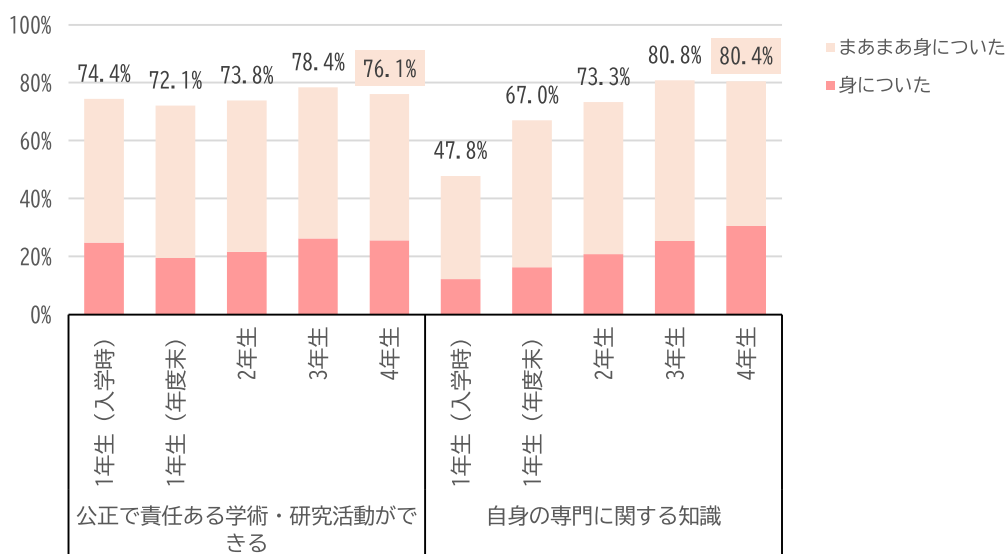


図 1-6 学修成果の推移 (5)

年生のときに自分の学部の専門に触れることで、「自身の専門に関する知識」が身についたと感じ、その後も専門に関する知識を身につけていくという傾向があると考えられる。

1-5. まとめ

本章では、本学のディプロマ・ポリシー（DP）に基づいた学修成果に着目し、学年による違いについて分析した。

本章の分析で示されたのは、学生の多くが、本学に入学し卒業するまでに、さまざまな学修成果を獲得したと認識していることである。とくに次の8項目では、学年が上がるにつれて身についたとポジティブに回答する学生が増える傾向がみられた。

「新しいことに挑戦できる」

「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」

「物事を論理的に考えることができる」

「課題の解決方法を提案できる」

「自分の考えを分かりやすく表現できる」

「物事を多面的に考えることができる」

「健全に批判することができる」

「自身の専門に関する知識」

他方、本学の学生には、入学したときから、すでにこのような学修成果を身につけていると認識している者も少なくない。たとえば、1年生（入学時）からポジティブに回答する学生の割合が80%を超える項目をあげると、「物事を論理的に考えることができる」（81.7%）、「相手の状況や考え方を尊重できる」（91.0%）、「公正な視点で多様性を受け入れられる」（87.6%）、「異文化を理解できる」（87.9%）の4項目であった。本学の学生は、大学入学までに、このような資質・能力を身につけていると自己認識しているようである。

他方、DPに関わる13の学修成果のなかで、大学4年間でもっとも増加していたのは、「自身の専門に関する知識」であった。また大学1年生の1年間だけをみても、1年生（入学時）の47.8%から、1年生（年度末）の67.0%へと約20ポイント増えていた。また、2年生では73.3%、また3年生、4年生では80%以上となっていた。この「自身の専門に関する知識」について、学部による違いはあるのかという疑問も浮かぶ。この分析については今後の課題としたい。

* * *

ここでひとつ強調しておきたいのは、大学総合研究センターでは、2024年度に新しく「新入生調査」を実施したことにより、「新入生調査」「学生生活・学修行動調査」の2つの調査によって、大学1年生（入学時）と1年生（年度末）の2時点の比較ができたということである。

これによって、たとえば「外国語を理解し、話せる」については、1年生（入学時）の51.4%から、1年生（年度末）の60.2%へと、大学の最初の1年間で約9ポイント上がっていたことが明らかになった。このように大学初年次における学生の成長を捉えることができたのは、「新入生調査」「学生生活・学修行動調査」の2つの調査を実施したことの意義といえるだろう。

第2章 大学院生を対象とした学修成果の分析

2-1. 本章の目的

前章では学部生を対象として、本学のディプロマ・ポリシー（DP）に基づいた学修成果の獲得状況が学年によってどのように変化するかを分析した。本章では、大学院修士課程の学生を対象として、同様に本学のディプロマ・ポリシー（DP）に基づいた学修成果について検討する。

2-2. 分析対象・分析方法

分析対象とするのは、「学生生活・学修行動調査」「卒業時調査」の大学院修士課程の学生の学修成果に関する回答である。また、2024 年度入学者を対象として実施した「新入生調査」の修士課程の学生の回答も併せて用いる。これにより修士1年生（入学時）、修士1年生（年度末）、修士2年生の3時点の結果を示す。なお、修士1年生（入学時）、修士1年生（年度末）は、ともに同じ2024 年度入学者を対象としている。

学修成果として取り上げるのは、本学のディプロマ・ポリシー（DP）に基づく「新しいことに挑戦できる」「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」など13の項目であり、前章と同様に「まあまあ身についた」「身についた」と回答した学生の割合をグラフで示すことで、大学院における学修成果の獲得状況について確認していく。

2-3. 大学院生の学修成果の学年別比較

図2-1は、5つの項目（「新しいことに挑戦できる」「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」「物事を論理的に考えることができる」「課題の解決方法を提案できる」「自分の考えを分かりやすく表現できる」）の獲得状況を示したものである。

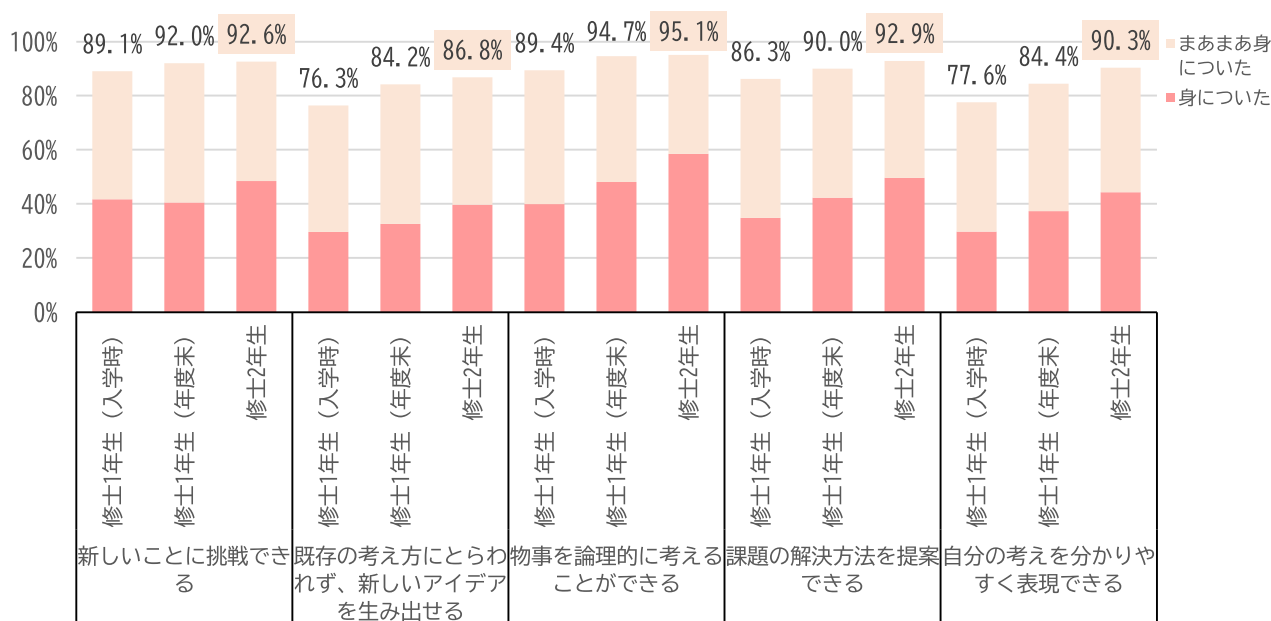


図 2-1 大学院生の学修成果の推移（1）

いずれの項目も、修士課程入学時よりも修了時のほうが、「まあまあ身についた」「身についた」と回答した学生の割合が高くなっている。とくに「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」は10ポイント以上(76.3%→86.8%)、「自分の考えを分かりやすく表現できる」については12ポイント以上(77.6%→90.3%) 高くなっていることが着目される。

続けて、これ以外の項目についてもみていこう(図2-2、図2-3)。

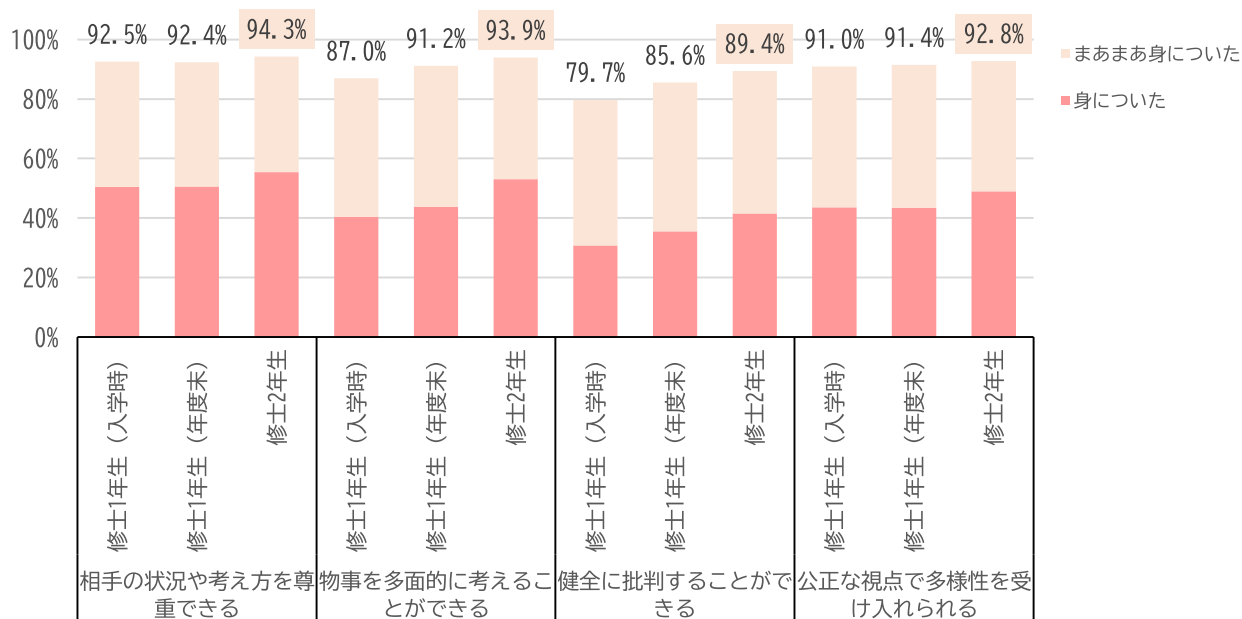


図 2-2 大学院生の学修成果の推移 (2)

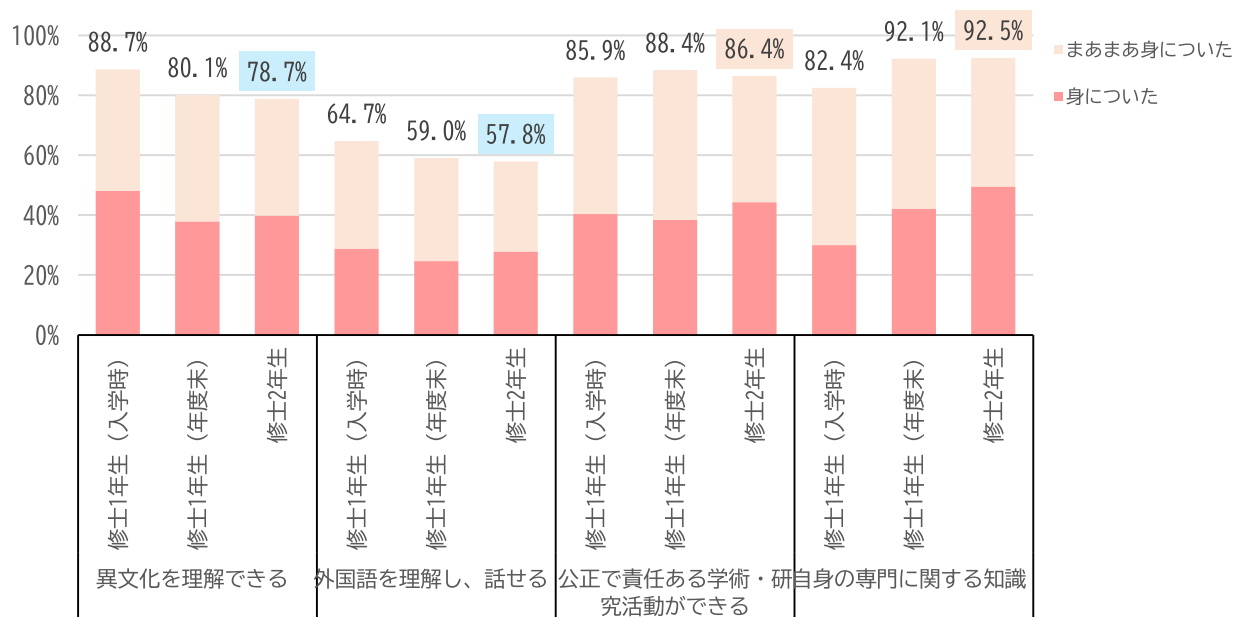


図 2-3 大学院生の学修成果の推移 (3)

「物事を多面的に考えることができる」「健全に批判することができる」「自身の専門に関する知識」については、学年があがるにつれて獲得した学生が増える傾向がみられる、とくに「自身の専門に関する知識」については、修士1年生（入学時）から修士1年生（年度末）にかけて、約10ポイント高くなっている。

他方、「相手の状況や考え方を尊重できる」「公正な視点で多様性を受け入れられる」「公正で責任ある学術・研究活動ができる」では、それほど目立った増加傾向はみられない。

学年があがるにつれて、獲得したと考える学生の割合が低くなるのは、「異文化を理解できる」「外国語を理解し、話せる」である。「異文化を理解できる」については、修士1年生（入学時）が88.7%であったところ、修士1年生（年度末）には80.1%と約8ポイント下がっている。また「外国語を理解し、話せる」は、修士1年生（入学時）で64.7%であったが、修士1年生（年度末）には59.0%と約5ポイント下がっている。

大学院修士課程の学生は、学部生に比べると、外国語の論文を読んだり、外国語で行われる学会に参加したりという機会が増えるのではないかと推察される。しかしながら、修士課程において「外国語を理解し、話せる」学生の割合が低くなっていくという傾向がみられる。

2-4. まとめ

本章では、大学院修士課程の学生を対象として、本学のディプロマ・ポリシー（DP）に基づいた学修成果の変化について確認した。

本章の分析で示されたのは、本学修士2年生の学生は、さまざまな学修成果を獲得しており、とくに次の8項目については90%以上の大学院生が獲得したと認識していたことである。

- 「新しいことに挑戦できる」
- 「物事を論理的に考えることができる」
- 「課題の解決方法を提案できる」
- 「自分の考えを分かりやすく表現できる」
- 「相手の状況や考え方を尊重できる」
- 「物事を多面的に考えることができる」
- 「公正な視点で多様性を受け入れられる」
- 「自身の専門に関する知識」

また、次の3項目については、85%程度の大学院生が獲得したと回答していた。伸びしろは残しつつも、ある程度の達成感を感じていると考えられる。

- 「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」
- 「健全に批判することができる」
- 「公正で責任ある学術・研究活動ができる」

他方、次の項目については、獲得したと回答する学生の割合が低くなっていく傾向がみられた。

「異文化を理解できる」

「外国語を理解し、話せる」

とくに「外国語を理解し、話せる」については、修士1年生（入学時）から、修士1年生（年度末）にかけて約5ポイント下がっていた。なぜ大学院生において、「異文化を理解できる」「外国語を理解し、話せる」と認識する学生の割合が下がるのか、その要因についてはさらなる分析が必要である。

第3章 留学に関わる現状分析：経験・意識・学修成果

3-1. 本章の目的

本学は Waseda Vision 150 の核心戦略「グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築」を前提として、2032 年度までに「全員留学」の実現を目指している。しかし、2020 年頃の新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあり、全員留学にはまだまだ近づいていない状況である。

多くの学生に留学を促すためには、留学をしない学生が感じている「留学をしない理由」について明らかにするとともに、留学経験の有無によって学修成果の獲得状況が異なるかなど、本学学生の現状について具体的に示すことが必要だと考える。

そこで本章では、学部生を対象として、留学に関わる認識や、留学経験の有無による学修成果の差異などについて分析する。

3-2. 分析対象・分析方法

分析対象とするのは、「学生生活・学修行動調査」「卒業時調査」の学部生の回答である。

これらの調査では、「大学（大学院）入学以降の留学経験について、それぞれあてはまるものを選択してください。」としたうえで、次の6つの留学期間（1週間～数週間程度の留学、1か月程度の留学、数か月程度の留学、半年程度の留学、1年程度の留学、1年以上の留学）それぞれについて、次の4つの選択肢から回答を求めた（「経験しておらず、関心・希望もない」「経験していないが、関心・希望はある」「1回経験した／している」「複数回経験した／している」）。

また、学生を留学経験の有無や、留学希望・関心の有無による比較をするために、次のように留学経験あり／留学経験なし、留学希望あり／なしを示す変数を作成した。

留学経験あり／なし

大学時代に、短期であっても1度以上の留学をしたものを「留学経験あり」とした。具体的には、上記の6つの留学期間項目のいずれかで、「1回経験した／している」「複数回経験した／している」を1度でも選択した学生を「留学経験あり」とし、それ以外の学生（「経験しておらず、関心・希望もない」「経験していないが、関心・希望はある」を選んだ学生）を「留学経験なし」とした。

留学希望あり／なし

6つの留学期間項目のいずれかで「経験していないが、関心・希望はある」を選んだ者を「留学希望あり」とし、「経験しておらず、関心・希望もない」を選んだ学生を「留学希望なし」とした。留学経験がある学生は、どちらにも含まない。

本章では、留学経験や留学に関わる認識について、次のような順番で分析を行う。

- 留学経験の有無や留学希望の有無について、基礎的分析を行う。

- 留学を経験しなかった理由や、留学への経済的な支援の希望について、留学希望の有無にも着目して分析する。
- 留学経験の有無によって、本学のディプロマ・ポリシー（DP）に基づいた学修成果の獲得状況が異なるのか確認する。
- 大学卒業後の進路によって、留学経験者の割合には差があるのか確認する。

これらの留学経験や留学に関わる認識について、肯定的に回答した学生の割合をグラフで示すことで比較、考察していく。

3-3. 留学経験／留学希望

留学経験の有無について、学年別に確認したのが図3-1である。

1年生では大学入学以降に留学経験がある学生は8.9%であり、大学1年のときに1割弱の学生が留学を経験していた。また、2年生以降については、どの学年においても20%程度となっている。今回の調査対象となった4年生は2021年度に大学に入学しており、2年生、3年生、4年生と学年があがるにつれて留学経験者の割合が下がっている背景には、2020年頃の新型コロナウイルス感染症流行の影響があると考えられる。

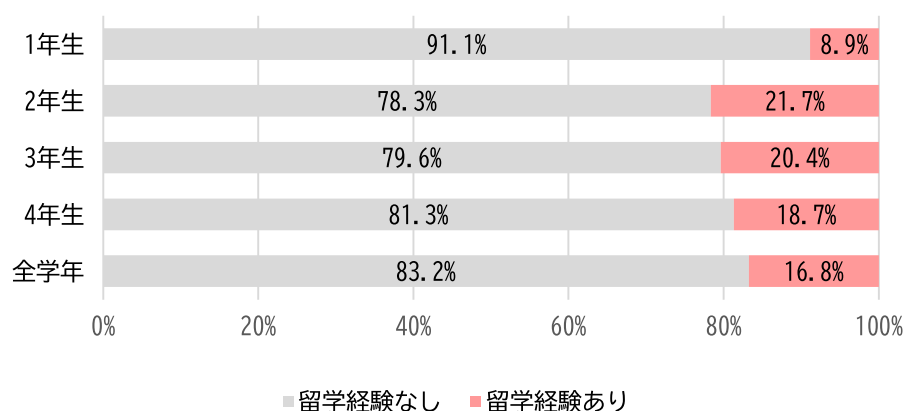


図 3-1 留学経験の有無（学年別）

では、「留学経験なし」と回答した学生のなかで、留学を希望する学生と希望しない学生の割合はどのようなになっているのだろうか。これを学年別に確認してみよう（図3-2）。

1年生では「留学希望なし」の学生の割合が27.2%とやや低くなっている。1年生では、7割以上の学生が、留学を希望している、もしくはすでに大学での留学経験があるということになる。他方、4年生では、「留学希望なし」の学生が35.9%と3割以上となり、留学希望があったものの留学をしなかった学生が45.5%いたことがわかる。

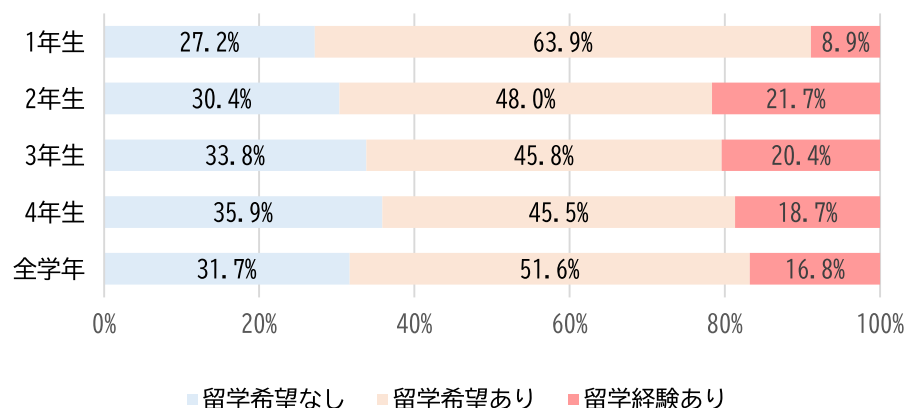


図 3-2 留学希望の有無（学年別）

このように学年により差があるものの、どの学年においても留学を希望しない学生が3割程度いることから、このような留学への希望や関心がない学生に、どのようにして留学を勧めるのかという観点から留学に関する施策を検討する必要があるだろう。

3-4. 留学しない理由／経済的な支援の希望

今回の調査では、留学しない理由についてもたずねている。学生はなぜ留学しないのか、その理由について確認していこう。

留学しない理由

調査では、留学していない学生に対して、「留学を経験していない、検討できない最大の要因として、最もあてはまるものを選んでください。」としたうえで、「留学にかかる費用に関する懸念」など9つの選択肢から1つを選ぶように求めた。本節の分析では、この項目を用いる。

また、留学を希望する学生と希望しない学生では、留学しない理由が異なると考えられたため、留学希望なし／あり、それぞれで留学しない理由を示したのが図3-3である。

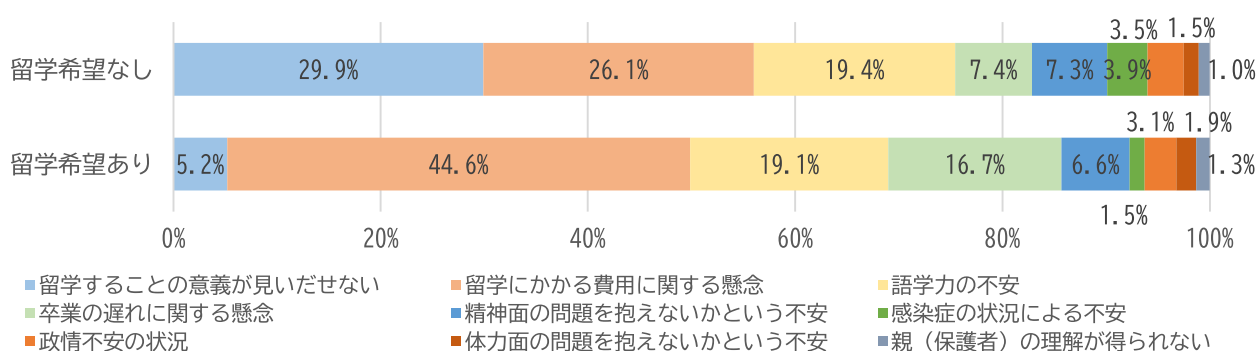


図 3-3 留学しない理由

留学を希望しない学生が、もっとも多くあげた「留学しない理由」は、「留学することの意義が見いだせない」(29.9%)であった。それに対して、留学を希望する学生では、「留学することの意義が見いだせない」を選択したのは5.2%に留まった。留学を希望しない学生にとっては、留学することの意義が感じられないことが、留学の大きな阻害要因のひとつと考えられる。

また、留学を希望する学生が、もっとも多くあげた「留学しない理由」は、「留学にかかる費用に関する懸念」(44.6%)であった。実際に留学を考えるからこそ、留学費用が懸念事項となるのではないかと考えられる。他方、「語学力の不安」については、留学希望あり／なしとも、同じ程度(19.4%、19.1%)であった。

このように学生の留学希望の有無によって、留学をしない、検討できないもっとも重要な要因が異なることを理解しておく必要があるだろう。

希望する経済的支援

留学にかかる費用を懸念している学生は、どれくらいの経済的支援を希望しているのだろうか、これについて確認していこう。

今回の調査では、「留学しない理由」として「留学にかかる費用に関する懸念」を選択した学生に対して、「最低限どのくらいの経済的な支援が受けられれば、実際に留学を検討できるようになりますか。」と示したうえで、「留学に掛かる費用の8割以上の支援」「留学に掛かる費用の5～8割程度の支援」「留学に掛かる費用の3～5割程度の支援」「留学に掛かる費用の1～3割程度の支援」の4つの選択肢から選ぶように求めた。

留学を希望する学生と希望しない学生では、希望する経済的支援が異なることも考えられたため、留学希望なし／あり、それぞれで希望する経済的支援について示したのが図3-4である。

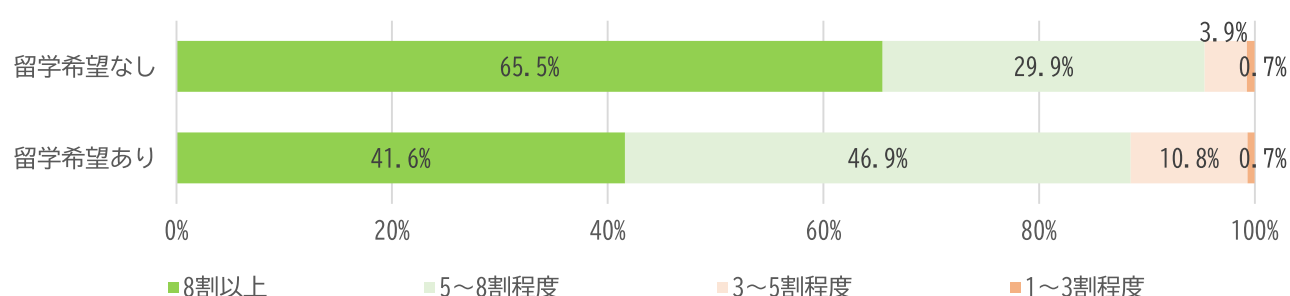


図 3-4 希望する経済的支援

留学を希望しない学生と、留学を希望する学生では、希望する経済的支援に異なる傾向がみられた。

まず、「留学希望なし」の学生では、留学に掛かる費用のうち「8割以上」の支援を選択した学生がもっとも多かった(65.5%)。一方、「留学希望あり」の学生では、「5～8割程度」を選んだ学生が多く(46.9%)、次が「8割以上」(41.6%)であった。

このような差がみられたものの、留学費用の5割以上の支援を希望する学生は、「留学希望なし」で94.5%、「留学希望あり」で88.5%と多数であった。学生にとって、自分の留学費用が大きな懸念材料のひとつとなっていると考えられる。

3-5. 留学経験と学修成果

ここまで、学生の留学経験や留学希望の有無、また留学しない理由などについて確認してきた。そのなかで、留学を希望しない学生は、留学することに意義を見いだしていないことが示された。では、留学をすることには、どのような意義やメリットがあるといえそうだろうか。本節では、留学経験なし／あり、それぞれの学生の学修成果の獲得状況を比較することで、その一端を示すことを試みたい。

留学経験がある学生と、留学経験がない学生のあいだには、学生の特質や背景などさまざまな違いがあるものと考えられる。この学生間の違いについて、留学経験による影響としてすべて説明できるわけではないという前提を置いたうえでも、これらの比較をすることには、留学経験がある学生と留学経験がない学生それぞれの傾向を掴むという意味では意義があるものとする。

そこで本学のディプロマ・ポリシー（DP）に基づいた学修成果の獲得状況について、「留学経験なし」と「留学経験あり」の学生を比較していく。それぞれの学修成果項目について、「留学経験なし」「留学経験あり」の学生間で差が大きい項目から示していくこととしたい。

図3-5では、「留学経験なし」「留学経験あり」の学生間で、6ポイント以上の差がある項目を示した。ここからわかるように、差がもっとも大きいのは、「外国語を理解し、話せる」である。「留学経験なし」は51.4%である一方、「留学経験あり」では83.9%と、30ポイント以上の差がある。大学時代に留学をしたということは（さまざまな要因が考えられるとしても）、「外国語を理解し、話せる」という外国語の運用能力の高さに関連するといえるだろう。

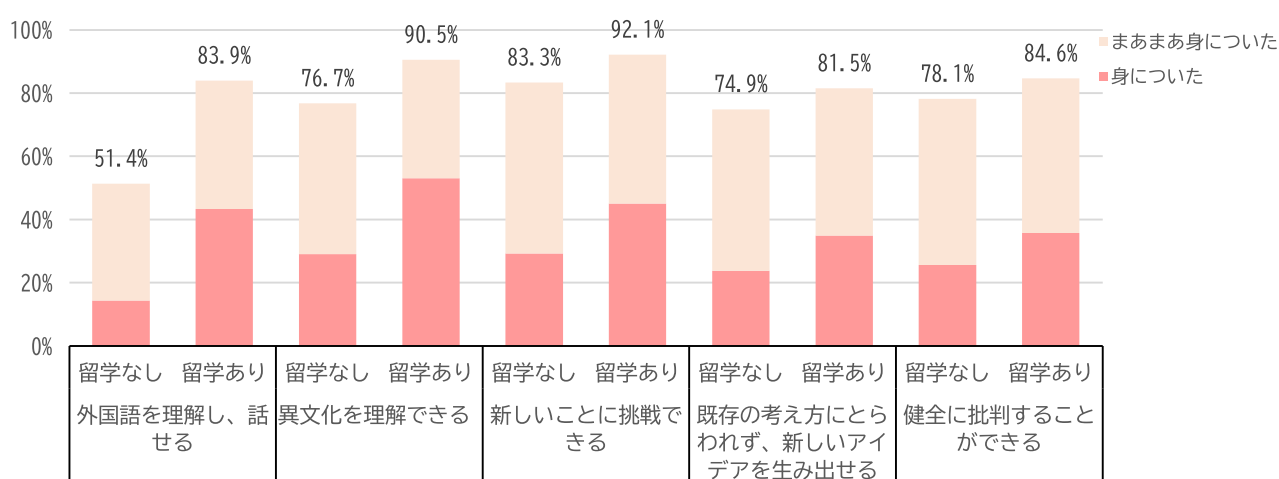


図 3-5 留学経験と学修成果（1）

次に差が大きかったのは、「異文化を理解できる」で、留学経験がある学生のほうが約 14 ポイント高い。留学によって他国の文化に触れることで、異文化を理解できると考えるようになることも考えられる。

3つめは、「新しいことに挑戦できる」であり、約 9 ポイントの差があった。留学をした学生のほうが、新しいことへの挑戦に対して開かれているといえるかもしれない。また「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」「健全に批判することができる」では、約 6 ポイントの差で、留学経験がある学生のほうが高かった。

図 3-6 では、「留学経験なし」「留学経験あり」で、4 から 5 ポイント程度の差がある項目を示した。いずれの項目においても、留学経験がある学生のほうが、その学修成果を獲得したとする学生の割合が高い。

図 3-7 では、「留学経験なし」「留学経験あり」で、4 ポイント以下の差となった項目を示した。留学経験がある学生のほうが、「課題の解決方法を提案できる」「相手の状況や考え方を尊重できる」を獲得したとする割合がやや高い。他方、「自身の専門に関する知識」ではほとんど差がなく、「物事を論理的に考えることができる」では、ほぼ同じ値であった。

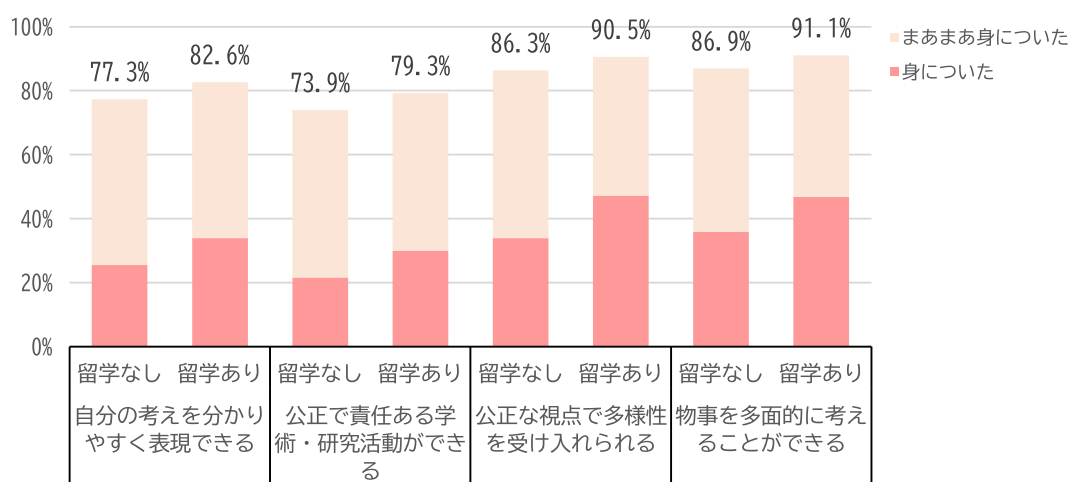


図 3-6 留学経験と学修成果（2）

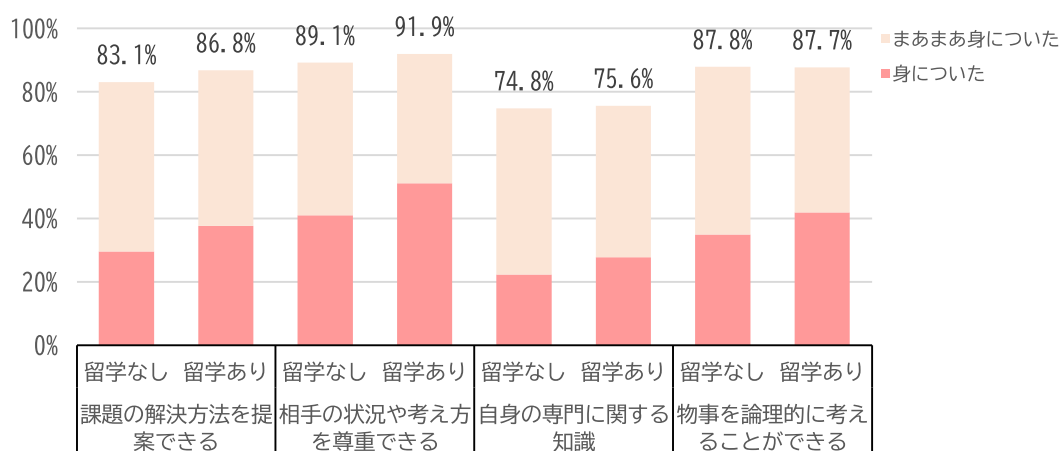


図 3-7 留学経験と学修成果（3）

これらの比較からは、留学経験がある学生は、「外国語を理解し、話せる」、また「異文化を理解できる」と認識している割合が高く、「新しいことに挑戦できる」という傾向もあることが示唆された。他方、「自身の専門に関する知識」や「物事を論理的に考えることができる」などのような知識や論理的思考については、留学経験がある学生とない学生の間で差はないことが示唆された。

3-6. 進路と留学経験

学生が選択する進路によって、留学経験者の割合が異なることも考えられる。たとえば、2024 年度に実施した本学卒業生調査の分析からは、本学学部から本学大学院に進学した卒業生において、留学経験者の割合が低かったことが示唆された（「2024 年度早稲田大学卒業生調査報告書」）。具体的に留学経験者の割合をみると、本学学部卒は約 25%、本学学部・他大大学院は約 35%、他大学部・本学大学院は約 25%である一方、本学学部・本学大学院の卒業生では、約 8%に留まっていた。この卒業生調査は、大学を卒業して約 10 年の卒業生（2011 年度の学部入学者、2015 年度の大学院入学者）を対象とした調査であるが、大学 4 年生を対象とした「卒業時調査」においても、進路による留学経験者の割合に違いがみられるのだろうか。

今回の「卒業生調査」では、学部卒業後の次の進路についても尋ねており、「民間企業に就職」「本学の大学院に進学」など 11 の選択肢から回答を求めた。そこで、この項目を用いて、進路別に留学経験者の割合をみていくこととしたい。ただし、これらの 11 の選択肢のなかには、ほとんど対象者がいないものもある（「NPO・NGO ではたらく」は 1 名など）。そこである程度の回答者数（100 名以上）がいる 4 つの進路（「民間企業に就職」「公務員としてはたらく」「本学の大学院に進学」「他大学の大学院・その他学校等に進学・留学」）について比較分析していく。

4 つの進路別に留学経験なし／ありの割合を示したのが図 3-8 である。この図からは、進路によって、留学経験者の割合が異なることがわかる。

まず、民間企業に就職する学生では、2 割以上が留学を経験している（22.1%）。それに比べると公務員となる学生は、留学経験者の割合は低い（12.1%）。

また、大学院進学予定者をみると、本学の大学院に進学するのか、他大学の大学院に進学するのかで、留

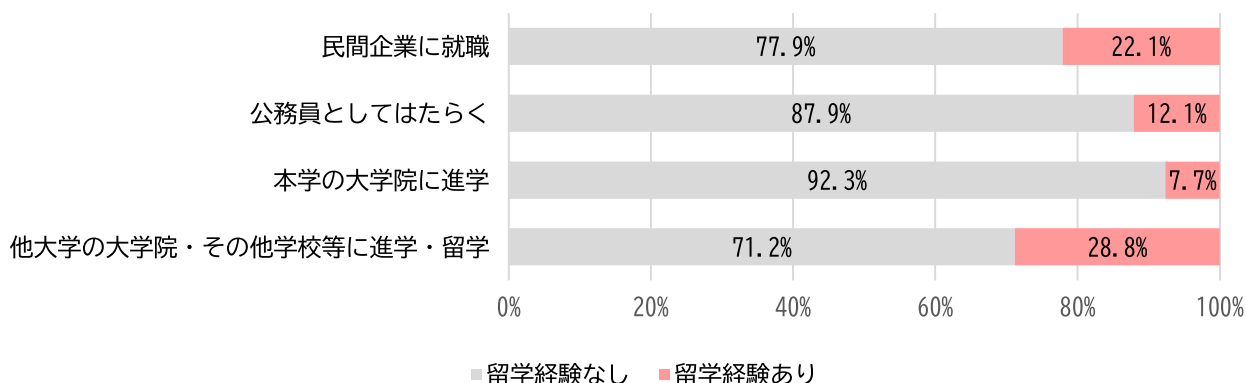


図 3-8 進路と留学経験

学経験者の割合は大きく異なる。本学学部から他大学大学院へと進学する学生では、28.8%が留学を経験していた一方、本学学部から本学大学院に進学する学生では、留学経験者は7.7%に留まる。

この割合は、前述の卒業生調査の割合に近いといえるだろう。2011年度入学者等を対象とした2024年度の卒業生調査においても、2024年度末に実施した今回の調査においても、本学学部から本学大学院に進学する学生において、留学経験者が低くなる傾向がみられた。

3-7. まとめ

本章では、学部生を対象として、留学経験や留学希望の有無、また留学しない理由、さらには留学経験と学修成果などについて分析してきた。

この分析において、留学を希望しない学生が、「留学しない理由」として「留学することの意義が見いだせない」(29.9%)をもっとも多くあげていたことが示された。留学を希望しない学生にとっては、留学することの意義を感じられないことが、留学の大きな阻害要因のひとつになっているようである。大学としては、そのような学生に対して、留学することの意義やメリットをより具体的に示していくことが必要だと考える。

また、留学を希望する学生も希望しない学生も、留学にかかる費用を懸念していた。このような留学費用の懸念への対応についても検討が必要となるだろう。

他方、留学を希望する学生も希望しない学生も、語学力の不安を持っていることも示された。この「不安」に対応するためには、大学4年間を通して語学力を上げていくことも必要となろう。

学生の留学を促すためにはどのような取り組みが有効なのか、インタビュー調査などによって引き続き検討することも必要だと考える。

第4章 AI の利活用（速報）

2024 年度調査より、AI の利活用に関する質問項目を追加した（表 4-1）。本章ではこれらの項目を用いて、学生の AI の利活用の状況や考え方、それらと学修成果や学修行動との関連について、速報をまとめる。

また本項目は「学生生活・学修行動調査」に追加された項目であり、「卒業時調査」には実装していないため、2024 年度の卒業生及び修了者は回答者に含まれていない。各学年及び、学部生・大学院生に分類した回答者数は、およそ表 4-2 の通りとなる。

表 4-1 AI 利活用に関する質問項目

設 問		選択肢
あなたは、以下の場面において生成 AI サービス（テキスト生成、画像生成、音声・音楽生成、映像生成など）をどのくらい使用していますか。それぞれ最もあてはまるものを選択してください。	授業の学習	1. 全くない, 2. 月に 1 回程度ある, 3. 週に 1 回程度ある, 4. 週に複数回以上ある
	サークルなど課外活動	
	アルバイト	
	インターンシップ	
	趣味活動	
あなたは、以下のような用途で生成 AI サービスを使用していますか。それぞれ最もあてはまるものを選択してください。生成 AI を全く使用した経験がない場合には、全て「全く使用しない」を選択してください。	情報の検索	1. 全く使用しない, 2. あまり使用しない, 3. たまに使用する, 4. よく使用する
	メールなどの短い文章の生成	
	アイデア出し・ブレインストーミング	
	レポート・企画書などの長い文章の作成	
	文章の要約・校正	
	外国語の文章の作成・翻訳	
	Excel の関数やマクロの作成	
	C、Java、Python などのプログラムの作成	
	画像・音楽・動画の作成	
大学（大学院）教育について、現在のあなたの考え方に、A、B より近い方をそれぞれ一つ選択してください。	A. 生成 AI にはデメリットが多く、教育・学習におけるさまざまなメリットに鑑みても、教育や学習に生成 AI を活用すべきではない	1. A に近い, 2. やや A に近い, 3. やや B に近い, 4. B に近い
	B. 生成 AI にはメリットが多く、教育・学習におけるさまざまなデメリットに鑑みても、教育や学習に生成 AI を積極的に活用すべきである	

あなたは大学に入学してからこれまでに、次のことをどれほど経験しましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。	生成 AI を活用しながら学ぶ授業を受講する	1. 全くなかった, 2. あまりなかった, 3. まあまああった, 4. よくあった
---	------------------------	--

表4-2 AI 利活用に関する質問項目の回答者数

学部1年	学部2年	学部3年	学部4年	修士1年	修士2年	博士
$n = 2820$	$n = 2171$	$n = 1729$	$n = 403$	$n = 752$	$n = 295$	$n = 589$
学部生				大学院生		
$n = 7123$				$n = 1636$		

1) 回答のスキップの関係で質問項目によって回答者数は異なる

4-1. AI 利活用の状況

AI の利活用の状況として、学部生と大学院生に分けて、AI 利活用の場面、AI 利活用の用途、そして AI 利活用の考え方と学修経験について示す（記述統計は章末資料）。なお AI 利活用の考え方と学修経験に関しては、「卒業時調査」に実装済みであるため、回答者数が多くなっている。

① AI 利活用の場面

あなたは、以下の場面において生成AIサービス（テキスト生成、画像生成、音声・音楽生成、映像生成など）をどのくらい使用していますか（学部生，
n = 7110-7123，有効％）

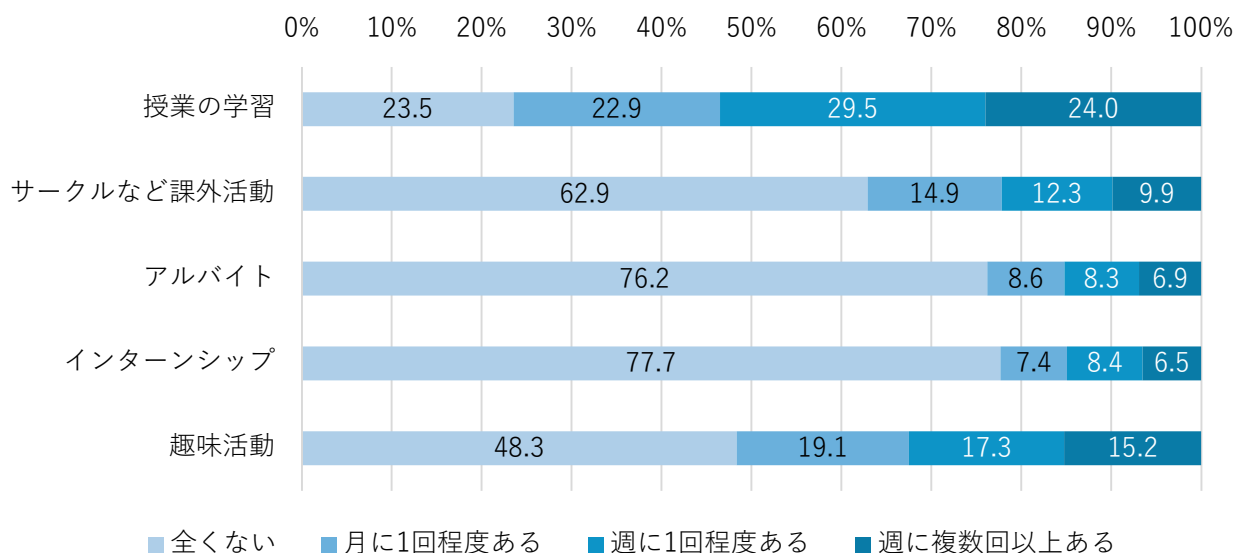


図4-1 AI 利活用の場面（学部生）

あなたは、以下の場面において生成AIサービス（テキスト生成、画像生成、音声・音楽生成、映像生成など）をどのくらい使用していますか（大学院生，n = 1631-1636，有効％）

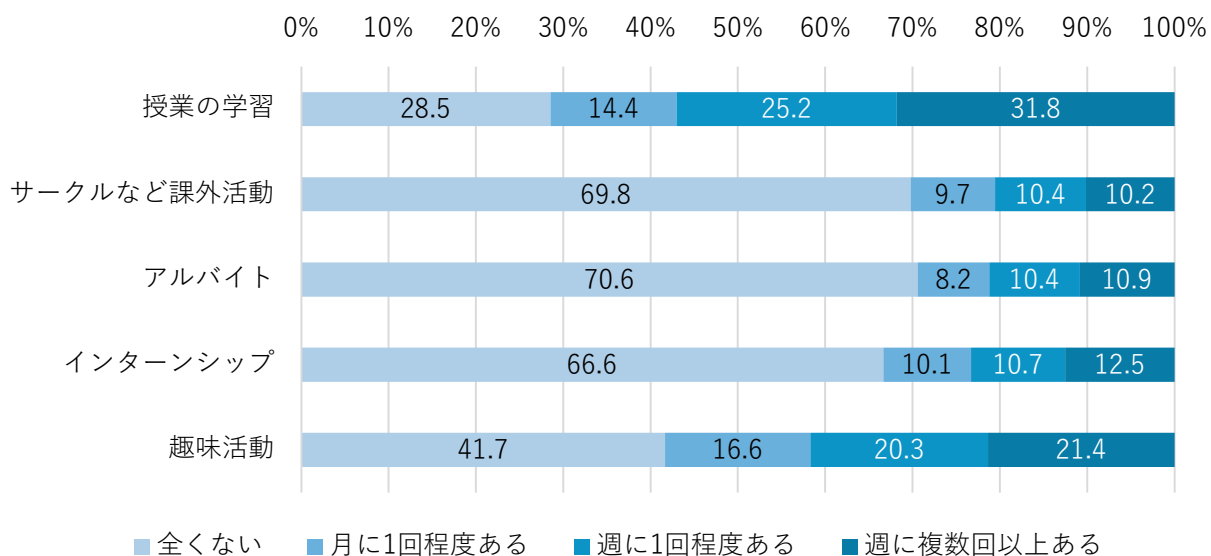


図4-2 AI 利活用の場面（大学院生）

② AI 利活用の用途

あなたは、以下のような用途で生成AIサービスを使用していますか。それぞれ最もあてはまるものを選択してください（学部生，n = 7115-7126，有効％）

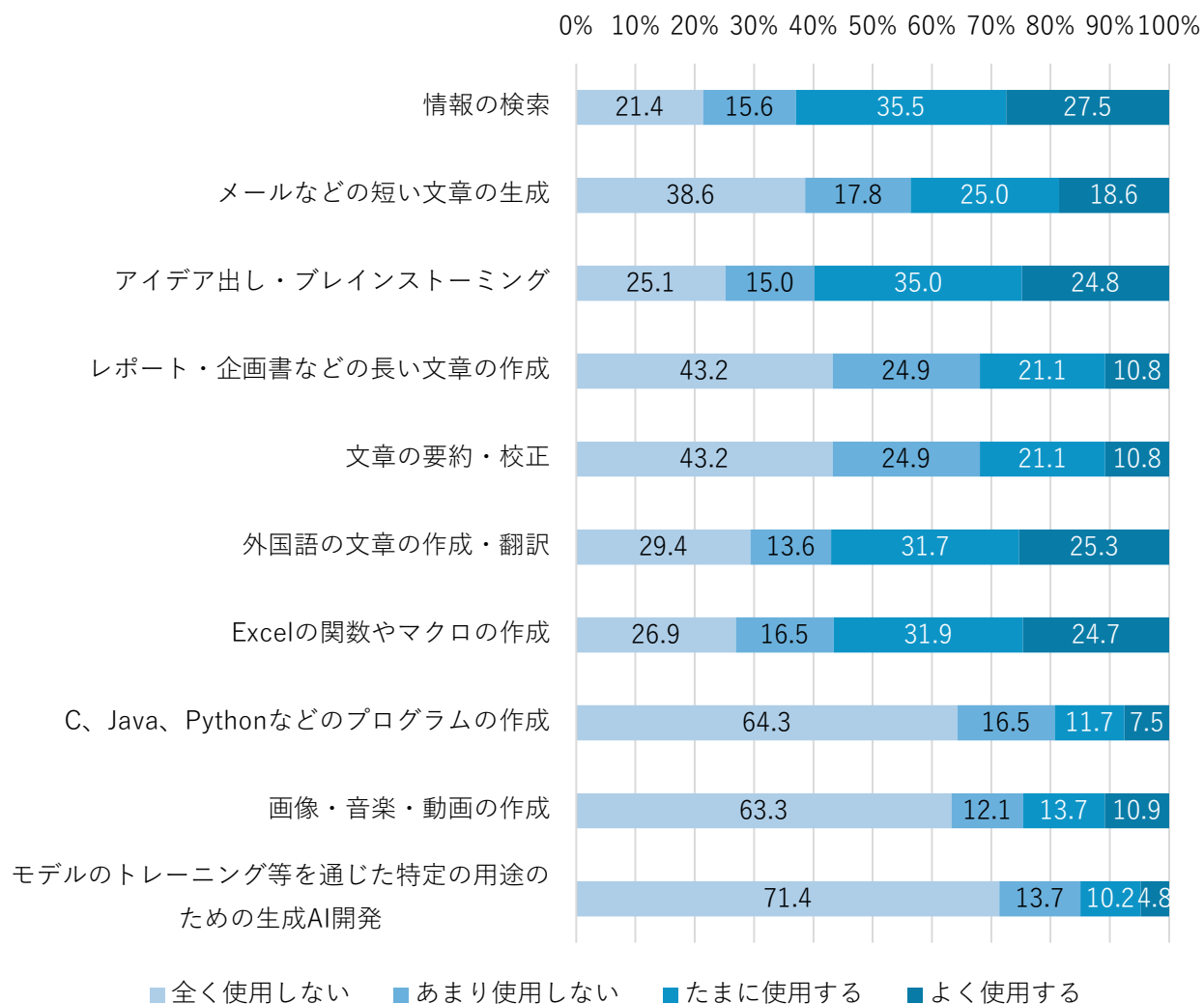


図4-3 AI 利活用の用途（学部生）

あなたは、以下のような用途で生成AIサービスを使用していますか。それぞれ最もあてはまるものを選択してください（大学院生，n = 1629-1634，有効％）

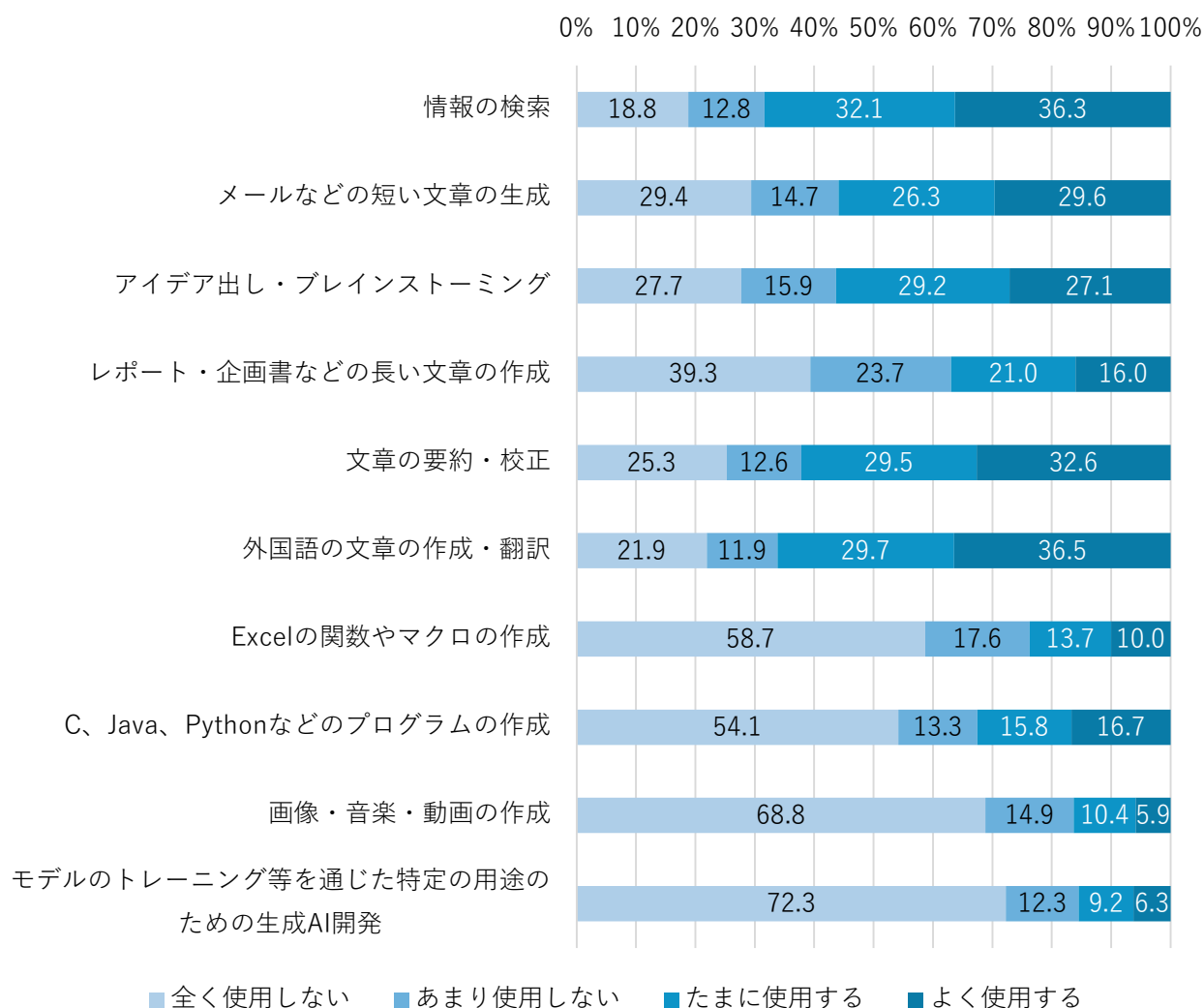


図4-4 AI 利活用の用途（大学院生）

③ AI 利活用の考え方・学修経験

大学（大学院）教育について、現在のあなたの考え方に、A、Bでより近い方をそれぞれ一つ選択してください

A. 生成AIにはデメリットが多く、教育・学習におけるさまざまなメリットに鑑みても、教育や学習に生成AIを活用すべきではない

B. 生成AIにはメリットが多く、教育・学習におけるさまざまなデメリットに鑑みても、教育や学習に生成AIを積極的に活用すべきである（学部生：n = 9547, 大学院生：n = 2751, 有効%）

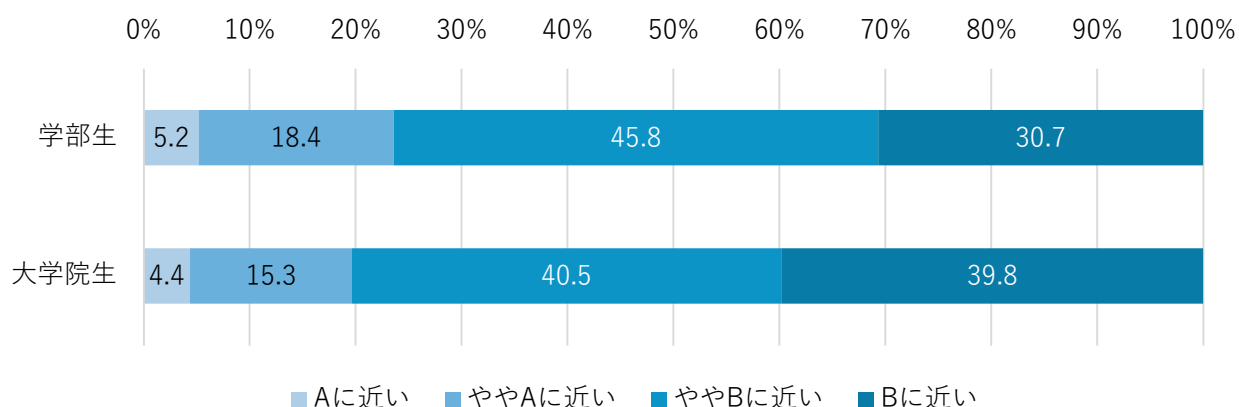


図4-5 AI 利活用の考え方（学部生・大学院生）

あなたは大学に入学してからこれまでに、次のことをどれほど経験しましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。 - 生成AIを活用しながら学ぶ授業を受講する（学部生：n = 9537, 大学院生：n = 2748, 有効%）

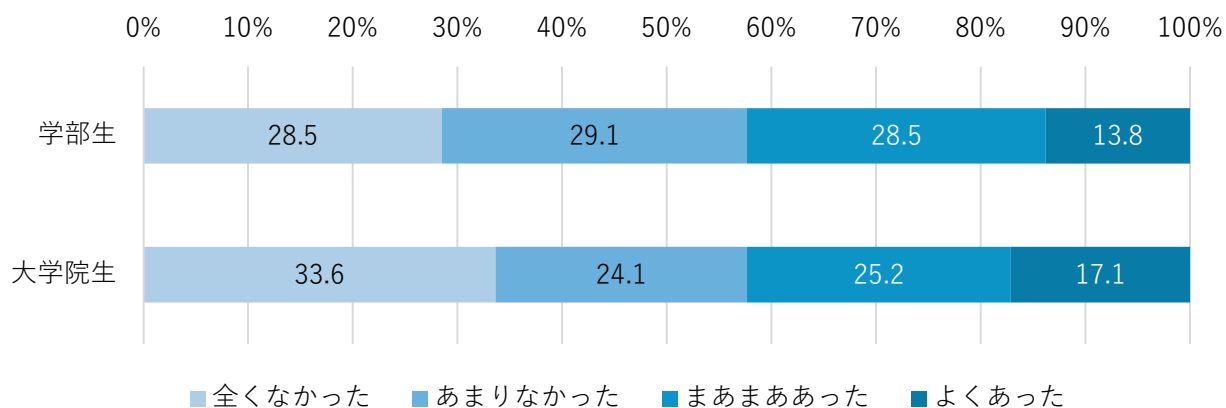


図4-6 AI 利活用の学修経験（学部生・大学院生）

4-2. AI 利活用と学修成果や学修行動との関連

AI 利活用の項目と学修成果や学修行動との関連を確認するために、これらの項目間の相関を提示する。相関係数は Spearman の順位相関係数 ρ （以降表記： r_s ）を用いる。ここでは学部生と大学院生を分けずに、回答全体を用いる。

表 4-3 は AI 利活用と学修行動との関連であり、学修に対する考え方、授業選択で参考にする情報源、1 週間の学習時間、授業の出席率、学修意欲に関する項目を用いた。

表 4-4 及び表 4-5 は、AI 利活用と学修成果（GPA・DP 獲得）との相関である。

表4-3 AI 利活用と学修行動との相関

	考え方：単位 を取るのが難 しくても、自 分に有益な授 業がよい	授業選択 の参考 度：シラ バス	授業選択 の参考 度：市販 の授業情 報誌	授業選択 の参考 度：講 義内容	授業選択 の参考 度：単位 修得の難 易	1 週間の生 活：予習・ 復習・課題 など授業に 関する学習	授業平均 出席率	学 修 意 欲的：自 身の専 門 分 野 の勉強
AI 使用場面：授業の学習	-.118**	-.001	.053**	-.066**	.150**	.065**	-.022*	-.027*
AI 使用場面：趣味活動	-.002	-.027*	-.002	-.026*	.034**	.083**	-.025*	.023*
AI 使用用途：情報の検索	-.054**	.023*	.013	-.004	.117**	.034**	.013	.032**
AI 使用用途：メールなどの短い文 章の生成	-.088**	-.015	.035**	-.053**	.105**	.010	-.053**	-.003
AI 使用用途：アイデア出し・ブレ インストーミング	-.125**	.018	.108**	-.040**	.163**	-.013	-.052**	-.029**
AI 使用用途：レポート・企画書な どの長い文章の作成	-.163**	-.047**	.082**	-.133**	.176**	-.021*	-.128**	-.092**
AI 使用用途：文章の要約・校正	-.092**	.003	.064**	-.043**	.125**	.000	-.054**	.006
AI 使用用途：外国語の文章の作 成・翻訳	-.049**	.005	.033**	-.001	.090**	.014	-.011	.019
AI 使用用途：Excel の関数やマク ロの作成	-.068**	-.079**	.035**	-.111**	.073**	.058**	-.053**	-.021
AI 使用用途：C、Java、Python などのプログラムの作成	-.030**	-.071**	-.018	-.083**	.039**	.060**	-.027*	.008
AI 使用用途：画像・音楽・動画の 作成	-.055**	-.081**	.051**	-.112**	.058**	.057**	-.069**	-.045**
AI 使用用途：モデルのトレーニン グ等を通じた特定の用途のための 生成 AI 開発	-.066**	-.115**	.015	-.133**	.067**	.088**	-.077**	-.041**
考え方：生成 AI にはメリットが 多く、教育・学習におけるさまざ まなデメリットに鑑みても、教育 や学習に生成 AI を積極的に活用 すべきである	.004	.014	.014	.014	.081**	-.025**	-.014	.029**

大学経験：生成 AI を活用しながら学ぶ授業を受講する	-.078**	-.041**	.065**	-.074**	.136**	.078**	.002	.016
大学院経験：生成 AI を活用しながら学ぶ授業を受講する	-.106**	.023	.201**	-.010	.210**	.106**	.022	.001

* $p < .05$, ** $p < .01$, r_s : Spearman の順位相関係数 ρ , n は項目の組み合わせにより異なる

0.1 $\leq r_s < 0.2$

0.2 $\leq r_s < 0.3$

表4-4 AI 利活用と学修成果 (GPA・DP 獲得) との相関

	GPA	DP 獲得: 自身の専門に関する知識	DP 獲得: 新しいことに挑戦できる	DP 獲得: 既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	DP 獲得: 論理的に考えることができる	DP 獲得: 課題の解決方法を見つけやすくなる	DP 獲得: 自分の考えを分かりやすく表現できる
AI 使用場面：授業の学習	-.007	.053**	.090**	.089**	.082**	.103**	.073**
AI 使用場面：趣味活動	-.038**	.107**	.115**	.145**	.101**	.124**	.111**
AI 使用用途：情報の検索	.015	.085**	.146**	.145**	.100**	.140**	.107**
AI 使用用途：メールなどの短い文章の生成	-.007	.088**	.090**	.103**	.068**	.107**	.093**
AI 使用用途：アイデア出し・ブレインストーミング	-.012	.045**	.114**	.103**	.093**	.123**	.087**
AI 使用用途：レポート・企画書などの長い文章の作成	-.090**	.015	.044**	.058**	.013	.056**	.045**
AI 使用用途：文章の要約・校正	.000	.062**	.111**	.102**	.106**	.134**	.104**
AI 使用用途：外国語の文章の作成・翻訳	.020	.083**	.099**	.081**	.089**	.107**	.086**
AI 使用用途：Excel の関数やマクロの作成	-.070**	.071**	.037**	.065**	.019	.062**	.067**
AI 使用用途：C、Java、Python などのプログラムの作成	-.006	.088**	.042**	.065**	.067**	.084**	.060**
AI 使用用途：画像・音楽・動画の作成	-.097**	.049**	.040**	.086**	-.017	.038**	.052**
AI 使用用途：モデルのトレーニング等を通じた特定の用途のための生成 AI 開発	-.091**	.072**	.022*	.078**	-.023*	.027*	.054**
考え方：生成 AI にはメリットが多く、教育・学習におけるさまざまなデメリットに鑑みても、教育や学習に生成 AI を積極的に活用すべきである	.000	.065**	.112**	.093**	.111**	.113**	.078**
大学経験：生成 AI を活用しながら学ぶ授業を受講する	-.029**	.143**	.117**	.156**	.090**	.139**	.125**
大学院経験：生成 AI を活用しながら	-.146**	.058**	.144**	.173**	.053**	.108**	.129**

学ぶ授業を受講する

* $p < .05$, ** $p < .01$, r_s : Spearman の順位相関係数 ρ , n は項目の組み合わせにより異なる

0.1 $\leq r_s < 0.2$

0.2 $\leq r_s < 0.3$

表4-5 AI 利活用と学修成果 (DP 獲得) との相関

	DP 獲得：相手 の状況や考え 方を尊重でき る	DP 獲得：物 事を多面的に とがでる	DP 獲得：健全 な視点で多様 性を受け入れ られる	DP 獲得：公正 異文化を理 解できる	DP 獲得：外国語を 理解し、話せる	DP 獲得：外 国語を理解 し、話せる
AI 使用場面：授業の学習	.066**	.067**	.087**	.063**	.078**	.128**
AI 使用場面：趣味活動	.049**	.085**	.115**	.078**	.093**	.163**
AI 使用用途：情報の検索	.104**	.103**	.094**	.098**	.119**	.133**
AI 使用用途：メールなどの短い文章の生成	.068**	.072**	.095**	.080**	.089**	.157**
AI 使用用途：アイデア出し・ブレインストーミング	.109**	.110**	.102**	.107**	.111**	.127**
AI 使用用途：レポート・企画書などの長い文章の作成	.011	.018	.052**	.014	.043**	.093**
AI 使用用途：文章の要約・校正	.104**	.100**	.114**	.100**	.091**	.122**
AI 使用用途：外国語の文章の作成・翻訳	.083**	.086**	.105**	.082**	.096**	.115**
AI 使用用途：Excel の関数やマクロの作成	-.028*	.004	.056**	-.006	.010	.120**
AI 使用用途：C、Java、Python などのプログラムの作成	-.017	.013	.057**	-.004	-.010	.086**
AI 使用用途：画像・音楽・動画の作成	-.040**	-.009	.037**	-.003	.013	.111**
AI 使用用途：モデルのトレーニング等を通じた特定の用途のための生成 AI 開発	-.062**	-.024*	.040**	-.041**	-.003	.143**
考え方：生成 AI にはメリットが多く、教育・学習におけるさまざまなデメリットに鑑みても、教育や学習に生成 AI を積極的に活用すべきである	.102**	.094**	.093**	.086**	.054**	.028**
大学経験：生成 AI を活用しながら学ぶ授業を受講する	.065**	.078**	.106**	.071**	.082**	.161**
大学院経験：生成 AI を活用しながら学ぶ授業を受講する	.083**	.095**	.092**	.072**	.144**	.205**

* $p < .05$, ** $p < .01$, r_s : Spearman の順位相関係数 ρ , n は項目の組み合わせにより異なる

0.1 $\leq r_s < 0.2$

0.2 $\leq r_s < 0.3$

4-3. まとめ

本章では、2024 年度調査より追加した、AI の利活用に関する質問項目を用いて、学生の AI の利活用の状況と学修成果や学修行動との関連について、速報的にまとめた。

4-1 では、学生の AI の利活用の状況として、学部生と大学院生に分けて、AI 利活用の場面、AI 利活用の用途、そして AI 利活用の考え方と学修経験についてまとめた。4-2 では、AI 利活用の項目と学修成果や学修行動との関連を確認するために、これらの項目間の相関を確認した。

本章の分析により、学生の AI の利活用と、学修行動や履修の傾向、GPA や DP 獲得との関連が見えてきた。ただし AI の利活用と、成績やその他の学修行動との関連は、横断的データ（1 時点のデータ）では、その影響の向きを明らかにすることは難しい（図 4-7）。例えば、AI の利活用の程度と、成績やその他の学修行動に関連が見られたとしても、AI の利活用が成績を上げたり下げたりするのか、それとも成績が高かったり低かったりする学生ほど、AI を利活用する傾向にあるのか、これらが併存しているのか、いずれも想定し得るためである。この点を注意しながら、本章の分析結果を読み解くことが望ましい。

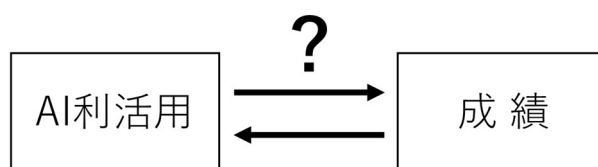


図4-7 AI 利活用と成績の影響関係

また冒頭で述べた通り、AI 利活用の項目は 2024 年度の「学生生活・学修行動調査」にのみ追加された項目であり、本章で用いたデータには、2024 年度の卒業者及び修了者は含まれていない点にも注意が必要である。例えば「AI 使用用途：レポート・企画書などの長い文章の作成」という項目は、学位論文を執筆することが多い最終学年の卒業者・修了者のデータが含まれると、傾向が異なる可能性がある。

4-4. 資料

資料4-1 AI 利活用項目の記述統計

	度数	平均値	標準偏差
あなたは、以下の場面において生成 AI サービス（テキスト生成、画像生成、音声・音楽生成、映像生成など）をどのくらい使用していますか。それぞれ最もあてはまるものを選択してください。			
授業の学習	8759	2.55	1.116
サークルなど課外活動	8745	1.68	1.027
アルバイト	8742	1.49	0.939
インターンシップ	8739	1.49	0.941
趣味活動	8751	2.04	1.142
あなたは、以下のような用途で生成 AI サービスを使用していますか。それぞれ最もあてはまるものを選択してください。生成 AI を全く使用した経験がない場合には、全て「全く使用しない」を選択してください。			
情報の検索	8744	2.72	1.096
メールなどの短い文章の生成	8756	2.30	1.166
アイデア出し・ブレインストーミング	8752	2.59	1.122
レポート・企画書などの長い文章の作成	8757	2.02	1.052
文章の要約・校正	8752	2.56	1.163
外国語の文章の作成・翻訳	8753	2.59	1.140
Excel の関数やマクロの作成	8751	1.65	0.975
C、Java、Python などのプログラムの作成	8750	1.76	1.086
画像・音楽・動画の作成	8750	1.49	0.868
モデルのトレーニング等を通じた特定の用途のための生成 AI 開発	8748	1.38	0.805

集計データ

2024 年度の学生調査は、「学生生活・学修行動調査」と「卒業時調査」の2つの調査に分けて、年度末に実施した。調査対象者については、「卒業時調査」は学部卒業・大学院修了が決まった学生とし、「学生生活・学修行動調査」はそれ以外の在学生とした。質問文・選択肢は日本語・英語の2言語で作成しており、回答時に学生が言語を選択できる。

I. 調査概要

- ◆ 調査方法：メール配信を通じた「Qualtrics（クアリトリクス）」を用いたオンライン調査
- ◆ 調査時期：学生生活・学修行動調査： 2025 年 3 月 7 日～4 月 7 日
卒業時調査： 2025 年 3 月 7 日～3 月 21 日
- ◆ 調査対象者：早稲田大学の学生 45,245 名
- ◆ 回収状況： 15,379 件 （回収率 34.0%）
- ◆ 調査結果引用に関するお願い

本調査結果を引用される際には、下記の出典を明記くださいますようお願いいたします。

著者：早稲田大学大学総合研究センター

タイトル：2024 年度 早稲田大学学生生活・学修行動調査及び卒業時調査報告書

II. 調査項目一覧

1. 在学中の学生生活

- Q01. 次のことはあなたにどのくらいあてはまりますか。大学（大学院）入学以降の状況をお答えください。
- Q02. あなたが授業を選ぶ際に、以下の情報源はどの程度参考にしていますか。
- Q03. あなたが授業を選ぶ際に重視することは何ですか。
- Q04. 現在の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間について、あてはまる時間数を選択してください。
- Q05. 大学（大学院）入学以降、あなたの授業平均出席率はどれくらいですか。
- Q06. あなたは大学（大学院）入学以降、次のことにどれほど意欲的に取り組んできましたか。
- Q07. 大学（大学院）入学以降、以下のような活動に所属、参加していますか。
- Q08. 大学（大学院）入学以降、以下の活動に参加していますか。
- Q09. 大学（大学院）入学以降、以下のような活動において、リーダー的な役割を担いましたか。
- Q10. 大学（大学院）入学以降の留学経験について、それぞれあてはまるものを選択してください。

Q11. 【経験していない学生のみ】留学を経験していない、検討できていない最大の要因として、もっともあてはまるものを選んでください。

Q12. 【経済的な懸念がある学生のみ】最低限どのくらいの経済的な支援が受けられれば、実際に留学を検討できるようになると思いますか。

Q13. 大学（大学院）入学以降のインターンシップ経験について、あなたの状況をお答えください。

Q14. いま現在の居住形態をお答えください。

2. 学修行動と学修成果の獲得・満足度

Q15. 大学（大学院）教育について、「現在の」あなたの考え方に、A、B でより近い方をそれぞれ一つ選択してください。

Q16. あなたは大学（学部・大学院）での授業や研究・勉強が、あなたの今後の進路先で役に立つと思いますか。

Q17. 【学部生のみ】あなたは大学に入学してからこれまでに、次のことをどれほど経験しましたか。

Q18. 【大学院生のみ】あなたは大学院に入学してからこれまでに、次のことをどれほど経験しましたか。

Q19. 大学（大学院）入学以降のあなたについて、次のことはどれほどありましたか。

Q20. いま現在、次のようなこと（知識・能力）は、どれくらい身につけていると思いますか。

Q21. 次の能力について、あなたが大学（大学院）に入学した時点と比較して、最も向上したと考えるものを一つ選んでください。（G）

Q22. これまでの大学（大学院）生活を振り返り、授業や学生生活等の満足度についてどのように評価しますか。

Q23. あなたのこれまでの大学（大学院）生活全般について、10 点満点で満足度得点をつけるとすれば、何点になりますか。

Q24. 学部・研究科には何年在籍していましたか。（G）

Q25. あなたは、以下の場面において生成 AI サービス（テキスト生成、画像生成、音声・音楽生成、映像生成など）をどのくらい使用していますか。（S）

Q26. あなたは、以下のような用途で生成 AI サービスを使用していますか。それぞれ最もあてはまるものを選択してください。（S）

Q27. あなたは早稲田大学（大学院）のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を知っていますか。「大学（大学院）のディプロマ・ポリシー」「所属学部（研究科）のディプロマ・ポリシー」それぞれについてお答えください。（S）

Q28. 「大学（大学院）のディプロマ・ポリシー」および「所属学部（研究科）のディプロマ・ポリシー」の内容について、共感できるかどうか、それぞれについてお答えください。（S）

3. キャリア志向・その他

Q29. 現在、あなたは学部・大学院卒業後、どのような進路を考えていますか。最もあてはまるものを選択してください。（S）

Q30. あなたの次の進路について、あてはまるものを選択してください。（G）

Q31. 【既に仕事に就いている、もしくはまだ決まっていない、以外を選んだ場合のみ回答】あなたが次の進路を決定するにあたって最も重視したことは何ですか。（G）

Q32. あなたは、就職するうえで、次の点はどの程度重要だと思いますか。

- Q33. あなたは、仕事や就職先にどのようなことを望みますか、A、B でより近い方をそれぞれ一つ選択してください。(S)
- Q34. 【既に仕事に就いている、もしくはまだ決まっていない、以外を選んだ場合のみ回答】あなたの次の進路の選択に対する満足度はどの程度ですか。(G)
- Q35. あなたは現在、身体面・精神面で健康ですか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。この質問項目に回答したくない場合には、未回答のままで結構です。(S)
- Q36. 現在、次のような不安や悩みがありますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。この質問項目に回答したくない場合には、未回答のままで結構です。(S)
- Q37. 【学部生で、かつ大学院進学以外の進路を回答した場合のみ回答】あなたが大学院への進学をしなかった理由について、それぞれもっともあてはまるものを選択してください。(G)
- Q38. 【学部生で、かつ大学院進学以外の進路を回答した場合のみ回答】現時点で、一定期間が経過したのちに大学院（本学に限らず）に進学することを検討していますか。(G)
- Q39. 将来にわたるキャリア選択（転職など）に関する現時点でのあなたの考え方について、それぞれについてもっともあてはまるものを選択してください。(G)
- Q40. 大学（大学院）の授業の中で、次に挙げるようなものを受講してみたかったと思いますか。(G)

注1：グレー部分の自由記述設問の記載は省略した。

注2：「全体の集計データ」のQ番号は、この資料のために付加した番号である。

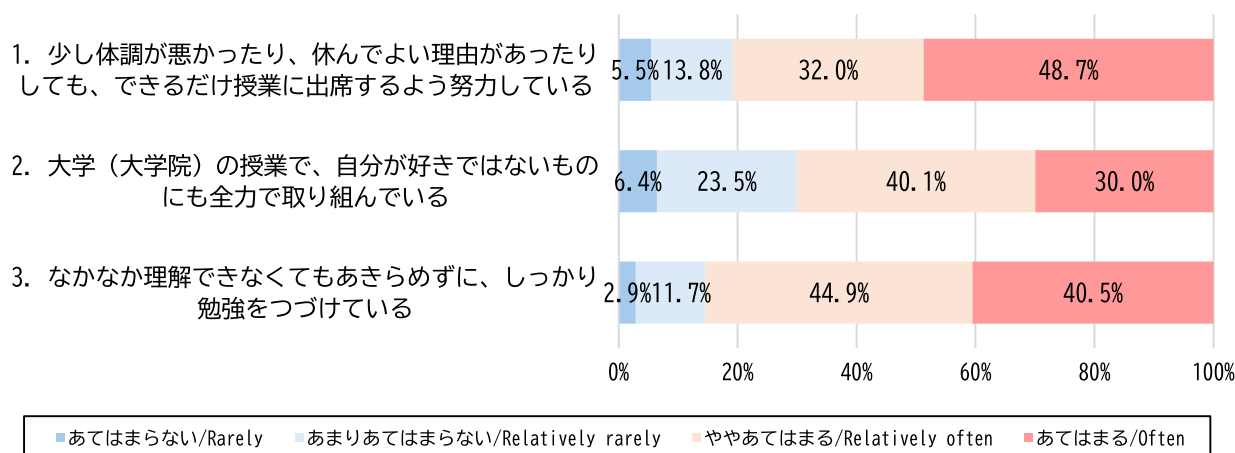
注3：各調査項目文末の（S）は学生生活・学修行動調査のみの質問を、（G）は卒業時調査のみの質問を意味する。

Ⅲ. 調査データ〈グラフ〉

1. 在学中の学生生活

Q01. 次のことはあなたにどのくらいあてはまりますか。大学（大学院）入学以降の状況をお答えください。

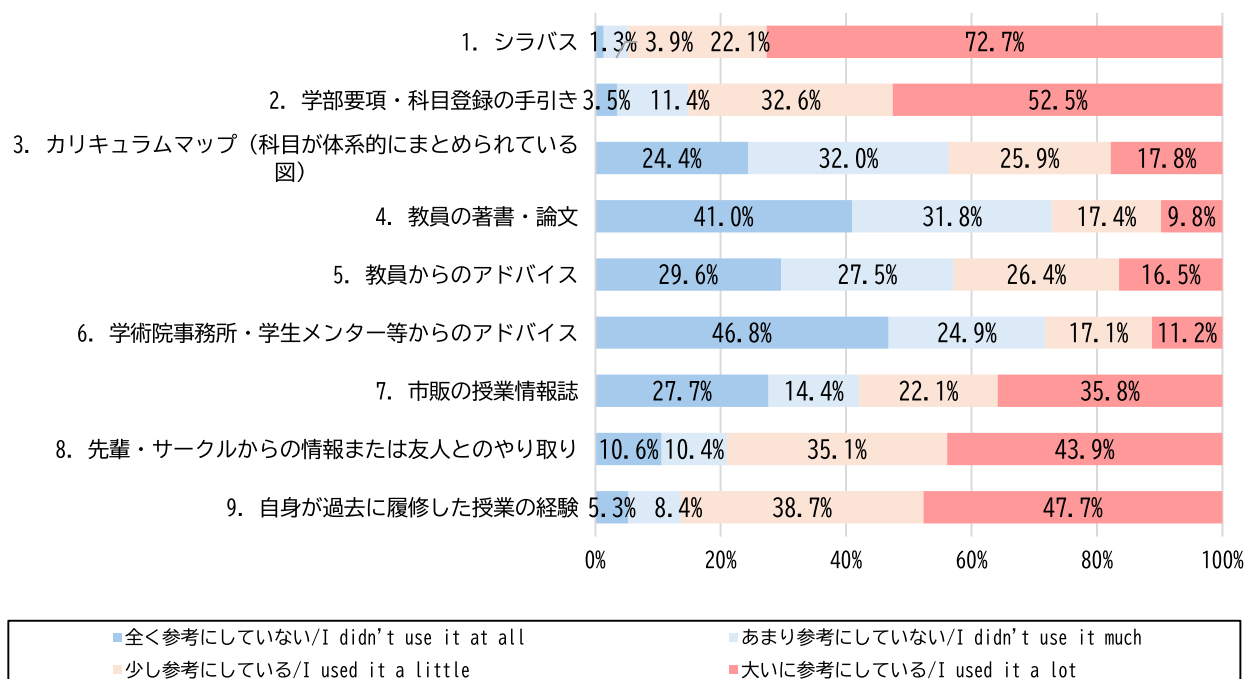
How much do the following apply to you? Please answer the following questions about your situation since entering university (graduate school).



1. I make an effort to attend school every day even if I feel a little sick or there are other reasons I can skip school. 2. I do my best at school even if I don't like the subject. 3. I continue to study hard even if the results don't show much improvement.

Q02. あなたが授業を選ぶ際に、以下の情報源はどの程度参考にしていますか。

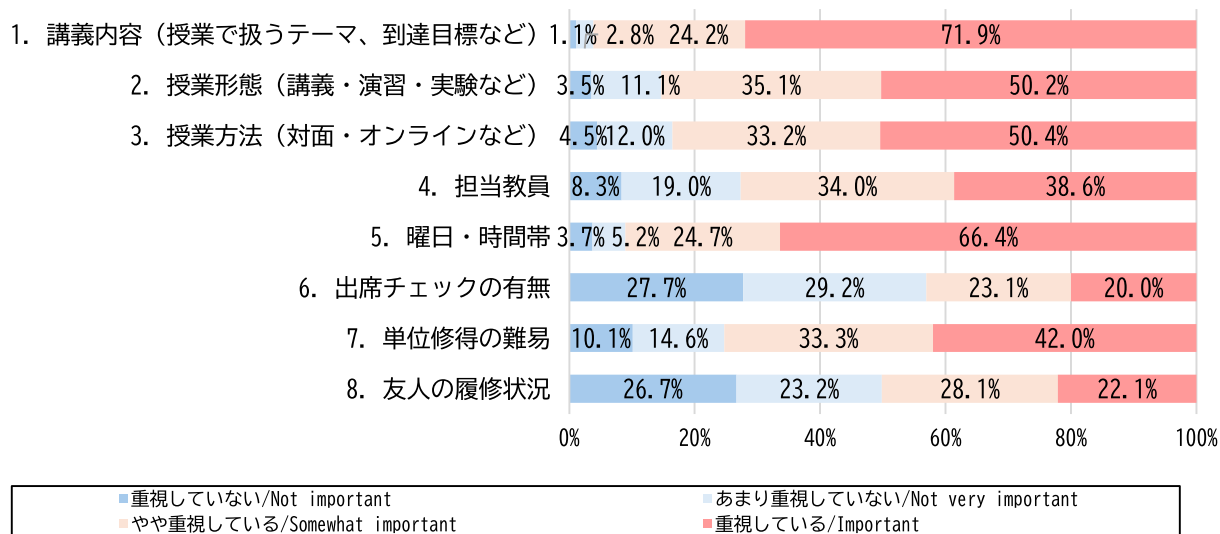
When choosing a course, how much did you use the following sources of information?



1. Syllabus, 2. School guide/course registration guide, 3. Curriculum map (diagram showing courses systematically organized), 4. Books/papers by faculty, 5. Advice from faculty, 6. Advice from the Faculty Office/student mentors, etc. 7. Commercial course information magazines, 8. Information from upperclass students/clubs or communication with friends, 9. Experience of courses taken in the past

Q03. あなたが授業を選ぶ際に重視することは何ですか。

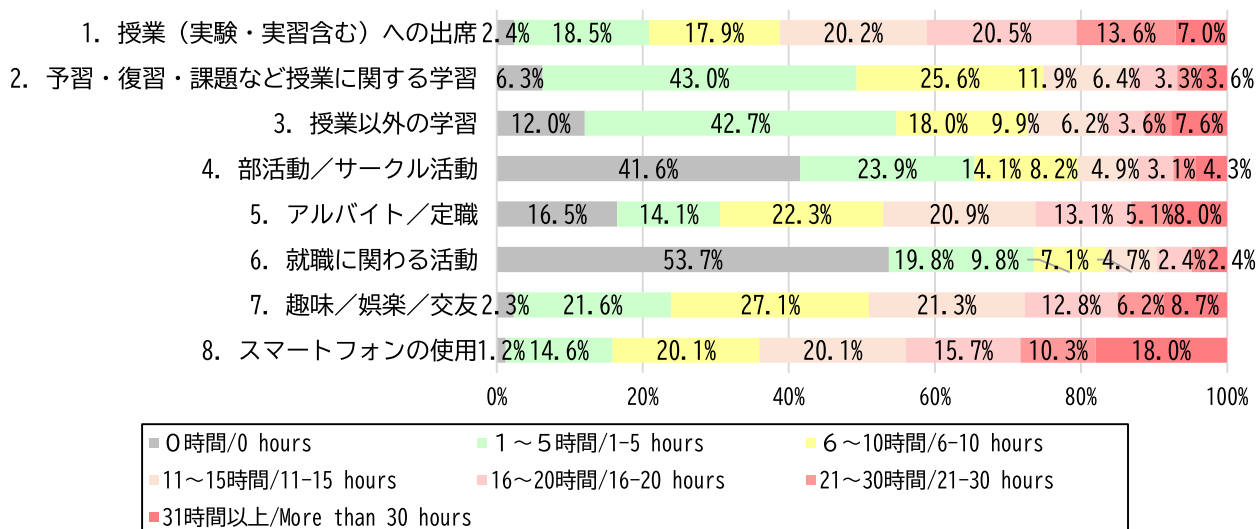
What is important to you when choosing courses?



1. Lecture content (topics, theme, learning goal, etc.), 2. Class format (lecture/seminar/experiments, etc.), 3. Class modality (face-to-face/online, etc.), 4. Instructor, 5. Day/Time, 6. Whether attendance is taken, 7. Difficulty of earning credits, 8. Whether friends are enrolled

Q04. 現在の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間について、あてはまる時間数を選択してください。

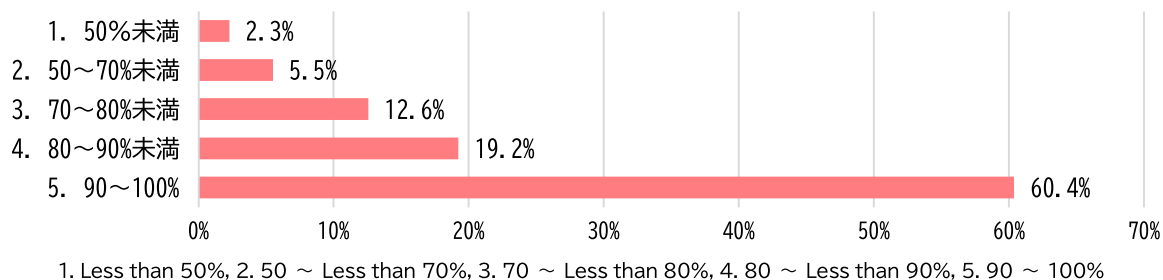
Regarding the average number of hours you spend on the following activities per week (7 days), please select the one that applies to you for each.



1. Attending classes (including experiments and practical training), 2. Preparation, review, assignments, and other class-related studying, 3. Non-class related studying, 4. Club/circle activities, 5. Part-time/full-time job, 6. Activities related to job-hunting, 7. Hobbies/entertainment/spending time with friends, 8. Smartphone use (excluding time spent using it for learning)

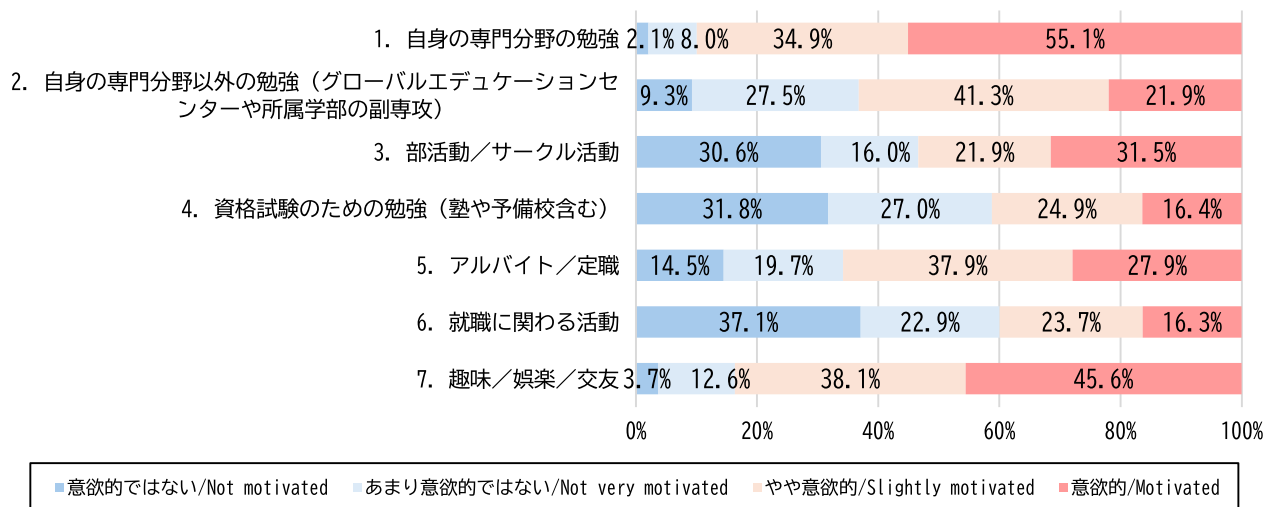
Q05. 大学（大学院）入学以降、あなたの授業平均出席率はどれくらいですか。

What is your average attendance rate since entering university (graduate school)?



Q06. あなたは大学（大学院）入学以降、次のことにどれほど意欲的に取り組んできましたか。

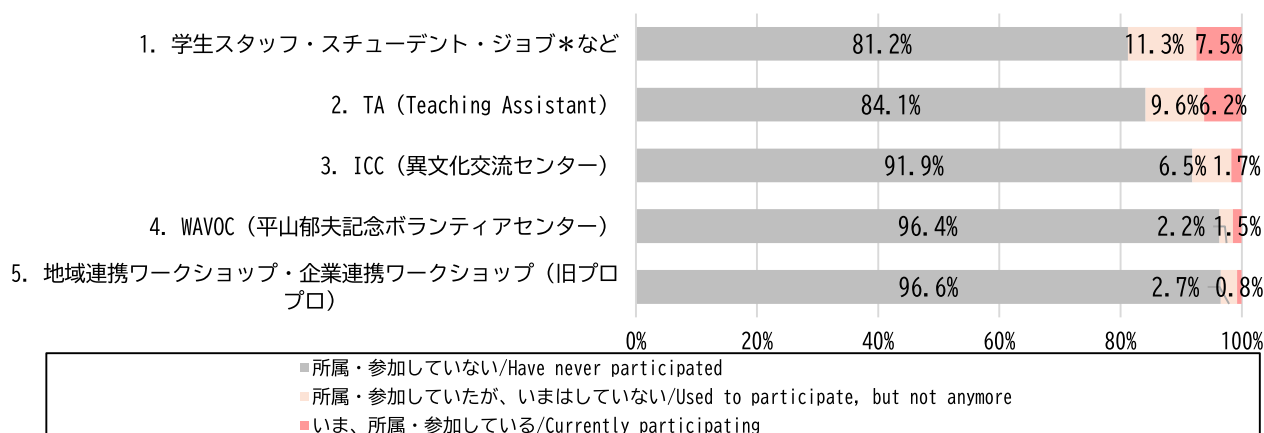
Since entering the university (graduate school), how motivated have you been to do the following?



1. Study in your field of expertise, 2. Study outside your field of expertise (Minor at the Center for Global Education or your school), 3. Club/circle activities, 4. Study for certification exams (including cram schools and prep schools), 5. Part-time/full-time job, 6. Activities related to job-hunting, 7. Hobbies/entertainment/spending time with friends

Q07. 大学（大学院）入学以降、以下のような活動に所属、参加していますか。

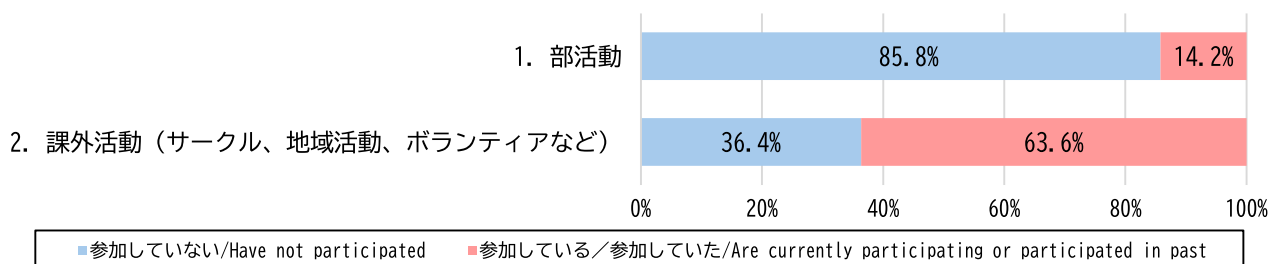
Have you participated in any of the following extracurricular activities?



1. Student staff/student job*, etc., 2. TA (Teaching Assistant), 3. ICC (Intercultural Communication Center), 4. WAVOC (Hirayama Ikuo Volunteer Center), 5. Community Collaboration Workshop/Company Collaboration Workshop (Professionals Workshop)

Q08. 大学（大学院）入学以降、以下の活動に参加していますか。

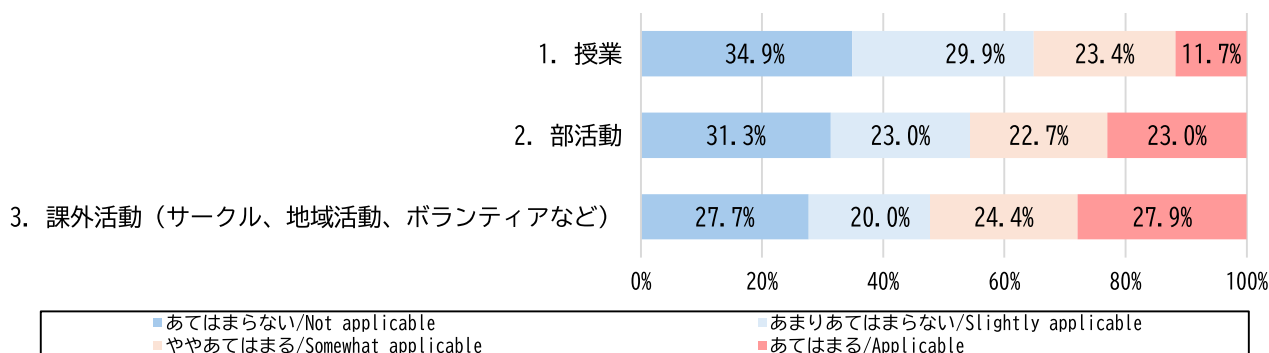
Since entering the university (graduate school), have you participated in any of the following activities?



1. Club activities, 2. Extracurricular activities (circles, community activities, volunteer work, etc.)

Q09. 大学（大学院）入学以降、以下のような活動において、リーダー的な役割を担いましたか。

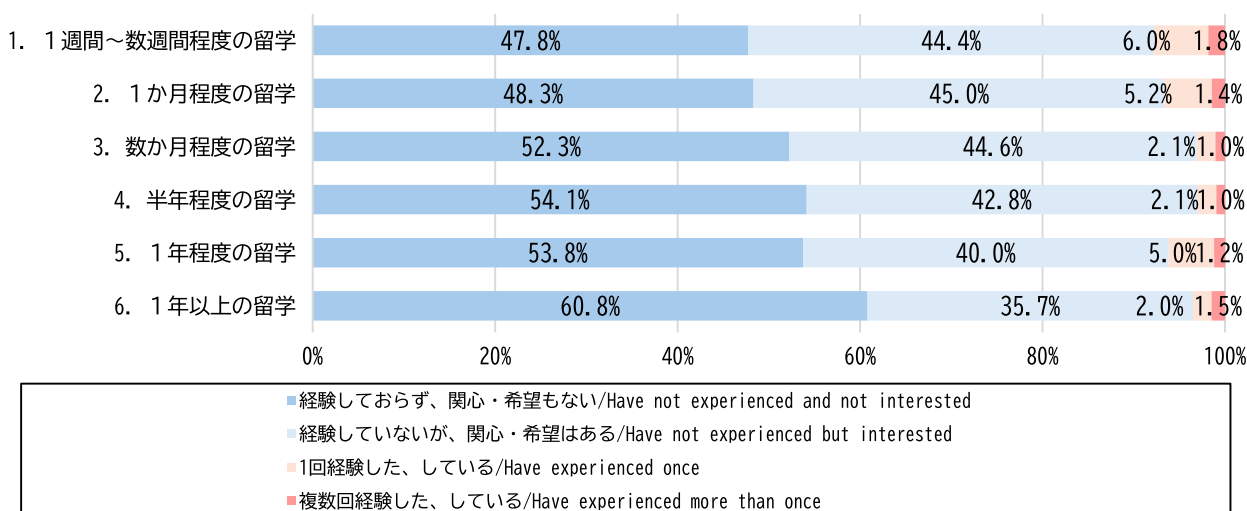
Since entering the university (graduate school), have you participated in any of the following activities?



1. Classes, 2. Club activities, 3. Extracurricular activities (circles, community activities, volunteer work, etc.)

Q10. 大学（大学院）入学以降の留学経験について、それぞれあてはまるものを選択してください。

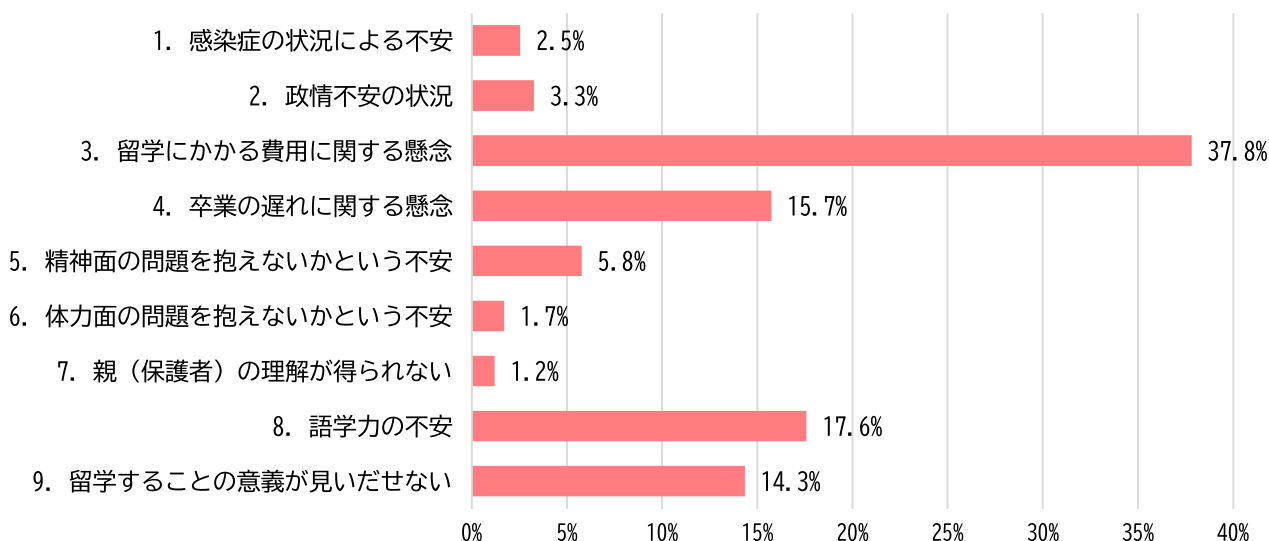
Regarding your experience of studying abroad since entering the university (graduate school), please select the one that applies to you for each.



1. Study abroad for one to several weeks, 2. Study abroad for about a month, 3. Study abroad for a few months, 4. Study abroad for about six months, 5. Study abroad for about a year, 6. Study abroad for more than a year

Q11. 【経験していない学生のみ】留学を経験していない、検討できていない最大の要因として、もっともあてはまるものを選んでください。

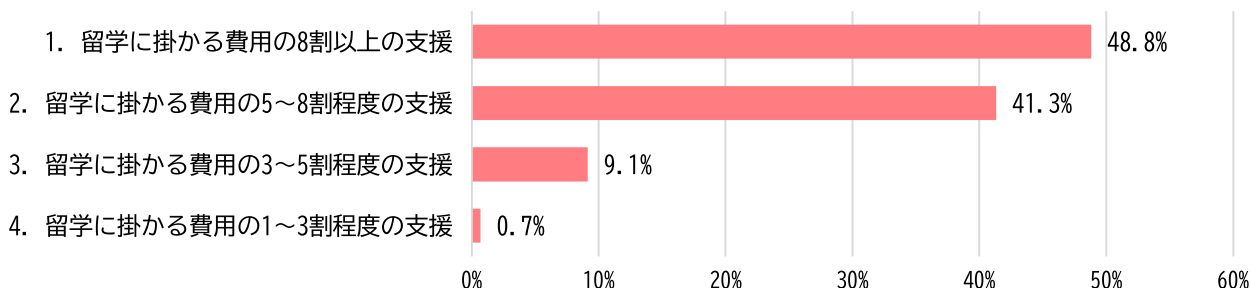
[Only for those who have not experienced studying abroad] Please select the option that best applies to you as the biggest reason why you have not studied abroad or are not considering it.



1. Anxiety about the situation with infectious diseases, 2. Political instability, 3. Concern about the cost of studying abroad, 4. Concern about delays in graduation, 5. Anxiety about whether or not you will have mental health problems, 6. Anxiety about whether or not you will have physical health problems, 7. Lack of understanding from parents (guardians), 8. Anxiety about language ability, 9. Unable to see the significance of studying abroad

Q12. 【経済的な懸念がある学生のみ】最低限どのくらいの経済的な支援が受けられれば、実際に留学を検討できるようになると思いますか。

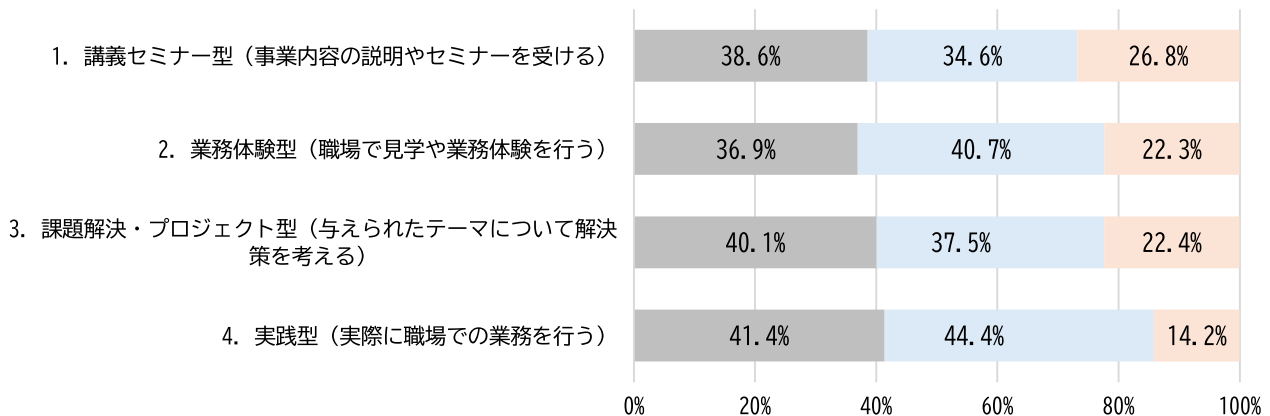
[Only for those who have concerns about the financial costs of study abroad] How much financial support would you need to be able to consider studying abroad?



1. Support for more than 80% of the expenses for studying abroad, 2. Support for about 50-80% of the expenses for studying abroad, 3. Support for about 30-50% of the expenses for studying abroad, 4. Support for about 10-30% of the expenses for studying abroad

Q13. 大学（大学院）入学以降のインターンシップ経験について、あなたの状況をお答えください。

Regarding your internship experience since entering the university (graduate school), please answer based on your situation.

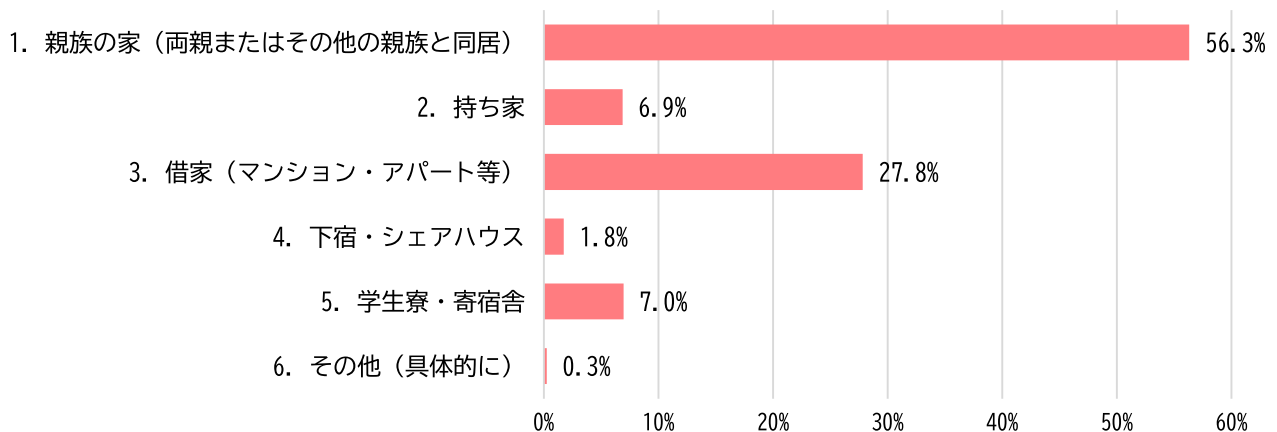


■参加しておらず、今後も参加は考えていない / I have not participated and do not plan to participate in the future
 ■参加していないが、いずれ参加したい / I have not participated but would like to participate in the future
 ■参加した／している / I have participated or currently participating

1. Lecture-seminar type (explanations or seminars regarding the business), 2. Work experience type (visit the workplace or experience the work), 3. Assignment breakthrough/project type (think of a solution for a given theme), 4. Practical type (actually work in the workplace)

Q14. いま現在の居住形態をお答えください。

Please select the type of residence you currently reside in.

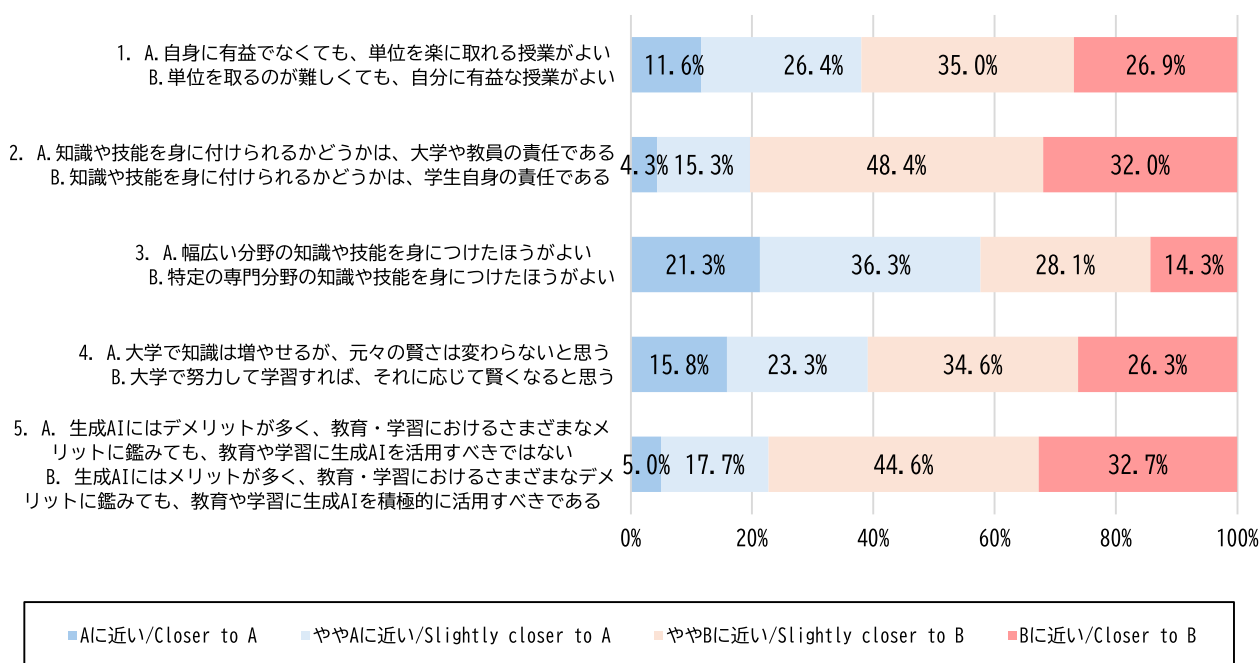


1. Relative's house (living with parents or other relatives), 2. Own house, 3. Rented house (apartment, etc.), 4. Lodging/shared house, 5. Student dormitory/boarding house, 6. Other (please specify)

2. 学修行動と学修成果の獲得・満足度

Q15. 大学（大学院）教育について、「現在の」あなたの考え方に、A、B でより近い方をそれぞれ一つ選択してください。

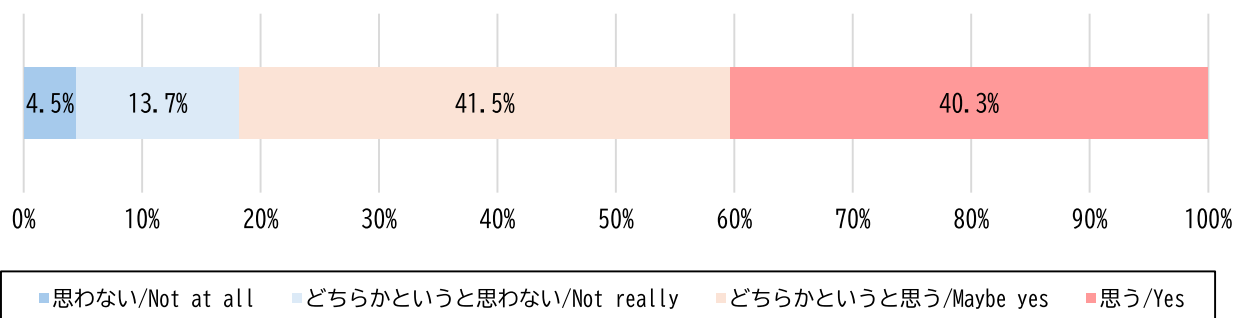
Please select the responses that are closer to A or B based on your current opinions regarding university education.



1. A. I prefer courses that are easy to get good grades in, even if it isn't beneficial to me. / B. I prefer courses that are beneficial to me, even if it is difficult to get good grades, 2. A. Whether I gain knowledge and skills is the university and faculty's responsibility. / B. Whether I gain knowledge and skills is my responsibility, 3. A. It is better to acquire knowledge and skills across various fields. / B. It is better to acquire knowledge and skills from a specific field, 4. A. You can increase your knowledge in university, but you cannot change how smart you are originally. / B. If you work hard in your university studies, you will become smarter accordingly, 5. A. Generative AI has many disadvantages, and in light of the various benefits of education and learning, we should not use generative AI for education and learning / B. Generative AI has many benefits, and in light of the various disadvantages of education and learning, we should actively use generative AI for education and learning

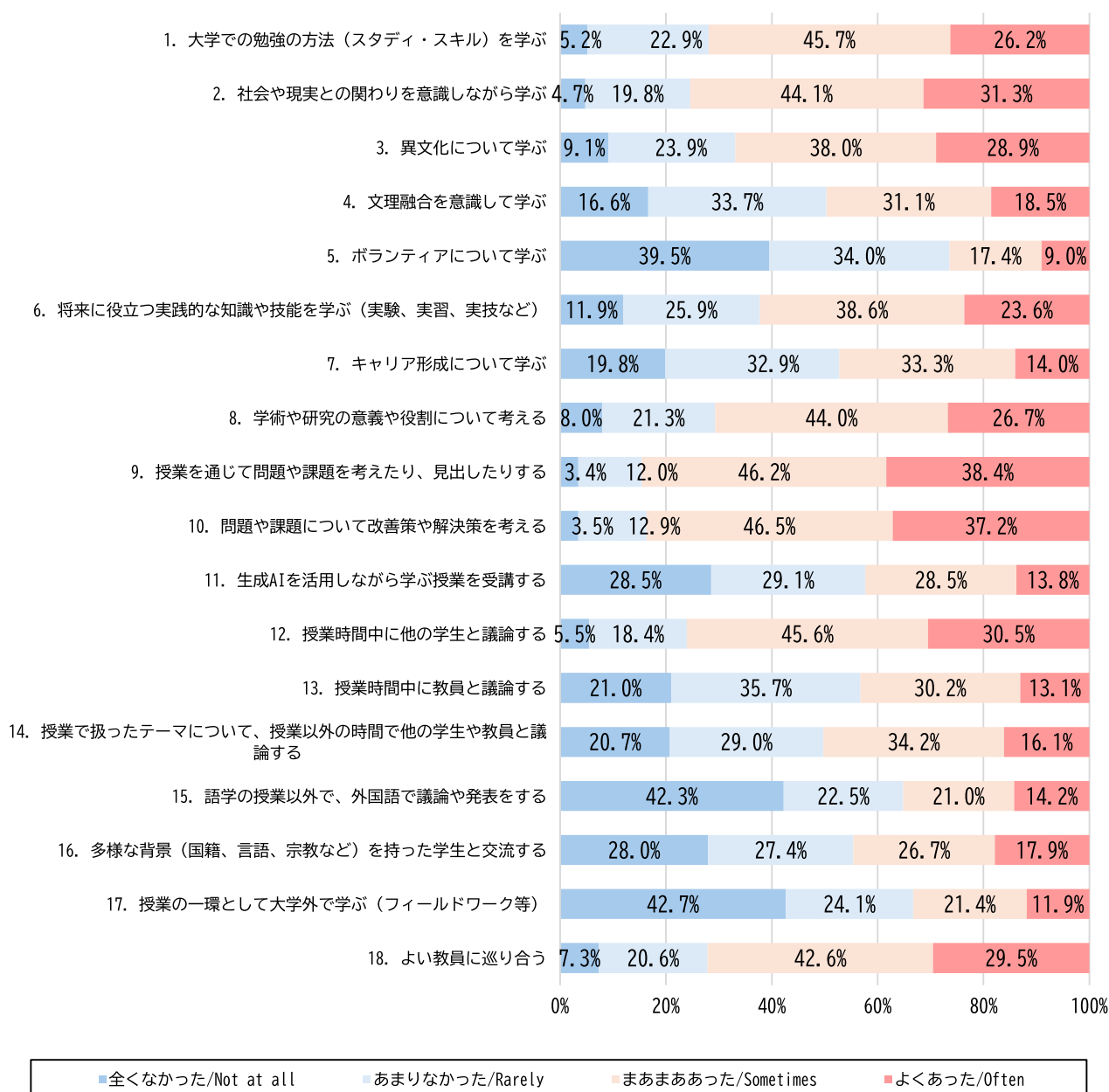
Q16. あなたは大学（学部・大学院）での授業や研究・勉強が、あなたの今後の進路先で役に立つと思いますか。

Do you feel that the courses you took and your research and studies during your time at university (undergraduate/graduate) will be useful in your future career path?



Q17. 【学部生のみ】あなたは大学に入学してからこれまでに、次のことをどれほど経験しましたか。

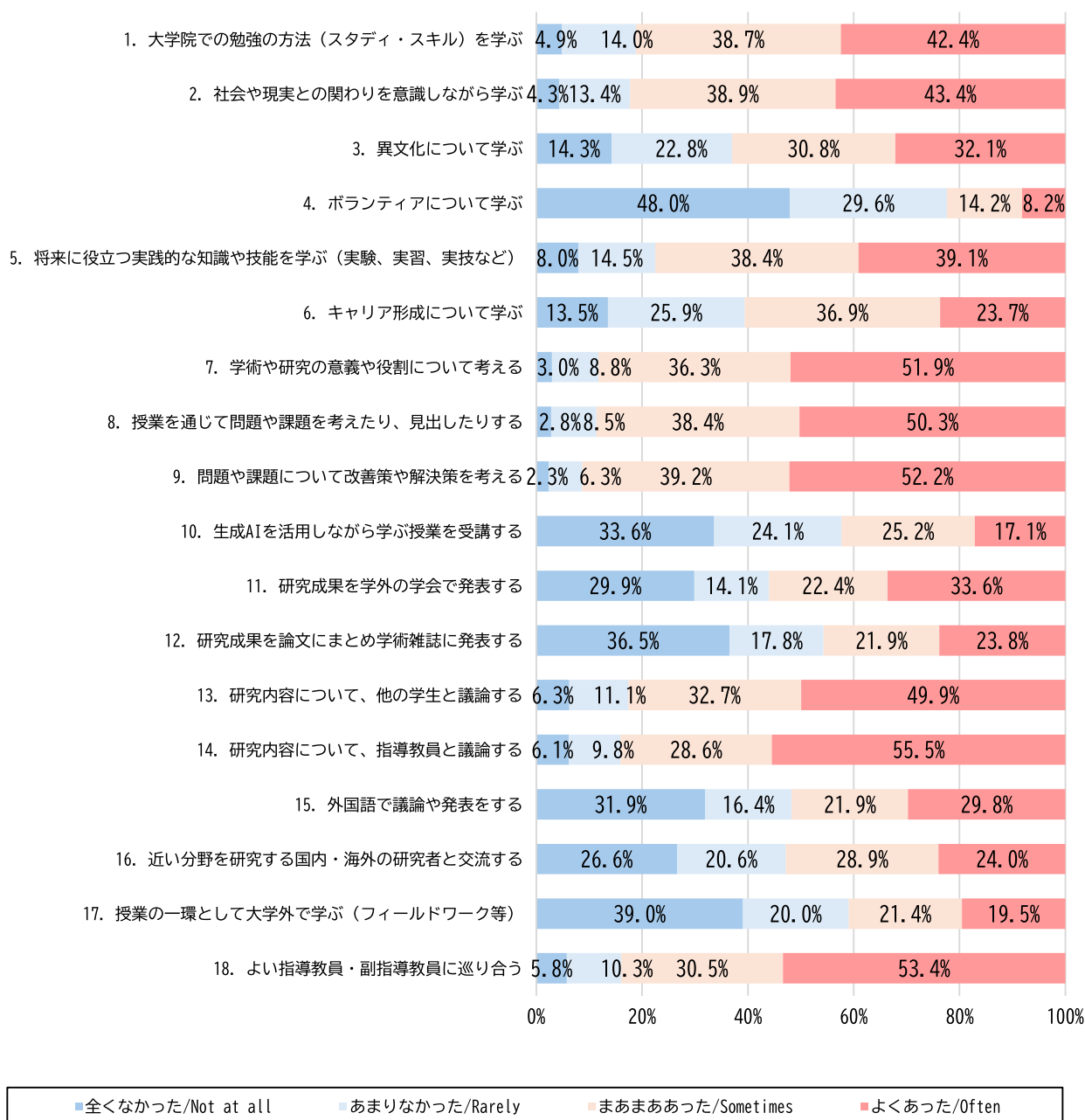
We ask you a few questions about your experiences during your undergraduate studies. How many of the following experiences did you have?



1. Learn how to study in a university (Study skills), 2. Actively participate in class such as group work, 3. Learn about other cultures, 4. Learn with an awareness of the integration of the humanities and sciences, 5. Learn about volunteering, 6. Learn practical knowledge and skills that may be useful in the future, 7. Learn about forming careers, 8. Think about the meaning and role of academic learning and research, 9. Discuss remedies and solutions to problems, 10. Learning in class how to think about and find, 11. Take classes that uses generative AI, 12. Discuss class content with other students in classes, 13. Discuss class content with faculty members in classes, 14. Discuss class content with students and/or faculty members outside of class time, 15. Discuss or present in a foreign language outside of language classes, 16. Interact with students from diverse backgrounds (nationality, language, religion, etc.), 17. Study outside the university as part of the class (e.g., fieldwork), 18. Find good faculty members

Q18. 【大学院生のみ】あなたは大学院に入学してからこれまでに、次のことをどれほど経験しましたか。

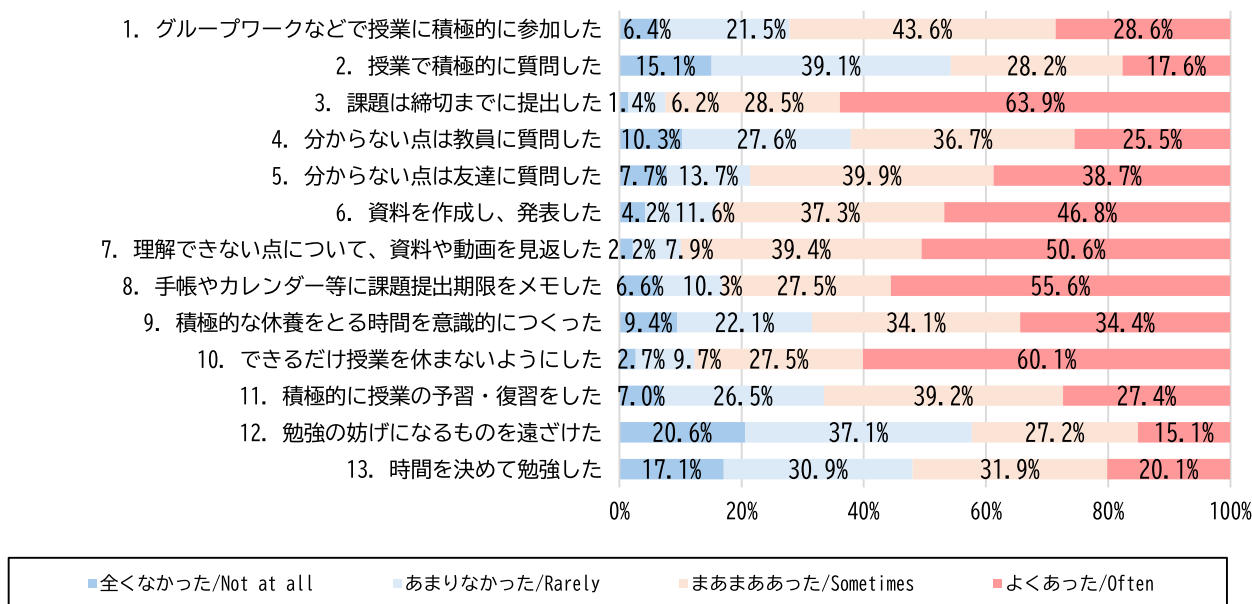
We ask you a few questions about your experiences during your graduate studies. How many of the following experiences did you have?



1. Learn how to study in a university (Study skills), 2. Actively participate in class such as group work, 3. Learn about other cultures, 4. Learn with an awareness of the integration of the humanities and sciences, 5. Learn about volunteering, 6. Learn practical knowledge and skills that may be useful in the future, 7. Learn about forming careers, 8. Think about the meaning and role of academic learning and research, 9. Discuss remedies and solutions to problems, 10. Learning in class how to think about and find, 11. Take classes that uses generative AI, 12. Discuss class content with other students in classes, 13. Discuss class content with faculty members in classes, 14. Discuss class content with students and/or faculty members outside of class time, 15. Discuss or present in a foreign language outside of language classes, 16. Interact with students from diverse backgrounds (nationality, language, religion, etc.), 17. Study outside the university as part of the class (e.g., fieldwork), 18. Find good faculty members

Q19. 大学（大学院）入学以降のあなたについて、次のことはどれほどありましたか。

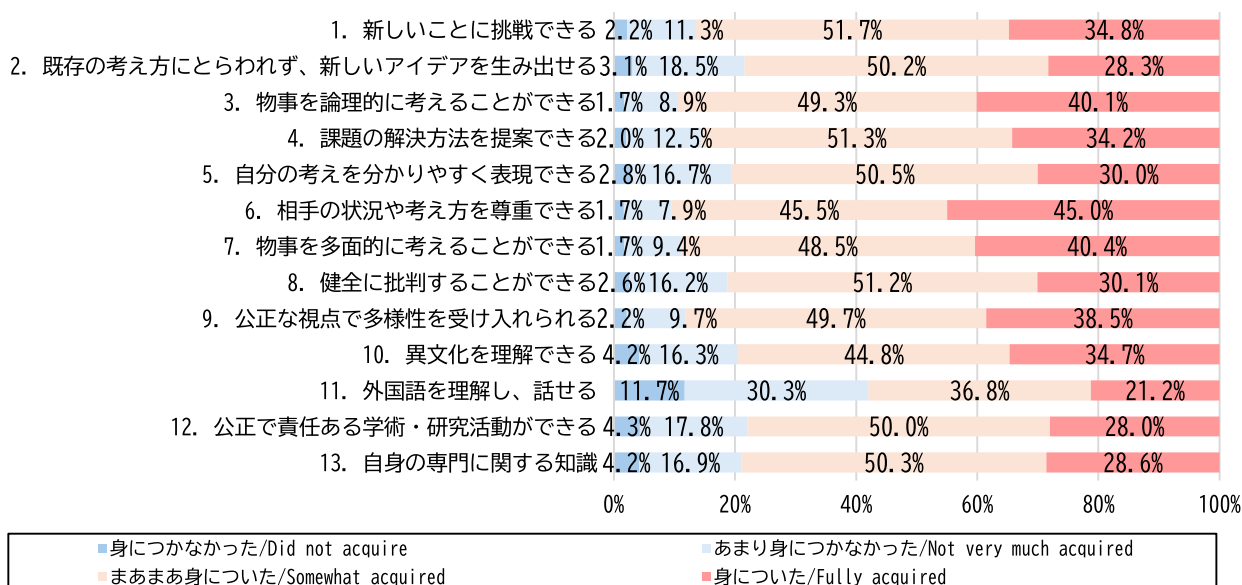
How often did you engage in efforts such as the following since entering university (graduate school)?



1. I actively participate in class such as group work, 2. I actively asked questions during class, 3. I submitted assignments by the deadlines, 4. I asked faculty about things I didn't understand, 5. I asked friends about things I didn't understand, 6. I created and presented materials, 7. When I didn't understand something, I reviewed materials or videos, 8. I took note of assignment due dates on journals or calendars, 9. I consciously created time for myself to actively rest, 10. I tried not to miss class as much as possible, 11. I made sure to prepare for class and reviewed class materials, 12. I kept away from activities, etc. that would interfere with my studies, 13. I allocated a specific time for study

Q20. いま現在、次のようなこと（知識・能力）は、どれくらい身についていると思いますか。

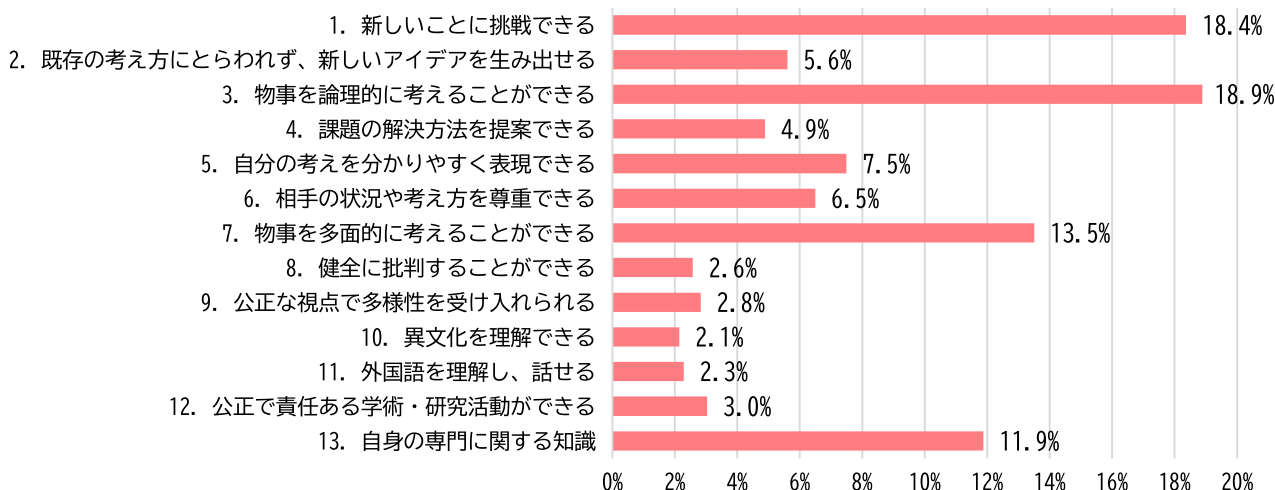
How well do you think you have acquired the following (knowledge/abilities) now?



1. Engage in new challenges, 2. Disregard preconceptions and create new ideas, 3. Think logically, 4. Suggest solutions to problems, 5. Express your thoughts in a way that is easy to understand, 6. Respect other people's circumstances and thoughts, 7. Think from multiple perspectives, 8. Engage in constructive criticism, 9. Accept diversity from a fair perspective, 10. Understand different cultures, 11. Understand and speak foreign languages, 12. Conduct responsible academic learning and research with integrity, 13. Knowledge of one's own expertise

Q21. 次の能力について、あなたが大学（大学院）に入学した時点と比較して、最も向上したと考えるものを一つ選んでください。

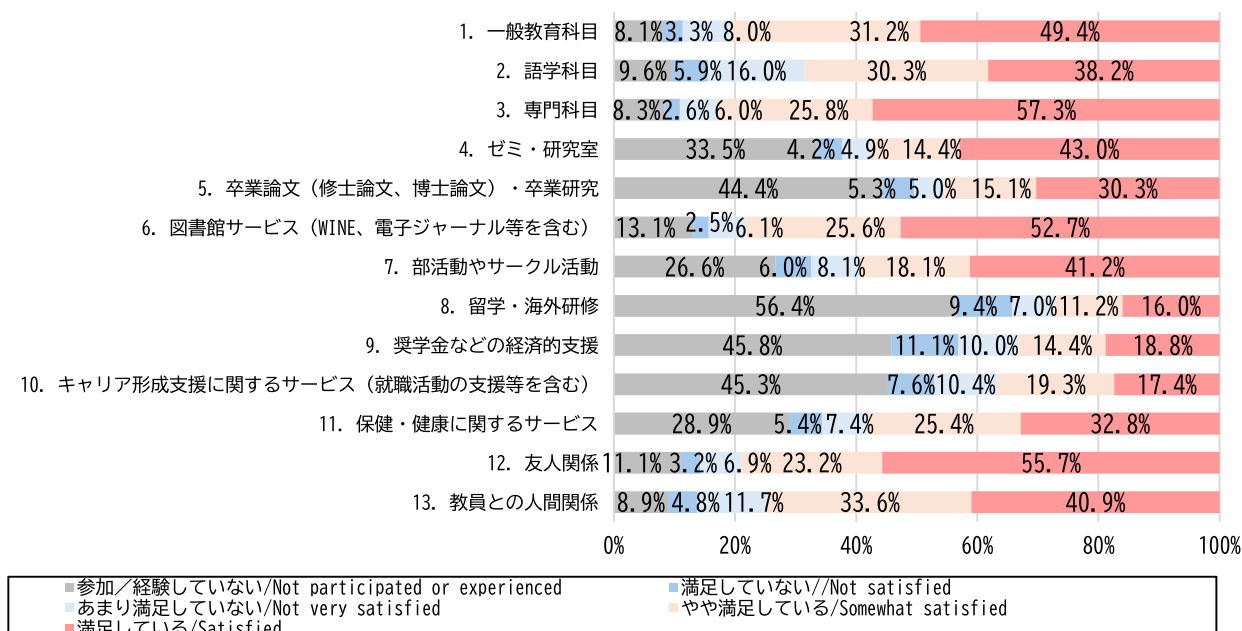
Please select one of the following abilities you believe you have improved the most compared to when you entered the university (graduate school).



1. Able to engage in new challenges, 2. Able to disregard preconceptions and create new ideas, 3. Able to think logically, 4. Able to suggest solutions to problems, 5. Able to express your thoughts in a way that is easy to understand, 6. Able to respect other people's circumstances and thoughts, 7. Able to think from multiple perspectives, 8. Able to engage in constructive criticism, 9. Able to accept diversity from a fair perspective, 10. Able to understand different cultures, 11. Able to understand and speak foreign languages, 12. Able to conduct responsible academic learning and research with integrity, 13. Knowledge of one's own expertise

Q22. これまでの大学（大学院）生活を振り返り、授業や学生生活等の満足度についてどのように評価しますか。

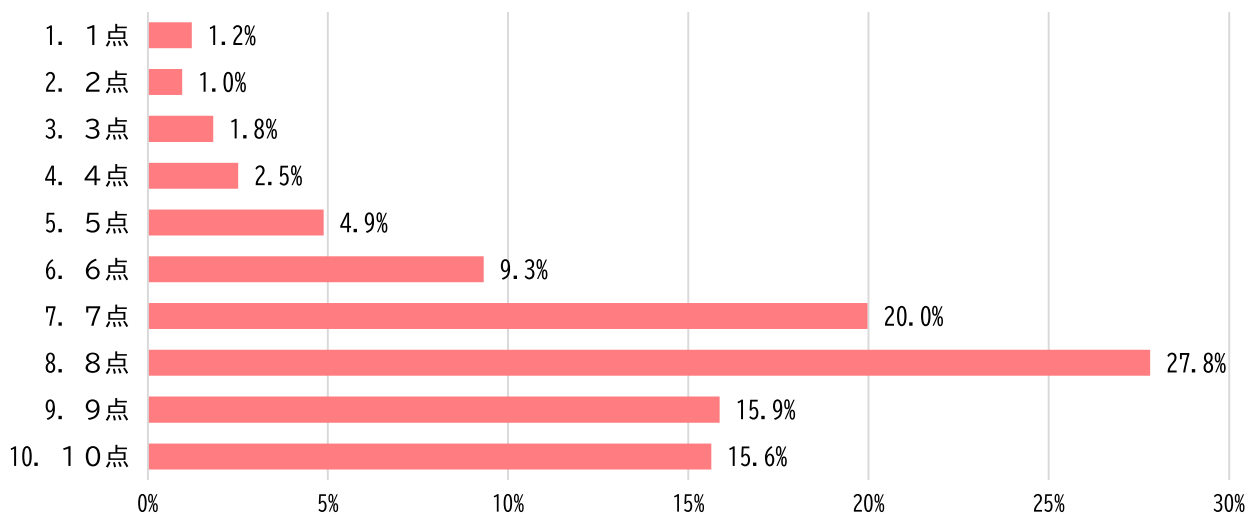
Looking back on your university life so far, how would you rate your satisfaction with your classes, student life, etc.?



1. General education subjects, 2. Language subjects, 3. Specialized subjects, 4. Seminars, laboratory activities, 5. Graduation thesis (master's/doctoral dissertation) writing/research, 6. Library services (including WINE, electronic journals, etc.), 7. Club and circle activities, 8. Study abroad and overseas training, 9. Financial support such as scholarships, 10. Services related to career development support (including job hunting support), 11. Health and wellness services, 12. Friendships, 13. Relationships with faculty

Q23. あなたのこれまでの大学（大学院）生活全般について、10 点満点で満足度得点をつけるとすれば、何点になりますか。

On a scale of 1 to 10, how would you rate your overall satisfaction with your university (graduate school) life at Waseda so far?

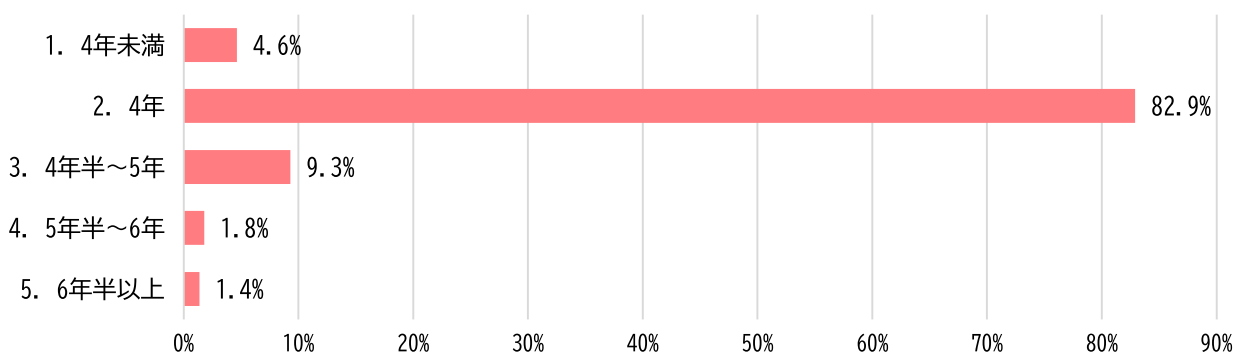


1. 1 point, 2. 2 points, 3. 3 points, 4. 4 points, 5. 5 points, 6. 6 points, 7. 7 points, 8. 8 points, 9. 9 points, 10. 10 points

Q24. 学部・研究科には何年在籍していましたか。

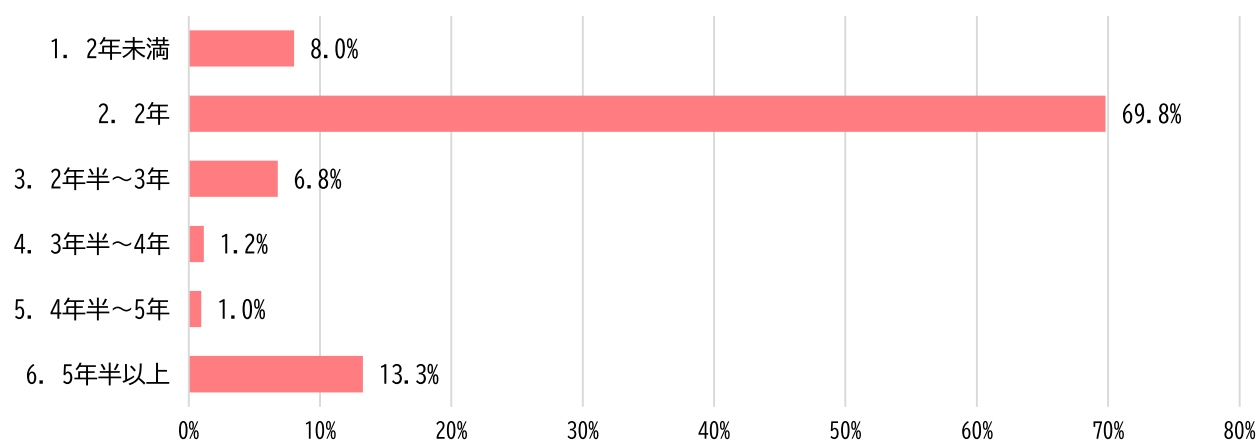
How many years were you enrolled in the school?

【学部 4 年生/4th-year undergraduate student】



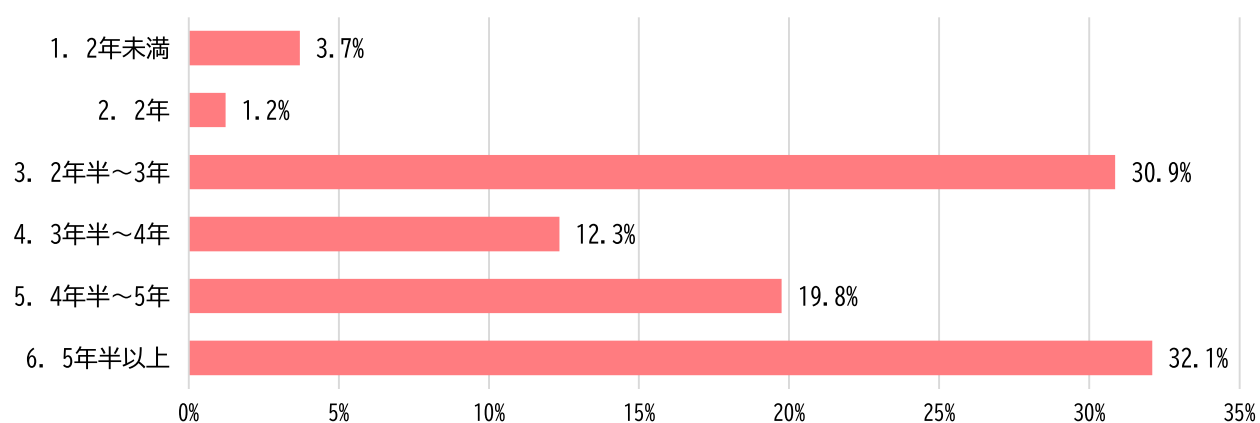
1. Less than 4 years, 2. 4 years, 3. 4.5 to 5 years, 4. 5.5 to 6 years, 5. 6.5 or more years

【修士2年生/2nd-year master' s student】



1. Less than 2 years, 2. 2 years, 3. 2.5 to 3 years, 4. 3.5 to 4 years, 5. 4.5 to 5 years 6. 5.5 or more years

【博士/Doctoral (PhD) student】

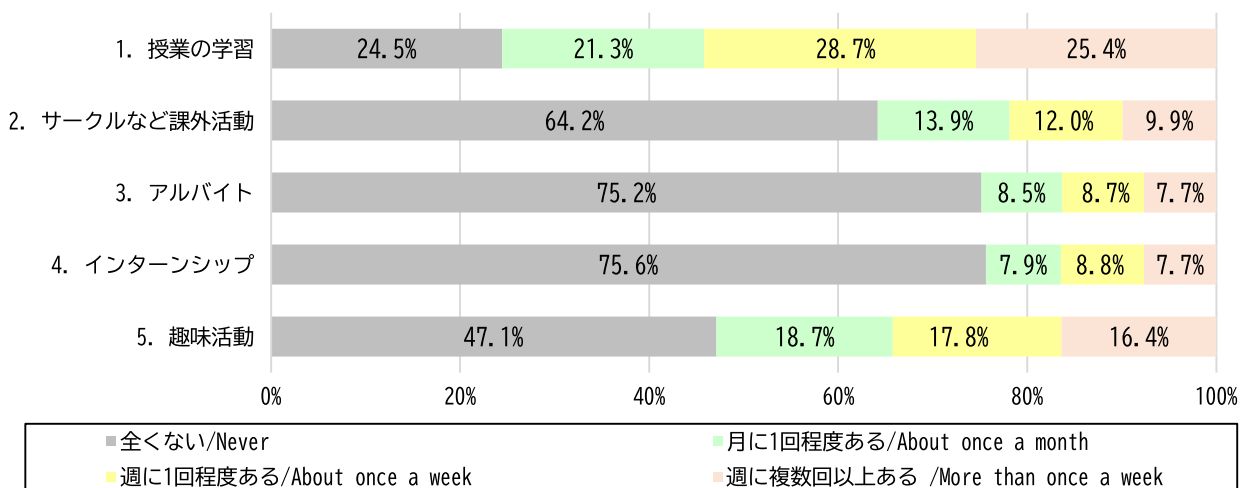


1. Less than 2 years, 2. 2 years, 3. 2.5 to 3 years, 4. 3.5 to 4 years, 5. 4.5 to 5 years 6. 5.5 or more years

Q25. あなたは、以下の場面において生成 AI サービス（テキスト生成、画像生成、音声・音楽生成、映像生成など）

をどのくらい使用していますか。

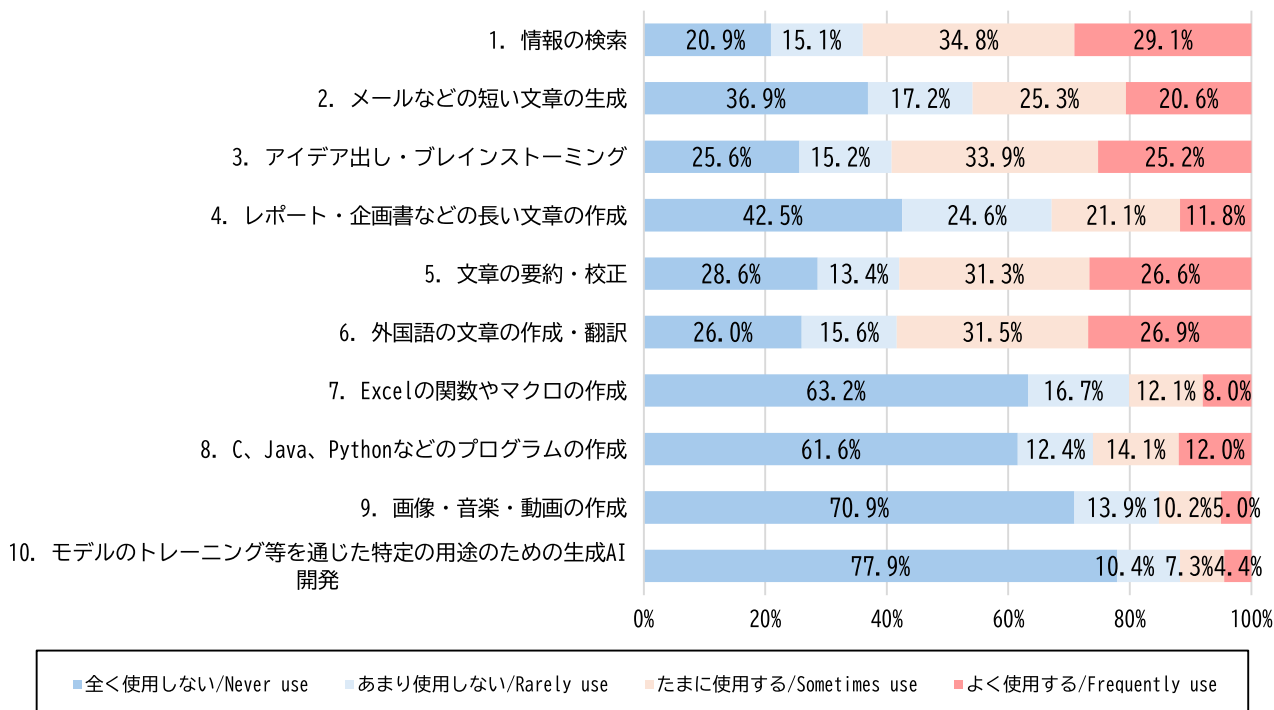
How much do you use generative AI services (text, image, music, and movie generating) in each of the following areas?



1. Study in the class, 2. Extracurricular activities such as clubs, 3. Part-time job, 4. Internship, 5. Hobby

Q26. あなたは、以下のような用途で生成 AI サービスを使用していますか。それぞれ最もあてはまるものを選択してください。

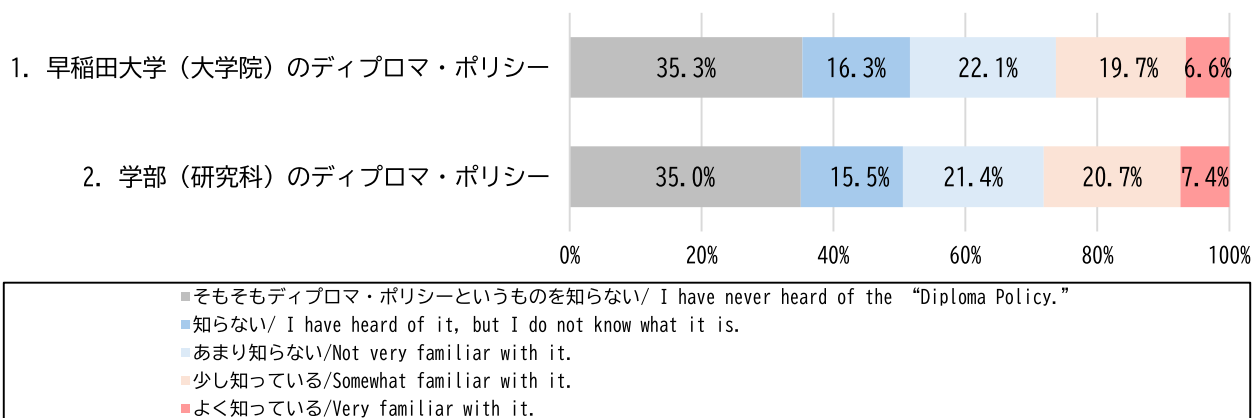
How have you used generative AI? Please select the option that best applies to you.



1. Searching for information, 2. Generating short sentences such as emails, 3. Brainstorming and generating ideas, 4. Writing longer sentences such as reports and proposals, 5. Summarizing and proofreading, 6. Foreign-language writing and translation, 7. Creating Excel functions and macros, 8. Creating programs such as C, Java and Python, 9. Creating images, music and videos, 10. Development of generative AI for specific purposes through model training, etc.

Q27. あなたは早稲田大学（大学院）のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を知っていますか。「大学（大学院）のディプロマ・ポリシー」「所属学部（研究科）のディプロマ・ポリシー」それぞれについてお答えください。

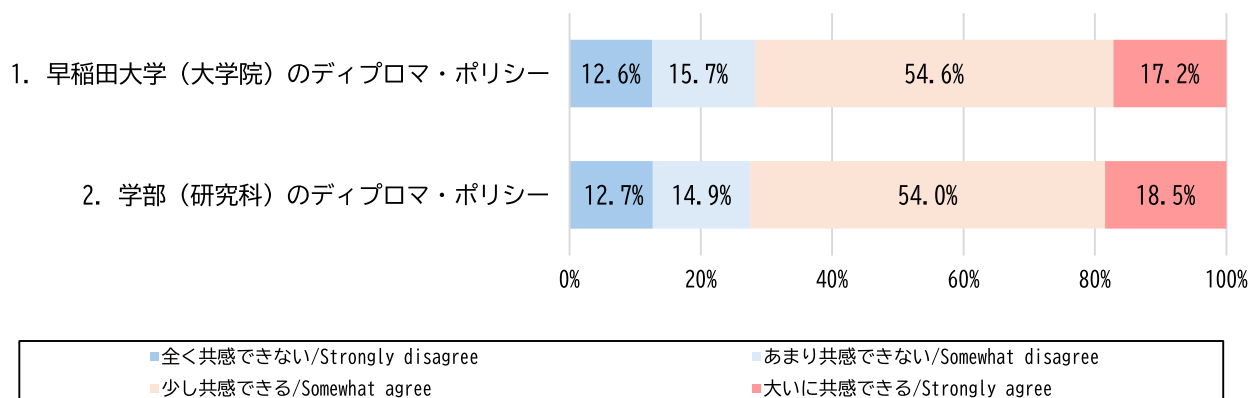
Are you aware of Waseda University's (Graduate School's) Diploma Policy (policy on degree conferment)? Please answer separately for each of the following by selecting the option that applies: "University (Graduate School) Diploma Policy" "Diploma Policy of your affiliated School/Faculty (Graduate School)"



1. University (Graduate School) Diploma Policy, 2. Diploma Policy of your School/Faculty (Graduate School)

Q28. 「大学（大学院）のディプロマ・ポリシー」および「所属学部（研究科）のディプロマ・ポリシー」の内容について、共感できるかどうか、それぞれについてお答えください。

To what extent do you agree with the content of the "University (Graduate School) Diploma Policy" and the "Diploma Policy of your affiliated School/Faculty (Graduate School)"? Please answer separately for each by selecting the option that applies.

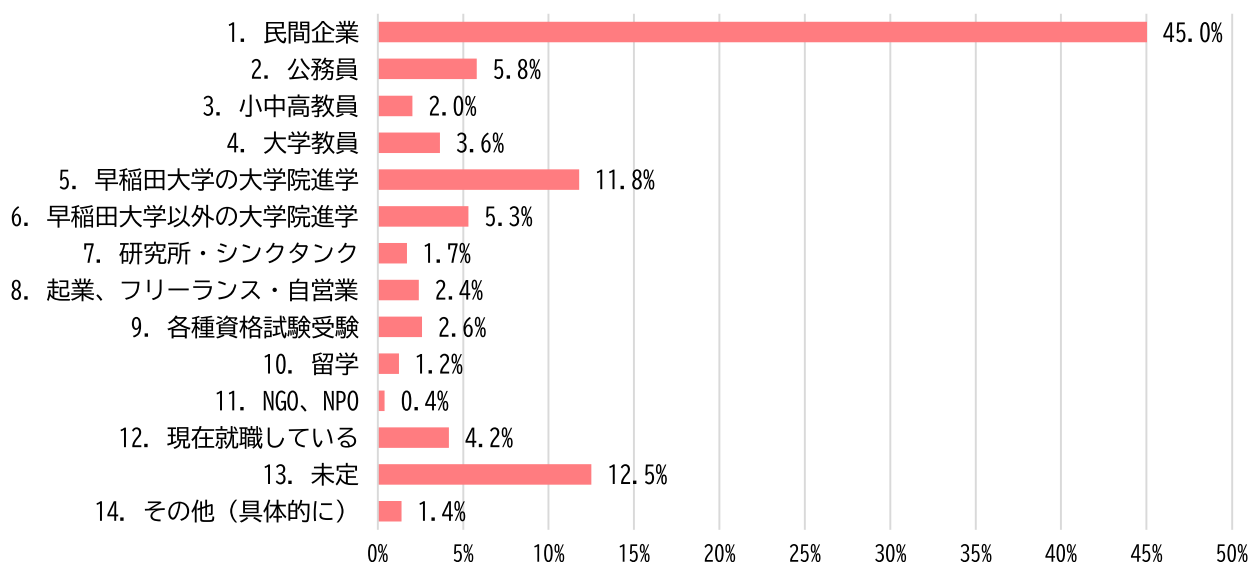


1. University (Graduate School) Diploma Policy, 2. Diploma Policy of your School/Faculty (Graduate School)

3. キャリア志向・その他

Q29. 現在、あなたは学部・大学院卒業後、どのような進路を考えていますか。最もあてはまるものを選択してください。

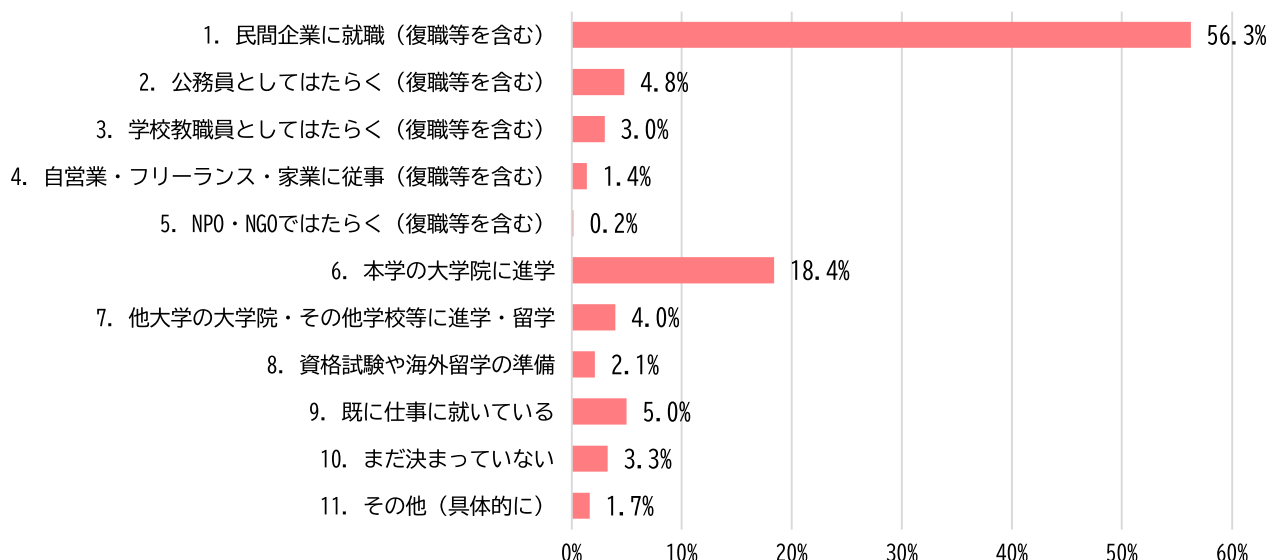
What are your current plans for after graduating from your undergraduate/graduate program? Please select all applicable responses.



1. Private corporation, 2. Public servant, 3. Elementary/Middle/High school teacher, 4. University faculty, 5. Graduate program at Waseda University, 6. Graduate program at a different university, 7. Research institute/Think tank, 8. Entrepreneurship, freelance, self-employment, 9. Certification exam, 10. Study abroad, 11. NGO, NPO, 12. I am currently employed, 13. No plans, 14. Other (Specific)

Q30. あなたの次の進路について、あてはまるものを選択してください。

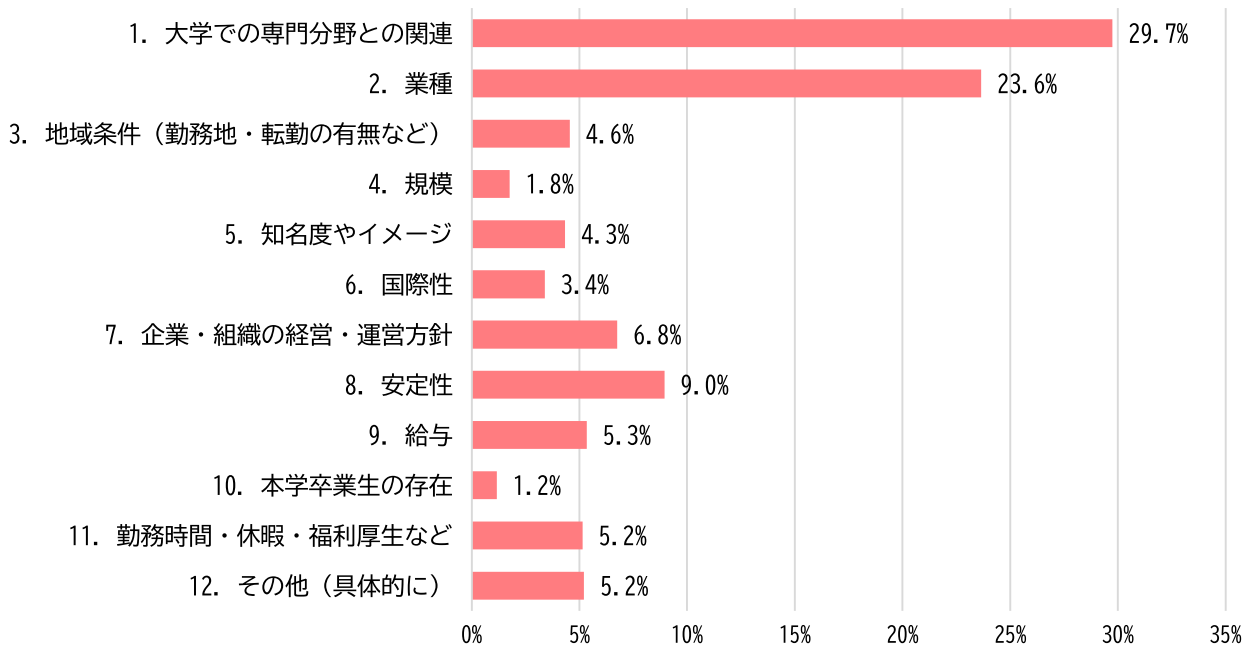
Please select the following career paths that apply to you.



1. Work in the private sector (including reinstatement), 2. Work as a government employee (including reinstatement), 3. Work as a school faculty member (including reinstatement), 4. Self-employment, freelance, or family business (including reinstatement), 5. Work at an NPO or NGO (including reinstatement), 6. Enter a graduate school at Waseda, 7. Enter a graduate school at another university or other school, 8. Preparing for a qualification examination or studying abroad, 9. Already working, 10. Not decided yet, 11. Other

Q31. 【既に仕事に就いている、もしくはまだ決まっていない、以外を選んだ場合のみ回答】あなたが次の進路を決定するにあたって最も重視したことは何ですか。

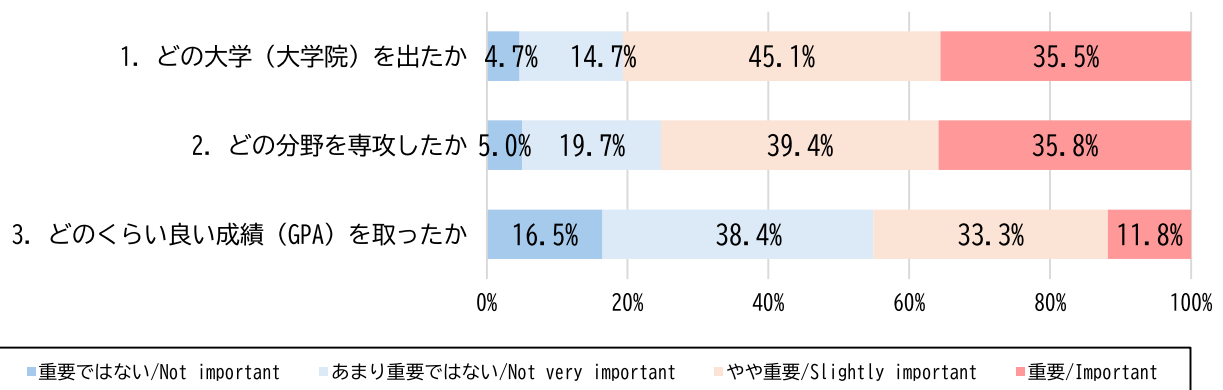
What was most important to you in determining your next career path?



1. Relevance to your field of study at the university, 2. Type of Industry, 3. Regional conditions (work location, transfer, etc.), 4. Size, 5. Name recognition and image, 6. International outlook, 7. Management policy of company or organization, 8. Stability, 9. Salary, 10. Presence of graduates of the university, 11. Working hours, vacation, benefits, etc., 12. Other (please specify)

Q32. あなたは、就職するうえで、次の点はどの程度重要だと思いますか。

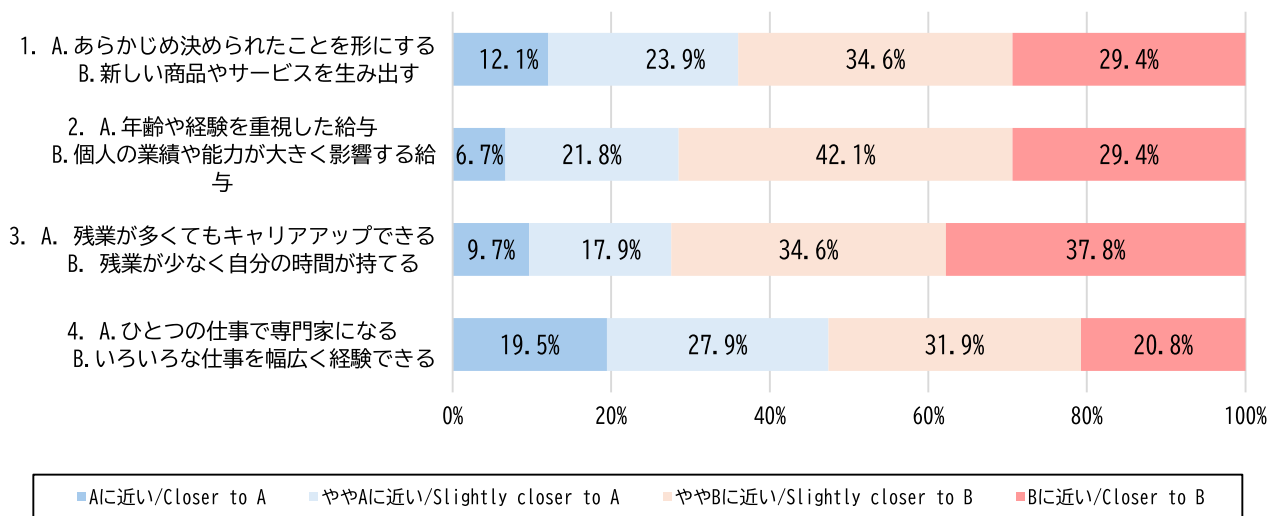
How important do you think the following points are in finding a job?



1. Which university (graduate school) you graduated from, 2. What field of study you majored in, 3. How good your grades (GPA) were

Q33. あなたは、仕事や就職先にどのようなことを望みますか、A、B でより近い方をそれぞれ一つ選択してください。

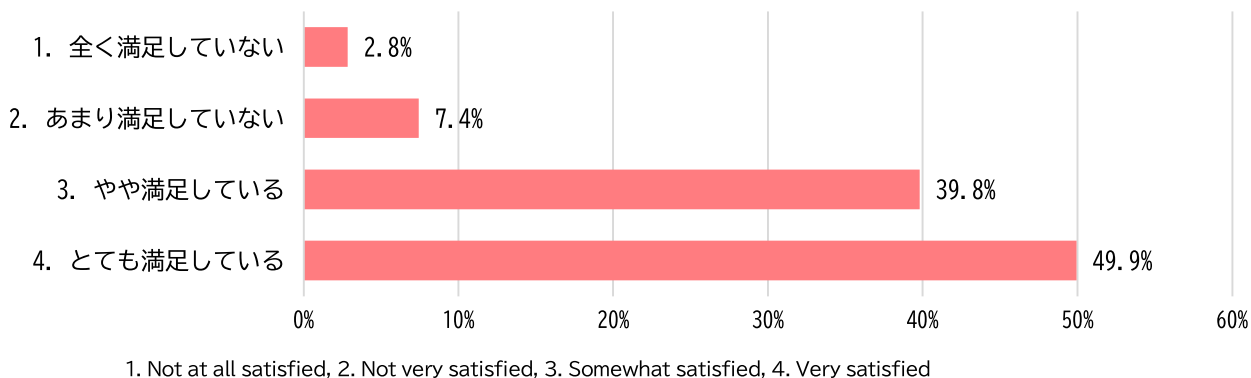
What would you like to see in a job or employer? Please select the option, A or B, that is closer to your answer.



1. A. Create what has been predetermined / B. Create new products and services, 2. A. Salary that emphasizes age and experience / B. Salary that is heavily influenced by individual performance and ability, 3. A. Moving ahead in one's career though with a lot of overtime work / B. Less overtime work and more time for yourself, 4. A. Become an expert in one job / B. Experience a wide range of different jobs

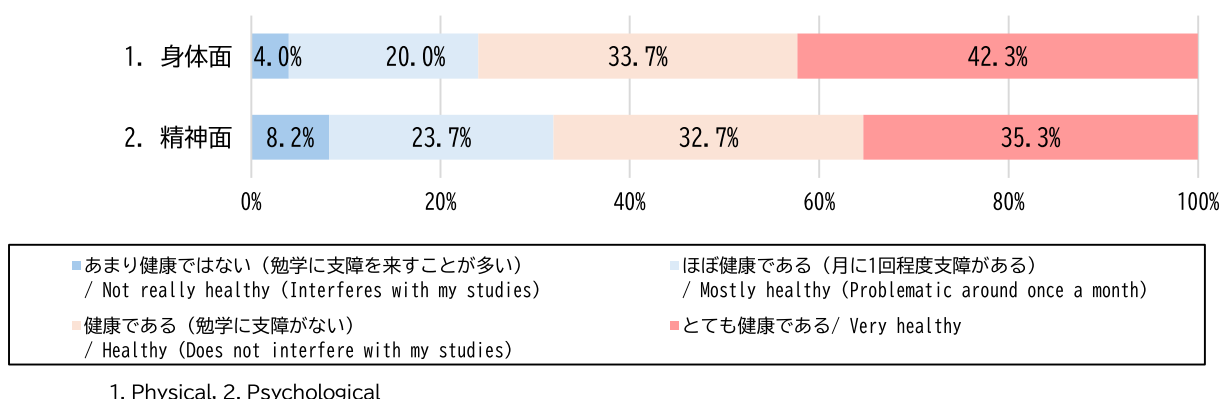
Q34. 【既に仕事に就いている、もしくはまだ決まっていない、以外を選んだ場合のみ回答】 あなたの次の進路の選択に対する満足度はどの程度ですか。

How satisfied are you with your next career choice?



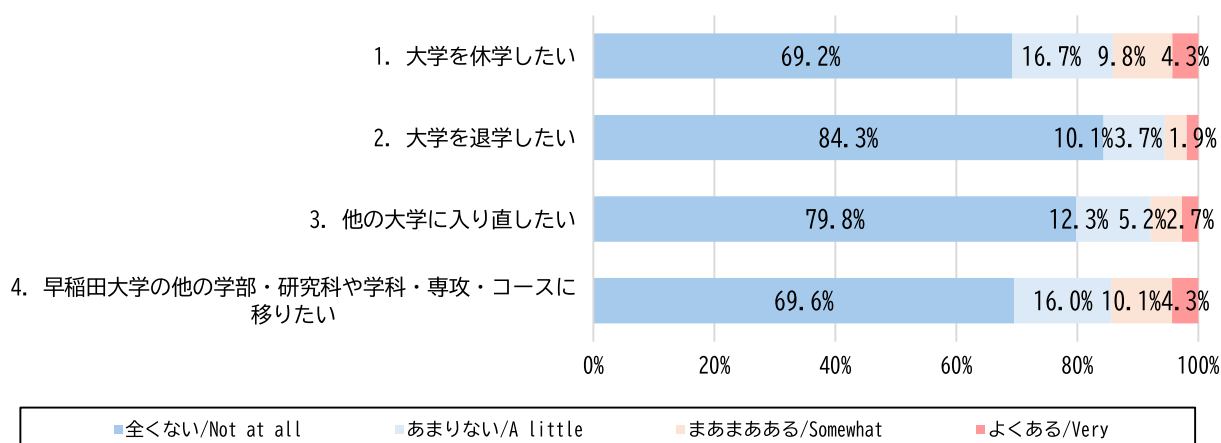
Q35. あなたは現在、身体面・精神面で健康ですか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。この質問項目に回答したくない場合には、未回答のままで結構です。

Are you currently physically and psychologically healthy? You may leave blank any questions you do not wish to answer.



Q36. 現在、次のような不安や悩みがありますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。この質問項目に回答したくない場合には、未回答のままで結構です。

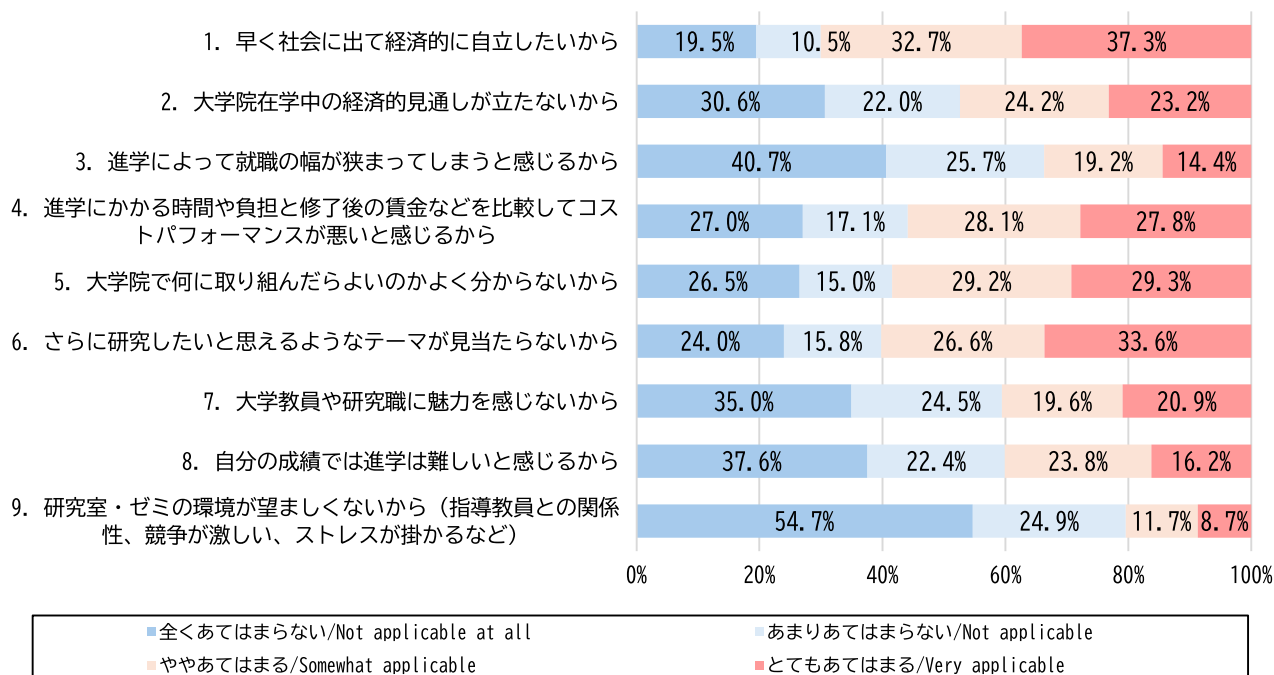
Do you currently have any of the following concerns or worries? Please select the most appropriate answer for each question. You may leave blank any questions you do not wish to answer.



1. I want to take a break from school, 2. I want to quit school, 3. I want to restart at another university, 4. I want to transfer to a different schools/graduate schools/departments/courses within Waseda University

Q37. 【学部生で、かつ大学院進学以外の進路を回答した場合のみ回答】あなたが大学院への進学をしなかった理由について、それぞれもっともあてはまるものを選択してください。

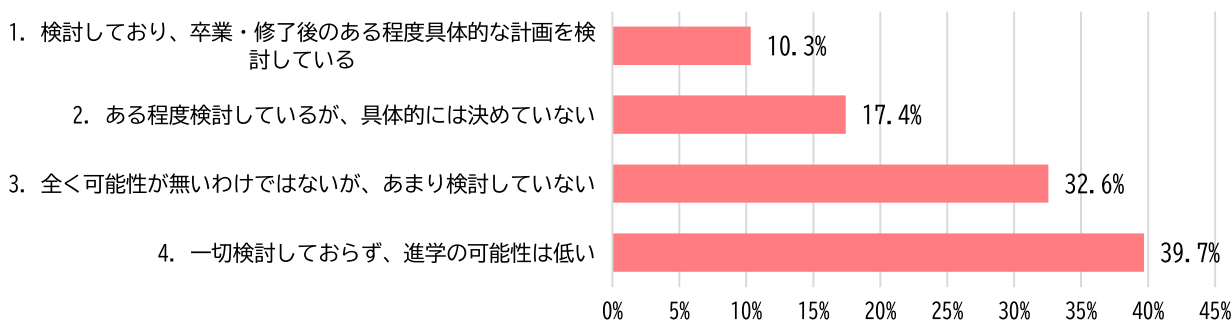
Please select the most applicable reason why you did not go on to graduate school.



1. Because I want to go out into the world and become financially independent as soon as possible, 2. Because I have no financial prospects while I am in graduate school, 3. Because I feel that continuing to graduate school will narrow my employment opportunities, 4. Because I feel that the time and burden of continuing on to graduate school is not cost-effective compared to the wages after completion, 5. Because I am not sure what I should be working on in graduate school, 6. Because I cannot find a topic that I would like to research further, 7. Because I am not attracted to university faculty or research positions, 8. Because I feel it would not be easy to continue to higher education with my grades, 9. Because the environment in my laboratory/seminar is undesirable (relationship with your academic advisor, too much competition, too much stress, etc.)

Q38. 【学部生で、かつ大学院進学以外の進路を回答した場合のみ回答】現時点で、一定期間が経過したのちに大学院（本学に限らず）に進学することを検討していますか。

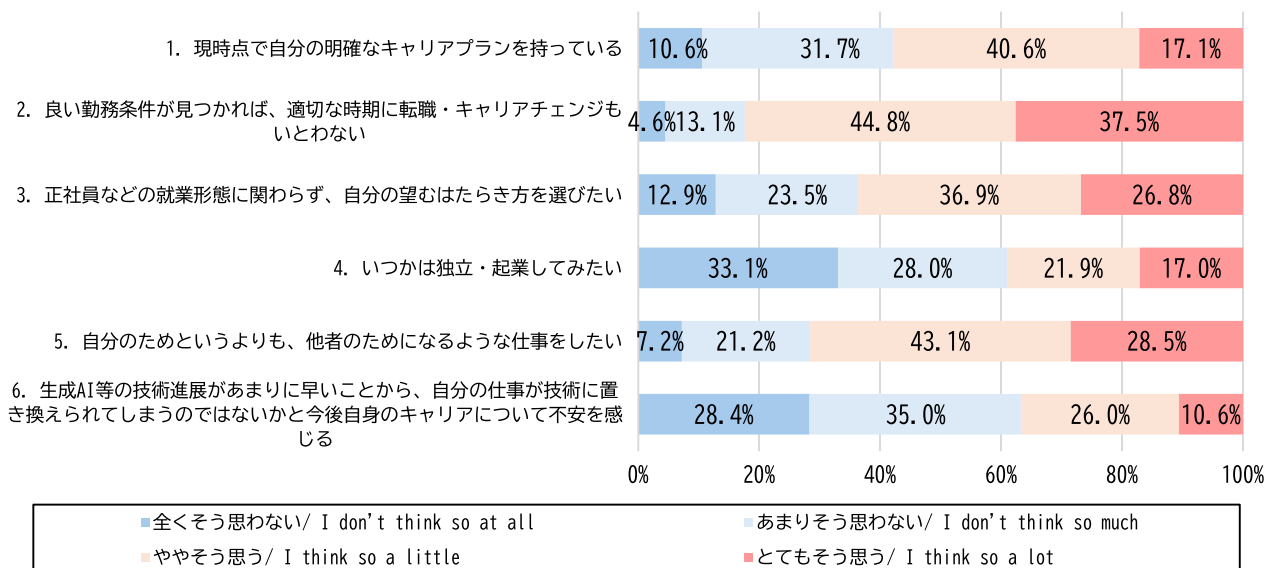
Now, are you considering going to graduate school (not just Waseda) after a certain period has passed?



1. I am considering and have some concrete plans after graduation, 2. I am considering to some extent, but have not decided on specifics, 3. It is not entirely impossible, but I haven't considered it, 4. I am not considering and interested in going to higher education at all

**Q39. 将来にわたるキャリア選択（転職など）に関する現時点でのあなたの考え方について、それぞれについても
っともあてはまるものを選択してください。**

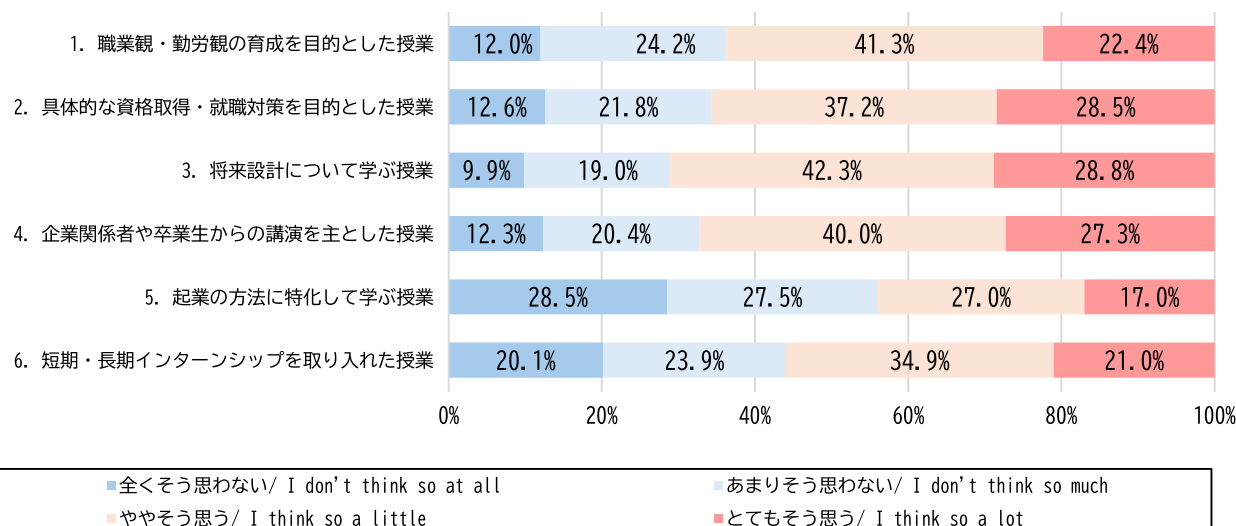
Please select the most appropriate answer for the following questions regarding your current views on future career choices (e.g., changing jobs, etc.).



1. I have a clear career plan at the moment, 2. I am willing to change jobs or change careers at the right time if I find good working conditions, 3. I want to choose the way I want to work regardless of whether I am a full-time employee or not, 4. I want to start my own business someday, 5. I want to do work that benefits others rather than myself, 6. I feel worried about my future career, as the progress of technologies such as generative AI is so rapid that I fear my job may be replaced by technology

Q40. 大学（大学院）の授業の中で、次に挙げるようなものを受講してみたかったですか。

Would you have liked to have taken the following classes at the university?



1. Classes aimed at developing views of work and labor, 2. Classes aimed at acquiring specific qualifications and preparing for employment, 3. Classes on planning for the future, 4. Classes mainly featuring lectures from company representatives and graduates, 5. Classes specializing in learning how to start a business, 6. Classes incorporating short-term and long-term internships

IV. 調査データ〈単純集計表〉

1. 在学中の学生生活

Q01. 次のことはあなたにどのくらいあてはまりますか。大学（大学院）入学以降の状況をお答えください。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	合計
少し体調が悪かったり、休んでよい理由があったりしても、できるだけ授業に出席するよう努力している	5.5% (734)	13.8% (1,854)	32.0% (4,309)	48.7% (6,556)	100% (13,453)
大学（大学院）の授業で、自分が好きではないものにも全力で取り組んでいる	6.4% (860)	23.5% (3,160)	40.1% (5,385)	30.0% (4,024)	100% (13,429)
なかなか理解できなくてもあきらめずに、しっかり勉強をつづけている	2.9% (387)	11.7% (1,571)	44.9% (6,035)	40.5% (5,436)	100% (13,429)

Q02. あなたが授業を選ぶ際に、以下の情報源はどの程度参考にしていますか。

	全く参考にしていない	あまり参考にしていない	少し参考にしている	大いに参考にしている	合計
シラバス	1.3% (173)	3.9% (512)	22.1% (2,876)	72.7% (9,481)	100.0% (13,042)
学部要項・科目登録の手引き	3.5% (468)	11.4% (1,505)	32.6% (4,319)	52.5% (6,964)	100.0% (13,256)
カリキュラムマップ（科目が体系的にまとめられている図）	24.4% (3,260)	32.0% (4,270)	25.9% (3,455)	17.8% (2,376)	100.0% (13,361)
教員の著書・論文	41.0% (5,480)	31.8% (4,258)	17.4% (2,326)	9.8% (1,310)	100.0% (13,374)
教員からのアドバイス	29.6% (3,949)	27.5% (3,668)	26.4% (3,518)	16.5% (2,193)	100.0% (13,328)
学術院事務所・学生メンター等からのアドバイス	46.8% (6,248)	24.9% (3,330)	17.1% (2,277)	11.2% (1,497)	100.0% (13,352)
市販の授業情報誌	27.7% (3,694)	14.4% (1,926)	22.1% (2,950)	35.8% (4,787)	100.0% (13,357)
先輩・サークルからの情報または友人とのやり取り	10.6% (1,415)	10.4% (1,396)	35.1% (4,706)	43.9% (5,876)	100.0% (13,393)
自身が過去に履修した授業の経験	5.3% (703)	8.4% (1,123)	38.7% (5,180)	47.7% (6,380)	100.0% (13,386)

Q03. あなたが授業を選ぶ際に重視することは何ですか。

	重視していない	あまり重視していない	やや重視している	重視している	合計
講義内容（授業で扱うテーマ、到達目標など）	1.1% (143)	2.8% (371)	24.2% (3,251)	71.9% (9,651)	100% (13,416)
授業形態（講義・演習・実験など）	3.5% (474)	11.1% (1,491)	35.1% (4,700)	50.2% (6,731)	100% (13,396)
授業方法（対面・オンラインなど）	4.5% (600)	12.0% (1,601)	33.2% (4,439)	50.4% (6,747)	100% (13,387)
担当教員	8.3% (1,117)	19.0% (2,541)	34.0% (4,553)	38.6% (5,171)	100% (13,382)
曜日・時間帯	3.7% (494)	5.2% (702)	24.7% (3,302)	66.4% (8,895)	100% (13,393)
出席チェックの有無	27.7% (3,709)	29.2% (3,898)	23.1% (3,085)	20.0% (2,674)	100% (13,366)
単位修得の難易	10.1% (1,353)	14.6% (1,957)	33.3% (4,460)	42.0% (5,624)	100% (13,394)
友人の履修状況	26.7% (3,567)	23.2% (3,103)	28.1% (3,755)	22.1% (2,953)	100% (13,378)

Q04. 現在の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間について、あてはまる時間数を選択してください。

	0時間	1～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	21～30時間	31時間以上	合計
授業（実験・実習含む）への出席	2.4% (320)	18.5% (2,475)	17.9% (2,391)	20.2% (2,701)	20.5% (2,740)	13.6% (1,820)	7.0% (939)	100.0% (13,386)
予習・復習・課題など授業に関する学習	6.3% (842)	43.0% (5,750)	25.6% (3,421)	11.9% (1,590)	6.4% (860)	3.3% (437)	3.6% (475)	100.0% (13,375)
授業以外の学習	12.0% (1,607)	42.7% (5,691)	18.0% (2,398)	9.9% (1,318)	6.2% (823)	3.6% (485)	7.6% (1,017)	100.0% (13,339)
部活動／サークル活動	41.6% (5,539)	23.9% (3,179)	14.1% (1,884)	8.2% (1,088)	4.9% (659)	3.1% (411)	4.3% (568)	100.0% (13,328)
アルバイト／定職	16.5% (2,202)	14.1% (1,881)	22.3% (2,973)	20.9% (2,786)	13.1% (1,747)	5.1% (679)	8.0% (1,072)	100.0% (13,340)
就職に関わる活動	53.7% (7,150)	19.8% (2,639)	9.8% (1,309)	7.1% (940)	4.7% (629)	2.4% (322)	2.4% (321)	100.0% (13,310)
趣味／娯楽／交友	2.3% (311)	21.6% (2,881)	27.1% (3,613)	21.3% (2,843)	12.8% (1,705)	6.2% (828)	8.7% (1,165)	100.0% (13,346)
スマートフォンの使用	1.2% (165)	14.6% (1,955)	20.1% (2,685)	20.1% (2,680)	15.7% (2,098)	10.3% (1,371)	18.0% (2,404)	100.0% (13,358)

Q05. 大学（大学院）入学以降、あなたの授業平均出席率はどれくらいですか。

50%未満	50～70%未満	70～80%未満	80～90%未満	90～100%	合計
2.3% (307)	5.5% (739)	12.6% (1,686)	19.2% (2,581)	60.4% (8,100)	100.0% (13,413)

Q06. あなたは大学（大学院）入学以降、次のことにどれほど意欲的に取り組んできましたか。

	意欲的ではない	あまり意欲的ではない	やや意欲的	意欲的	合計
自身の専門分野の勉強	2.1% (278)	8.0% (1,070)	34.9% (4,671)	55.1% (7,378)	100.0% (13,397)
自身の専門分野以外の勉強（グローバルエデュケーションセンターや所属学部副専攻）	9.3% (1,241)	27.5% (3,685)	41.3% (5,522)	21.9% (2,938)	100.0% (13,386)
部活動／サークル活動	30.6% (4,087)	16.0% (2,144)	21.9% (2,928)	31.5% (4,210)	100.0% (13,369)
資格試験のための勉強（塾や予備校含む）	31.8% (4,245)	27.0% (3,603)	24.9% (3,322)	16.4% (2,190)	100.0% (13,360)
アルバイト／定職	14.5% (1,935)	19.7% (2,643)	37.9% (5,069)	27.9% (3,736)	100.0% (13,383)
就職に関わる活動	37.1% (4,958)	22.9% (3,057)	23.7% (3,160)	16.3% (2,182)	100.0% (13,357)
趣味／娯楽／交友	3.7% (491)	12.6% (1,692)	38.1% (5,101)	45.6% (6,102)	100.0% (13,386)

Q07. 大学（大学院）入学以降、以下のような活動に所属、参加していますか。

	所属・参加していない	所属・参加していたが、いまはしていない	いま、所属・参加している	合計
学生スタッフ・スチューデント・ジョブ*など	81.2% (10,721)	11.3% (1,497)	7.5% (984)	100.0% (13,202)
TA (Teaching Assistant)	84.1% (11,013)	9.6% (1,263)	6.2% (814)	100.0% (13,090)
ICC (異文化交流センター)	91.9% (11,992)	6.5% (843)	1.7% (221)	100.0% (13,056)
WAVOC (平山郁夫記念ボランティアセンター)	96.4% (12,546)	2.2% (286)	1.5% (189)	100.0% (13,021)
地域連携ワークショップ・企業連携ワークショップ(旧プロプロ)	96.6% (12,513)	2.7% (344)	0.8% (100)	100.0% (12,957)

Q08. 大学（大学院）入学以降、以下の活動に参加していますか。

	参加していない	参加している／参加していた	合計
部活動	85.8% (11,395)	14.2% (1,884)	100.0% (13,279)
課外活動（サークル、地域活動、ボランティアなど）	36.4% (4,862)	63.6% (8,508)	100.0% (13,370)

Q09. 大学（大学院）入学以降、以下のような活動において、リーダー的な役割を担いましたか。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	合計
授業	34.9% (4,010)	29.9% (3,440)	23.4% (2,694)	11.7% (1,349)	100.0% (11,493)
部活動	31.3% (550)	23.0% (404)	22.7% (398)	23.0% (404)	100.0% (1,756)
課外活動（サークル、地域活動、ボランティアなど）	27.7% (2,253)	20.0% (1,630)	24.4% (1,981)	27.9% (2,271)	100.0% (8,135)

Q10. 大学（大学院）入学以降の留学経験について、それぞれあてはまるものを選択してください。

	経験しておらず、関心・希望もない	経験していないが、関心・希望はある	1 回経験した／している	複数回経験した／している	合計
1 週間～数週間程度の留学	47.8% (6,094)	44.4% (5,669)	6.0% (764)	1.8% (231)	100.0% (12,758)
1 か月程度の留学	48.3% (6,106)	45.0% (5,687)	5.2% (655)	1.4% (183)	100.0% (12,631)
数か月程度の留学	52.3% (6,577)	44.6% (5,614)	2.1% (264)	1.0% (131)	100.0% (12,586)
半年程度の留学	54.1% (6,808)	42.8% (5,382)	2.1% (266)	1.0% (120)	100.0% (12,576)
1 年程度の留学	53.8% (6,776)	40.0% (5,047)	5.0% (629)	1.2% (150)	100.0% (12,602)
1 年以上の留学	60.8% (7,649)	35.7% (4,487)	2.0% (255)	1.5% (187)	100.0% (12,578)

Q11. 【経験していない学生のみ】留学を経験していない、検討できていない最大の要因として、もっともあてはまるものを選んでください。

感染症の状況による不安	政情不安の状況	留学にかかる費用に関する懸念	卒業の遅れに関する懸念	精神面の問題を抱えないかという不安	体力面の問題を抱えないかという不安	親（保護者）の理解が得られない	語学力の不安	留学することの意義が見いだせない	合計
2.5% (300)	3.3% (386)	37.8% (4,458)	15.7% (1,855)	5.8% (681)	1.7% (201)	1.2% (141)	17.6% (2,073)	14.3% (1,691)	100% (11,786)

Q12. 【経済的な懸念がある学生のみ】最低限どのくらいの経済的な支援が受けられれば、実際に留学を検討できるようになると思いますか。

留学に掛かる費用の 8 割以上の支援	留学に掛かる費用の 5～8 割程度の支援	留学に掛かる費用の 3～5 割程度の支援	留学に掛かる費用の 1～3 割程度の支援	合計
48.8% (2,169)	41.3% (1,836)	9.1% (406)	0.7% (31)	100% (4,442)

Q13. 大学（大学院）入学以降のインターンシップ経験について、あなたの状況をお答えください。

	参加しておらず、 今後も参加は考 えていない	参加していない が、いずれ参加 したい	参加した／して いる	合計
講義セミナー型（事業内容の説明やセミナーを受ける）	38.6% (4,943)	34.6% (4,432)	26.8% (3,438)	100.0% (12,813)
業務体験型（職場で見学や業務体験を行う）	36.9% (4,943)	40.7% (4,432)	22.3% (3,438)	100.0% (12,813)
課題解決・プロジェクト型（与えられたテーマについて解決策を考える）	40.1% (4,943)	37.5% (4,432)	22.4% (3,438)	100.0% (12,813)
実践型（実際に職場での業務を行う）	41.4% (4,943)	44.4% (4,432)	14.2% (3,438)	100.0% (12,813)

Q14. いま現在の居住形態をお答えください。

親族の家（両親 またはその他の 親族と同居）	持ち家	借家（マンショ ン・アパート等）	下宿・シェアハ ウス	学生寮・寄宿舍	その他（具体的 に）	合計
56.3% (7,264)	6.9% (886)	27.8% (3,589)	1.8% (226)	7.0% (897)	0.3% (33)	100% (12,895)

2. 学修行動と学修成果の獲得・満足度

Q15. 大学（大学院）教育について、「現在の」あなたの考え方に、A、B でより近い方をそれぞれ一つ選択してください。

	A に近い	やや A に近い	やや B に近い	B に近い	合計
A. 自身に有益でなくても、単位を楽に取れる授業がよい B. 単位を取るのが難しくても、自分に有益な授業がよい	11.6% (1,433)	26.4% (3,247)	35.0% (4,312)	26.9% (3,313)	100% (12,305)
A. 知識や技能を身に付けられるかどうかは、大学や教員の責任である B. 知識や技能を身に付けられるかどうかは、学生自身の責任である	4.3% (534)	15.3% (1,883)	48.4% (5,952)	32.0% (3,933)	100% (12,302)
A. 幅広い分野の知識や技能を身につけたほうがよい B. 特定の専門分野の知識や技能を身につけたほうがよい	21.3% (2,620)	36.3% (4,464)	28.1% (3,449)	14.3% (1,757)	100% (12,290)
A. 大学で知識は増やせるが、元々の賢さは変わらないと思う B. 大学で努力して学習すれば、それに応じて賢くなると思う	15.8% (1,949)	23.3% (2,861)	34.6% (4,259)	26.3% (3,230)	100% (12,299)
A. 生成 AI にはデメリットが多く、教育・学習におけるさまざまなメリットに鑑みても、教育や学習に生成 AI を活用すべきではない B. 生成 AI にはメリットが多く、教育・学習におけるさまざまなデメリットに鑑みても、教育や学習に生成 AI を積極的に活用すべきである	5.0% (616)	17.7% (2,176)	44.6% (5,482)	32.7% (4,024)	100% (12,298)

Q16. あなたは大学（学部・大学院）での授業や研究・勉強が、あなたの今後の進路先で役に立つと思いますか。

思わない	どちらかというと思わない	どちらかというと思う	思う	合計
4.5% (551)	13.7% (1,687)	41.5% (5,104)	40.3% (4,963)	100.0% (12,305)

Q17. 【学部生のみ】あなたは大学に入学してからこれまでに、次のことをどれほど経験しましたか。

	全くなかった	あまりなかった	まあまああった	よくあった	合計
大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ	5.2% (496)	22.9% (2,182)	45.7% (4,363)	26.2% (2,505)	100.0% (9,546)
社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ	4.7% (453)	19.8% (1,891)	44.1% (4,209)	31.3% (2,990)	100.0% (9,543)
異文化について学ぶ	9.1% (872)	23.9% (2,284)	38.0% (3,622)	28.9% (2,761)	100.0% (9,539)
文理融合を意識して学ぶ	16.6% (1,585)	33.7% (3,211)	31.1% (2,967)	18.5% (1,766)	100.0% (9,529)
ボランティアについて学ぶ	39.5% (3,771)	34.0% (3,248)	17.4% (1,659)	9.0% (862)	100.0% (9,540)
将来に役立つ実践的な知識や技能を学ぶ（実験、実習、実技など）	11.9% (1,133)	25.9% (2,468)	38.6% (3,683)	23.6% (2,254)	100.0% (9,538)
キャリア形成について学ぶ	19.8% (1,892)	32.9% (3,139)	33.3% (3,176)	14.0% (1,334)	100.0% (9,541)
学術や研究の意義や役割について考える	8.0% (760)	21.3% (2,032)	44.0% (4,189)	26.7% (2,548)	100.0% (9,529)
授業を通じて問題や課題を考えたり、見出したりする	3.4% (327)	12.0% (1,148)	46.2% (4,406)	38.4% (3,661)	100.0% (9,542)

Q17. (続き)

	全くなかった	あまりなかった	まあまああった	よくあった	合計
問題や課題について改善策や解決策を考える	3.5% (331)	12.9% (1,225)	46.5% (4,433)	37.2% (3,541)	100.0% (9,530)
生成 AI を活用しながら学ぶ授業を受講する	28.5% (2,722)	29.1% (2,780)	28.5% (2,721)	13.8% (1,314)	100.0% (9,537)
授業時間中に他の学生と議論する	5.5% (524)	18.4% (1,759)	45.6% (4,347)	30.5% (2,906)	100.0% (9,536)
授業時間中に教員と議論する	21.0% (2,005)	35.7% (3,399)	30.2% (2,879)	13.1% (1,245)	100.0% (9,528)
授業で扱ったテーマについて、授業以外の時間で他の学生や教員と議論する	20.7% (1,978)	29.0% (2,765)	34.2% (3,256)	16.1% (1,534)	100.0% (9,533)
語学の授業以外で、外国語で議論や発表をする	42.3% (4,029)	22.5% (2,150)	21.0% (1,999)	14.2% (1,357)	100.0% (9,535)
多様な背景(国籍、言語、宗教など)を持った学生と交流する	28.0% (2,668)	27.4% (2,614)	26.7% (2,548)	17.9% (1,702)	100.0% (9,532)
授業の一環として大学外で学ぶ(フィールドワーク等)	42.7% (4,066)	24.1% (2,292)	21.4% (2,041)	11.9% (1,130)	100.0% (9,529)
よい教員に巡り合う	7.3% (698)	20.6% (1,957)	42.6% (4,053)	29.5% (2,813)	100.0% (9,521)

Q18. 【大学院生のみ】あなたは大学院に入学してからこれまでに、次のことをどれほど経験しましたか。

	全くなかった	あまりなかった	まあまああった	よくあった	合計
大学院での勉強の方法(スタディ・スキル)を学ぶ	4.9% (134)	14.0% (384)	38.7% (1,066)	42.4% (1,168)	100.0% (2,752)
社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ	4.3% (119)	13.4% (368)	38.9% (1,069)	43.4% (1,195)	100.0% (2,751)
異文化について学ぶ	14.3% (392)	22.8% (625)	30.8% (847)	32.1% (883)	100.0% (2,747)
ボランティアについて学ぶ	48.0% (1,319)	29.6% (815)	14.2% (391)	8.2% (225)	100.0% (2,750)
将来に役立つ実践的な知識や技能を学ぶ(実験、実習、実技など)	8.0% (220)	14.5% (398)	38.4% (1,057)	39.1% (1,076)	100.0% (2,751)
キャリア形成について学ぶ	13.5% (372)	25.9% (711)	36.9% (1,015)	23.7% (651)	100.0% (2,749)
学術や研究の意義や役割について考える	3.0% (82)	8.8% (241)	36.3% (998)	51.9% (1,428)	100.0% (2,749)
授業を通じて問題や課題を考えたり、見出したりする	2.8% (78)	8.5% (234)	38.4% (1,055)	50.3% (1,382)	100.0% (2,749)
問題や課題について改善策や解決策を考える	2.3% (64)	6.3% (174)	39.2% (1,076)	52.2% (1,434)	100.0% (2,748)
生成 AI を活用しながら学ぶ授業を受講する	33.6% (924)	24.1% (661)	25.2% (693)	17.1% (470)	100.0% (2,748)
研究成果を学外の学会で発表する	29.9% (820)	14.1% (388)	22.4% (616)	33.6% (923)	100.0% (2,747)

Q18. (続き)

	全くなかった	あまりなかった	まあまああった	よくあった	合計
研究成果を論文にまとめ学術雑誌に発表する	36.5% (1,004)	17.8% (488)	21.9% (601)	23.8% (655)	100.0% (2,748)
研究内容について、他の学生と議論する	6.3% (172)	11.1% (306)	32.7% (897)	49.9% (1,372)	100.0% (2,747)
研究内容について、指導教員と議論する	6.1% (168)	9.8% (269)	28.6% (786)	55.5% (1,523)	100.0% (2,746)
外国語で議論や発表をする	31.9% (876)	16.4% (451)	21.9% (603)	29.8% (818)	100.0% (2,748)
近い分野を研究する国内・海外の研究者と交流する	26.6% (730)	20.6% (564)	28.9% (792)	24.0% (658)	100.0% (2,744)
授業の一環として大学外で学ぶ（フィールドワーク等）	39.0% (1,073)	20.0% (550)	21.4% (588)	19.5% (537)	100.0% (2,748)
よい指導教員・副指導教員に巡り合う	5.8% (159)	10.3% (283)	30.5% (839)	53.4% (1,467)	100.0% (2,748)

Q19. 大学（大学院）入学以降のあなたについて、次のことはどれほどありましたか。

	全くなかった	あまりなかった	まあまああった	よくあった	合計
グループワークなどで授業に積極的に参加した	6.4% (781)	21.5% (2,631)	43.6% (5,349)	28.6% (3,503)	100.0% (12,264)
授業で積極的に質問した	15.1% (1,852)	39.1% (4,794)	28.2% (3,455)	17.6% (2,158)	100.0% (12,259)
課題は締切までに提出した	1.4% (171)	6.2% (756)	28.5% (3,496)	63.9% (7,833)	100.0% (12,256)
分からない点は教員に質問した	10.3% (781)	27.6% (2,631)	36.7% (5,349)	25.5% (3,503)	100.0% (12,264)
分からない点は友達に質問した	7.7% (781)	13.7% (2,631)	39.9% (5,349)	38.7% (3,503)	100.0% (12,264)
資料を作成し、発表した	4.2% (781)	11.6% (2,631)	37.3% (5,349)	46.8% (3,503)	100.0% (12,264)
理解できない点について、資料や動画を見返した	2.2% (781)	7.9% (2,631)	39.4% (5,349)	50.6% (3,503)	100.0% (12,264)
手帳やカレンダー等に課題提出期限をメモした	6.6% (781)	10.3% (2,631)	27.5% (5,349)	55.6% (3,503)	100.0% (12,264)
積極的な休養をとる時間を意識的につくった	9.4% (781)	22.1% (2,631)	34.1% (5,349)	34.4% (3,503)	100.0% (12,264)
できるだけ授業を休まないようにした	2.7% (781)	9.7% (2,631)	27.5% (5,349)	60.1% (3,503)	100.0% (12,264)
積極的に授業の予習・復習をした	7.0% (781)	26.5% (2,631)	39.2% (5,349)	27.4% (3,503)	100.0% (12,264)
勉強の妨げになるものを遠ざけた	20.6% (781)	37.1% (2,631)	27.2% (5,349)	15.1% (3,503)	100.0% (12,264)
時間を決めて勉強した	17.1% (781)	30.9% (2,631)	31.9% (5,349)	20.1% (3,503)	100.0% (12,264)

Q20. いま現在、次のようなこと（知識・能力）は、どれくらい身につけていると思いますか。

	身につかなか った	あまり身に つかなかった	やや身に ついていた	身についた	合計
新しいことに挑戦できる	2.2% (268)	11.3% (1,387)	51.7% (6,328)	34.8% (4,257)	100.0% (12,240)
既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	3.1% (375)	18.5% (2,263)	50.2% (6,138)	28.3% (3,458)	100.0% (12,234)
物事を論理的に考えることができる	1.7% (207)	8.9% (1,084)	49.3% (6,035)	40.1% (4,904)	100.0% (12,230)
課題の解決方法を提案できる	2.0% (245)	12.5% (1,523)	51.3% (6,268)	34.2% (4,186)	100.0% (12,222)
自分の考えを分かりやすく表現できる	2.8% (342)	16.7% (2,040)	50.5% (6,176)	30.0% (3,667)	100.0% (12,225)
相手の状況や考え方を尊重できる	1.7% (205)	7.9% (963)	45.5% (5,559)	45.0% (5,502)	100.0% (12,229)
物事を多面的に考えることができる	1.7% (208)	9.4% (1,151)	48.5% (5,933)	40.4% (4,942)	100.0% (12,234)
健全に批判することができる	2.6% (313)	16.2% (1,977)	51.2% (6,266)	30.1% (3,682)	100.0% (12,238)
公正な視点で多様性を受け入れられる	2.2% (263)	9.7% (1,180)	49.7% (6,075)	38.5% (4,709)	100.0% (12,227)
異文化を理解できる	4.2% (514)	16.3% (1,997)	44.8% (5,477)	34.7% (4,236)	100.0% (12,224)
外国語を理解し、話せる	11.7% (1,430)	30.3% (3,703)	36.8% (4,492)	21.2% (2,596)	100.0% (12,221)
公正で責任ある学術・研究活動ができる	4.3% (522)	17.8% (2,173)	50.0% (6,108)	28.0% (3,424)	100.0% (12,227)
自身の専門に関する知識	4.2% (512)	16.9% (2,065)	50.3% (6,149)	28.6% (3,493)	100.0% (12,219)

Q21. 次の能力について、あなたが大学（大学院）に入学した時点と比較して、最も向上したと考えるものを一つ選んでください。

新しいことに 挑戦できる	既存の考え 方にとらわ れず、新し いアイデー アを生み出 せる	物事を論理 的に考える こと ができる	課題の解決 方法を提案 できる	自分の考え を分かりや すく表現で きる	相手の状況 や考え方を 尊重 できる	物事を多面 的に考える こと ができる	合計
18.4% (642)	5.6% (196)	18.9% (660)	4.9% (171)	7.5% (262)	6.5% (227)	13.5% (472)	100.0% (3,495)
健全に批判 することがで きる	公正な視点 で多様性を 受け入れら れる	異文化を理 解 できる	外国語を理 解し、話せ る	公正で責任 ある学術・ 研究活動が できる	自身の専門 に関する知 識		
2.6% (90)	2.8% (99)	2.1% (75)	2.3% (80)	3.0% (106)	11.9% (415)		

Q22. これまでの大学（大学院）生活を振り返り、授業や学生生活等の満足度についてどのように評価しますか。

	参加／経験 していない	満足してい ない	あまり満足 していない	やや満足し ている	満足してい る	合計
一般教育科目	8.1% (991)	3.3% (397)	8.0% (976)	31.2% (3,810)	49.4% (6,035)	100.0% (12,209)
語学科目	9.6% (1,165)	5.9% (723)	16.0% (1,947)	30.3% (3,689)	38.2% (4,656)	100.0% (12,180)
専門科目	8.3% (1,015)	2.6% (313)	6.0% (734)	25.8% (3,139)	57.3% (6,973)	100.0% (12,174)
ゼミ・研究室	33.5% (4,071)	4.2% (511)	4.9% (590)	14.4% (1,753)	43.0% (5,217)	100.0% (12,142)
卒業論文（修士論文、博士論文）・卒業研究	44.4% (5,373)	5.3% (639)	5.0% (603)	15.1% (1,828)	30.3% (3,669)	100.0% (12,112)
図書館サービス（WINE、電子ジャーナル等を含む）	13.1% (1,601)	2.5% (310)	6.1% (740)	25.6% (3,124)	52.7% (6,422)	100.0% (12,197)
部活動やサークル活動	26.6% (3,247)	6.0% (727)	8.1% (986)	18.1% (2,205)	41.2% (5,020)	100.0% (12,185)
留学・海外研修	56.4% (6,837)	9.4% (1,134)	7.0% (847)	11.2% (1,362)	16.0% (1,943)	100.0% (12,123)
奨学金などの経済的支援	45.8% (5,548)	11.1% (1,345)	10.0% (1,207)	14.4% (1,747)	18.8% (2,278)	100.0% (12,125)
キャリア形成支援に関するサービス（就職活動の支援等を含む）	45.3% (5,491)	7.6% (924)	10.4% (1,267)	19.3% (2,345)	17.4% (2,107)	100.0% (12,134)
保健・健康に関するサービス	28.9% (3,521)	5.4% (658)	7.4% (904)	25.4% (3,091)	32.8% (3,992)	100.0% (12,166)
友人関係	11.1% (1,350)	3.2% (386)	6.9% (839)	23.2% (2,833)	55.7% (6,797)	100.0% (12,205)
教員との人間関係	8.9% (1,090)	4.8% (583)	11.7% (1,425)	33.6% (4,098)	40.9% (4,989)	100.0% (12,185)

Q23. あなたのこれまでの大学（大学院）生活全般について、10点満点で満足度得点をつけるとすれば、何点になりますか。

1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	合計
1.2% (150)	1.0% (117)	1.8% (223)	2.5% (308)	4.9% (599)	9.3% (1,144)	20.0% (2,451)	27.8% (3,413)	15.9% (1,947)	15.6% (1,919)	100.0% (12,271)

Q24. 学部・研究科には何年在籍していましたか。

学部4年

4年未満	4年	4年半～5年	5年半～6年	6年半以上	合計
4.6% (111)	82.9% (1,989)	9.3% (223)	1.8% (43)	1.4% (33)	100.0% (2,399)

修士2年

2年未満	2年	2年半～3年	3年半～4年	4年半～5年	5年半以上	合計
8.0% (83)	69.8% (721)	6.8% (70)	1.2% (12)	1.0% (10)	13.3% (137)	100.0% (1,033)

博士

2 年未満	2 年	2 年半～3 年	3 年半～4 年	4 年半～5 年	5 年半以上	合計
3.7% (3)	1.2% (1)	30.9% (25)	12.3% (10)	19.8% (16)	32.1% (26)	100.0% (81)

Q25. あなたは、以下の場面において生成 AI サービス（テキスト生成、画像生成、音声・音楽生成、映像生成など）をどのくらい使用していますか。

	全くない	月に 1 回程度ある	週に 1 回程度ある	週に複数回以上ある	合計
授業の学習	24.5% (2,144)	21.3% (1,870)	28.7% (2,517)	25.4% (2,228)	100.0% (8,759)
サークルなど課外活動	64.2% (5,613)	13.9% (1,218)	12.0% (1,046)	9.9% (868)	100.0% (8,745)
アルバイト	75.2% (6,570)	8.5% (745)	8.7% (758)	7.7% (669)	100.0% (8,742)
インターンシップ	75.6% (6,608)	7.9% (692)	8.8% (770)	7.7% (669)	100.0% (8,739)
趣味活動	47.1% (4,122)	18.7% (1,634)	17.8% (1,561)	16.4% (1,434)	100.0% (8,751)

Q26. あなたは、以下のような用途で生成 AI サービスを使用していますか。それぞれ最もあてはまるものを選択してください。

	全く使用しない	あまり使用しない	たまに使用する	よく使用する	合計
情報の検索	20.9% (1,830)	15.1% (1,321)	34.8% (3,046)	29.1% (2,547)	100.0% (8,744)
メールなどの短い文章の生成	36.9% (3,230)	17.2% (1,508)	25.3% (2,213)	20.6% (1,805)	100.0% (8,756)
アイデア出し・ブレインストーミング	25.6% (2,243)	15.2% (1,329)	33.9% (2,971)	25.2% (2,209)	100.0% (8,752)
レポート・企画書などの長い文章の作成	42.5% (3,723)	24.6% (2,158)	21.1% (1,847)	11.8% (1,029)	100.0% (8,757)
文章の要約・校正	28.6% (2,505)	13.4% (1,176)	31.3% (2,739)	26.6% (2,332)	100.0% (8,752)
外国語の文章の作成・翻訳	26.0% (2,276)	15.6% (1,368)	31.5% (2,757)	26.9% (2,352)	100.0% (8,753)
Excel の関数やマクロの作成	63.2% (5,533)	16.7% (1,459)	12.1% (1,059)	8.0% (700)	100.0% (8,751)
C、Java、Python などのプログラムの作成	61.6% (5,387)	12.4% (1,082)	14.1% (1,235)	12.0% (1,046)	100.0% (8,750)
画像・音楽・動画の作成	70.9% (6,203)	13.9% (1,217)	10.2% (893)	5.0% (437)	100.0% (8,750)
モデルのトレーニング等を通じた特定の用途のための生成 AI 開発	77.9% (6,813)	10.4% (911)	7.3% (635)	4.4% (389)	100.0% (8,748)

Q27. あなたは早稲田大学（大学院）のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を知っていますか。「大学（大学院）のディプロマ・ポリシー」「所属学部（研究科）のディプロマ・ポリシー」それぞれについてお答えください。

	そもそもディプロマ・ポリシーというものを知らない	知らない	あまり知らない	少し知っている	よく知っている	合計
早稲田大学（大学院）のディプロマ・ポリシー	35.3% (3,089)	16.3% (1,425)	22.1% (1,936)	19.7% (1,724)	6.6% (576)	100.0% (8,750)
学部（研究科）のディプロマ・ポリシー	35.0% (3,057)	15.5% (1,350)	21.4% (1,864)	20.7% (1,808)	7.4% (644)	100.0% (8,723)

Q28. 「大学（大学院）のディプロマ・ポリシー」および「所属学部（研究科）のディプロマ・ポリシー」の内容について、共感できるかどうか、それぞれについてお答えください。

	全く共感できない	あまり共感できない	少し共感できる	大いに共感できる	合計
早稲田大学（大学院）のディプロマ・ポリシー	12.6% (1,060)	15.7% (1,315)	54.6% (4,583)	17.2% (1,443)	100.0% (8,401)
学部（研究科）のディプロマ・ポリシー	12.7% (1,064)	14.9% (1,247)	54.0% (4,525)	18.5% (1,547)	100.0% (8,383)

3. キャリア志向・その他

Q29. 現在、あなたは学部・大学院卒業後、どのような進路を考えていますか。最もあてはまるものを選択してください。

民間企業	公務員	小中高教員	大学教員	早稲田大学の大学院進学	早稲田大学以外の大学院進学	研究所・シンクタンク	合計
45.0% (3,939)	5.8% (507)	2.0% (177)	3.6% (319)	11.8% (1,031)	5.3% (464)	1.7% (149)	100.0% (8,748)
起業、フリーランス・自営業	各種資格試験受験	留学	NGO、NPO	現在就職している	未定	その他（具体的に）	
2.4% (211)	2.6% (227)	1.2% (108)	0.4% (35)	4.2% (365)	12.5% (1,094)	1.4% (122)	

Q30. あなたの次の進路について、あてはまるものを選択してください。

民間企業に就職（復職等を含む）	公務員としてはたらく（復職等を含む）	学校教職員としてはたらく（復職等を含む）	自営業・フリーランス・家業に従事（復職等を含む）	NPO・NGO ではなく（復職等を含む）	本学の大学院に進学	合計
56.3% (1,971)	4.8% (168)	3.0% (105)	1.4% (48)	0.2% (6)	18.4% (644)	100.0% (3,503)
他大学の大学院・その他学校等に進学・留学	資格試験や海外留学の準備	既に仕事に就いている	まだ決まっていない	その他（具体的に）		
4.0% (139)	2.1% (74)	5.0% (175)	3.3% (115)	1.7% (58)		

Q31. 【既に仕事に就いている、もしくはまだ決まっていない、以外を選んだ場合のみ回答】あなたが次の進路を決定するにあたって最も重視したことは何ですか。

大学での専門分野との関連	業種	地域条件（勤務地・転勤の有無など）	規模	知名度やイメージ	国際性	合計
29.7% (947)	23.6% (753)	4.6% (145)	1.8% (56)	4.3% (138)	3.4% (108)	100.0% (3,184)
企業・組織の経営・運営方針	安定性	給与	本学卒業生の存在	勤務時間・休暇・福利厚生など	その他（具体的に）	
6.8% (215)	9.0% (285)	5.3% (170)	1.2% (37)	5.2% (164)	5.2% (166)	

Q32. あなたは、就職するうえで、次の点はどの程度重要だと思いますか。

	重要ではない	あまり重要ではない	やや重要	重要	合計
どの大学（大学院）を出たか	4.7% (570)	14.7% (1,782)	45.1% (5,483)	35.5% (4,321)	100.0% (12,156)
どの分野を専攻したか	5.0% (613)	19.7% (2,399)	39.4% (4,788)	35.8% (4,354)	100.0% (12,154)
どのくらい良い成績（GPA）を取ったか	16.5% (1,999)	38.4% (4,668)	33.3% (4,044)	11.8% (1,433)	100.0% (12,144)

Q33. あなたは、仕事や就職先にどのようなことを望みますか、A、B でより近い方をそれぞれ一つ選択してください。

	A に近い	やや A に近い	やや B に近い	B に近い	合計
A. あらかじめ決められたことを形にする B. 新しい商品やサービスを生み出す	12.1% (1,049)	23.9% (2,077)	34.6% (3,004)	29.4% (2,551)	100.0% (8,681)
A. 年齢や経験を重視した給与 B. 個人の業績や能力が大きく影響する給与	6.7% (578)	21.8% (1,896)	42.1% (3,656)	29.4% (2,551)	100.0% (8,681)
A. 残業が多くてもキャリアアップできる B. 残業が少なく自分の時間が持てる	9.7% (838)	17.9% (1,556)	34.6% (3,006)	37.8% (3,278)	100.0% (8,678)
A. ひとつの仕事で専門家になる B. いろいろな仕事を幅広く経験できる	19.5% (1,690)	27.9% (2,421)	31.9% (2,763)	20.8% (1,801)	100.0% (8,675)

Q34. 【既に仕事に就いている、もしくはまだ決まっていない、以外を選んだ場合のみ回答】あなたの次の進路の選択に対する満足度はどの程度ですか。

全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
2.8% (90)	7.4% (236)	39.8% (1,264)	49.9% (1,586)	100.0% (3,176)

Q35. あなたは現在、身体面・精神面で健康ですか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。この質問項目に回答したくない場合には、未回答のままで結構です。

	あまり健康ではない（勉学に支障を来すことが多い）	ほぼ健康である（月に1回程度支障がある）	健康である（勉学に支障がない）	とても健康である	合計
身体面	4.0% (339)	20.0% (1,700)	33.7% (2,860)	42.3% (3,594)	100.0% (8,493)
精神面	8.2% (699)	23.7% (2,009)	32.7% (2,774)	35.3% (2,994)	100.0% (8,476)

Q36. 現在、次のような不安や悩みがありますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。この質問項目に回答したくない場合には、未回答のままで結構です。

	全くない	あまりない	まあまあある	よくある	合計
大学を休学したい	69.2% (5,772)	16.7% (1,394)	9.8% (816)	4.3% (356)	100.0% (8,338)
大学を退学したい	84.3% (7,022)	10.1% (840)	3.7% (306)	1.9% (158)	100.0% (8,326)
他の大学に入り直したい	79.8% (6,644)	12.3% (1,025)	5.2% (431)	2.7% (224)	100.0% (8,324)
早稲田大学の他の学部・研究科や学科・専攻・コースに移りたい	69.6% (5,789)	16.0% (1,332)	10.1% (839)	4.3% (359)	100.0% (8,319)

Q37. 【学部生で、かつ大学院進学以外の進路を回答した場合のみ回答】あなたが大学院への進学をしなかった理由について、それぞれもっともあてはまるものを選択してください。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる	合計
早く社会に出て経済的に自立したいから	19.5% (473)	10.5% (254)	32.7% (794)	37.3% (905)	100.0% (2,426)
大学院在学中の経済的見通しが立たないから	30.6% (740)	22.0% (531)	24.2% (585)	23.2% (560)	100.0% (2,416)
進学によって就職の幅が狭まってしまうと感じるから	40.7% (981)	25.7% (619)	19.2% (464)	14.4% (348)	100.0% (2,412)
進学にかかる時間や負担と修了後の賃金などを比較してコストパフォーマンスが悪いと感じるから	27.0% (654)	17.1% (413)	28.1% (679)	27.8% (672)	100.0% (2,418)
大学院で何に取り組んだらよいのかよく分からないから	26.5% (641)	15.0% (363)	29.2% (704)	29.3% (707)	100.0% (2,415)
さらに研究したいと思えるようなテーマが見当たらないから	24.0% (579)	15.8% (382)	26.6% (641)	33.6% (812)	100.0% (2,414)
大学教員や研究職に魅力を感じないから	35.0% (843)	24.5% (590)	19.6% (473)	20.9% (504)	100.0% (2,410)
自分の成績では進学は難しいと感じるから	37.6% (906)	22.4% (539)	23.8% (575)	16.2% (391)	100.0% (2,411)
研究室・ゼミの環境が望ましくないから (指導教員との関係性、競争が激しい、ストレスが掛かるなど)	54.7% (1,319)	24.9% (601)	11.7% (282)	8.7% (210)	100.0% (2,412)

Q38. 【学部生で、かつ大学院進学以外の進路を回答した場合のみ回答】現時点で、一定期間が経過したのちに大学院（本学に限らず）に進学することを検討していますか。

検討しており、卒業・修了後のある程度具体的な計画を検討している	ある程度検討しているが、具体的には決めていない	全く可能性が無いわけではないが、あまり検討していない	一切検討しておらず、進学の可能性は低い	合計
10.3% (257)	17.4% (434)	32.6% (811)	39.7% (989)	100.0% (2,491)

Q39. 将来にわたるキャリア選択（転職など）に関する現時点でのあなたの考え方について、それぞれについてもっともあてはまるものを選択してください。

	全くそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う	合計
現時点で自分の明確なキャリアプランを持っている	10.6% (362)	31.7% (1,081)	40.6% (1,385)	17.1% (585)	100.0% (3,413)
良い勤務条件が見つければ、適切な時期に転職・キャリアチェンジもいとわない	4.6% (156)	13.1% (447)	44.8% (1,529)	37.5% (1,281)	100.0% (3,413)
正社員などの就業形態に関わらず、自分の望むはたらき方を選びたい	12.9% (439)	23.5% (801)	36.9% (1,258)	26.8% (913)	100.0% (3,411)
いつかは独立・起業してみたい	33.1% (1,127)	28.0% (953)	21.9% (748)	17.0% (581)	100.0% (3,409)
自分のためというよりも、他者のためになるような仕事をしたい	7.2% (246)	21.2% (723)	43.1% (1,467)	28.5% (969)	100.0% (3,405)
生成AI等の技術進展があまりに早いことから、自分の仕事が技術に置き換えられてしまうのではないかと今後自身のキャリアについて不安を感じる	28.4% (968)	35.0% (1,195)	26.0% (886)	10.6% (361)	100.0% (3,410)

Q40. 大学（大学院）の授業の中で、次に挙げるようなものを受講してみたかったと思いますか。

	全くそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う	合計
職業観・勤労観の育成を目的とした授業	12.0% (410)	24.2% (827)	41.3% (1,411)	22.4% (765)	100.0% (3,413)
具体的な資格取得・就職対策を目的とした授業	12.6% (430)	21.8% (743)	37.2% (1,269)	28.5% (972)	100.0% (3,414)
将来設計について学ぶ授業	9.9% (337)	19.0% (649)	42.3% (1,442)	28.8% (983)	100.0% (3,411)
企業関係者や卒業生からの講演を主とした授業	12.3% (420)	20.4% (696)	40.0% (1,363)	27.3% (931)	100.0% (3,410)
起業の方法に特化して学ぶ授業	28.5% (974)	27.5% (938)	27.0% (920)	17.0% (580)	100.0% (3,412)
短期・長期インターンシップを取り入れた授業	20.1% (687)	23.9% (815)	34.9% (1,192)	21.0% (717)	100.0% (3,411)

2024 年度 早稲田大学 学生生活・学修行動調査／卒業時調査 報告書
2025 年 12 月

早稲田大学 大学総合研究センター
(研究倫理番号：2020-169/2024-485)

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 (早稲田キャンパス 7 号館 4F)



WASEDA University
早稲田大学